
鳴門市 男女共同参画に関する 市民意識調査

— 報告書 —

令和2（2020）年3月
徳島県 鳴門市

～ 目 次 ～

I 調査計画	1
II 回答者の属性	2
III 調査結果	8
【1】男女平等意識について	8
1 男女の平等意識	8
2 家庭生活と男女の役割について	11
【2】職業生活について	14
1 女性の働きやすさ	14
2 職場での待遇等について	15
3 ライフステージの節目の働き方	17
4 仕事をやめた理由	18
5 望ましい女性の働き方	19
6 育児休業や介護休業の取得状況	22
7 男女が共に働きやすい社会環境をつくるために必要なこと	24
【3】家庭生活について	27
1 子育てと介護を同時に行うことについて	27
2 子育てと介護を同時に行っている人	27
3 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	28
4 家庭内の仕事の分担	29
5 理想的な家庭内の仕事の分担	30
6 家事に費やす時間	32
7 育児や介護に費やす時間	34
8 望ましい子どもの育て方	36
【4】地域での活動について	38
1 地域活動への参加状況	38
2 防災・災害復興対策で必要とされる女性の活躍	40
【5】暴力等の防止について	41
1 各種ハラスメントに関する経験等	41
2 DV経験者の相談状況	45
3 相談しなかった理由	46
4 DVに対する必要な取組	47
5 鳴門市女性子ども支援センター『ぱあとなー』の認知状況	49
6 鳴門市女性子ども支援センター『ぱあとなー』の利用意向	50
【6】性的マイノリティ「LGBT（Q+）」等について	51
1 「LGBT（Q+）」「性的マイノリティ」の認知状況	51
2 身近に性的マイノリティの当事者がいることについて	52

3 多様な性の人たちが暮らしやすい社会をつくるために必要な取組 ---	53
4 今後、鳴門市が取り組むべき人権課題 -----	54
【7】男女共同参画の取組について -----	56
1 男女共同参画に関連する広報等の認知状況 -----	56
2 男女共同参画に関連する情報等の有益度 -----	58
3 男女共同参画に関するセミナー等への参加意向 -----	59
4 男女共同参画に関する用語の認知状況 -----	60
5 男女共同参画の推進に行政が力を入れるべきこと -----	62
6 行政に対する女性の意見の反映について -----	66
【8】自由記述回答集約結果 -----	67

資料 調査票 -----	72
---------------------	-----------

I 調査計画

【調査の目的】

本調査は、「鳴門パートナーシッププラン（鳴門市男女行動計画）」の見直しに当たって、市民の男女共同参画に関する意識や実態、問題点や意見等を把握し、今後の計画づくりのための基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

18歳以上の市民

【調査方法】

郵送配布～郵送回収

【調査期間】

令和元（2019）年12月

【回収結果】

配布数 ----- 2,000件

有効回収数 ----- 523件

有効回収率 ----- 26.2%

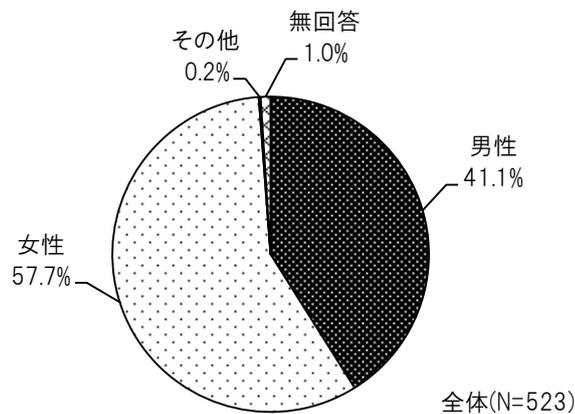
【報告書の見方について】

- （1）集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- （2）2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- （3）数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- （4）図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- （5）図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- （6）この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

II 回答者の属性

1 性別構成

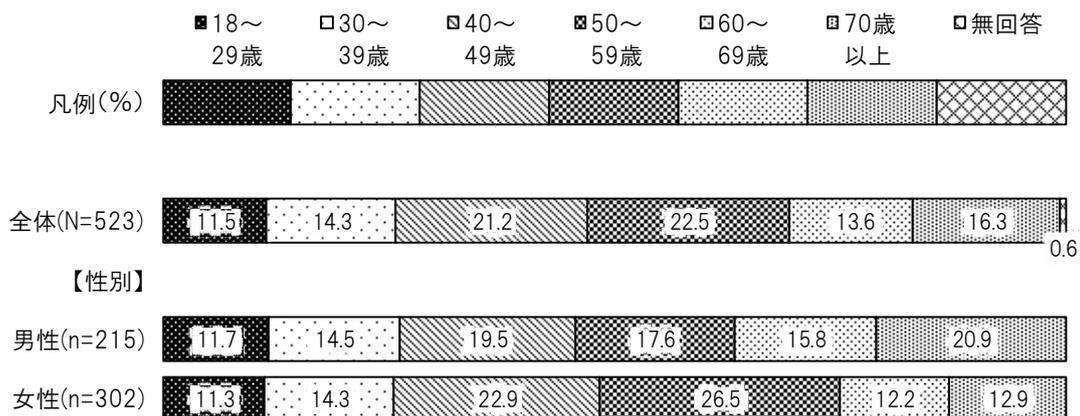
回答者の性別構成比は、「男性」が 41.1%、「女性」が 57.7%と、女性の割合が男性を上回っている。



2 年齢別構成

年齢別構成は、「50～59 歳」が 22.5%と最も高く、ほぼ並んで「40～49 歳」(21.2%)が続いている。

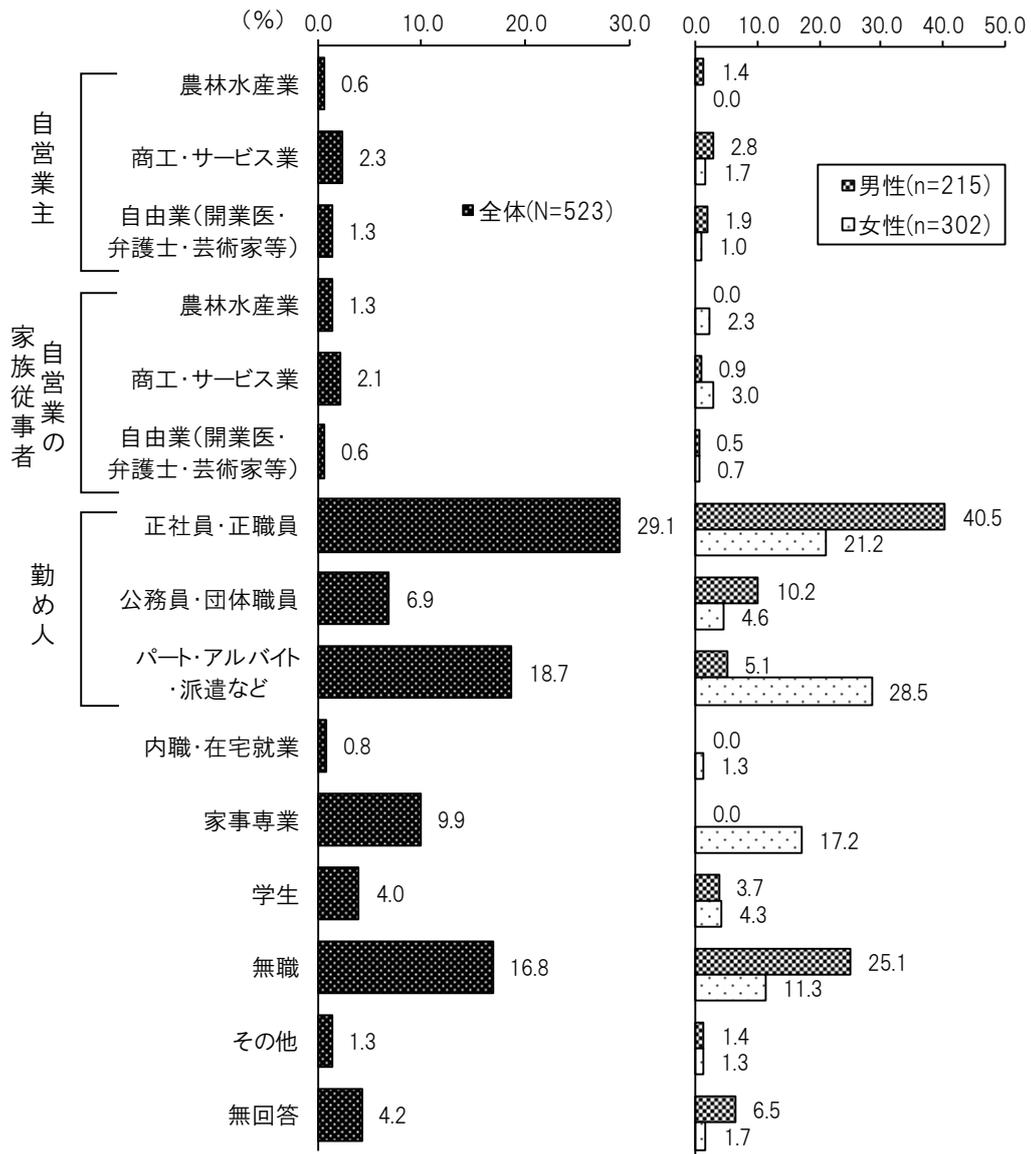
性別では、男性は女性に比べ「70 歳以上」の割合が高く、女性は「50～59 歳」の割合が男性を上回っている。



3 職業別構成

職業別構成については、「正社員・正職員」の割合が29.1%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣など」（18.7%）、「無職」（16.8%）の順となっている。

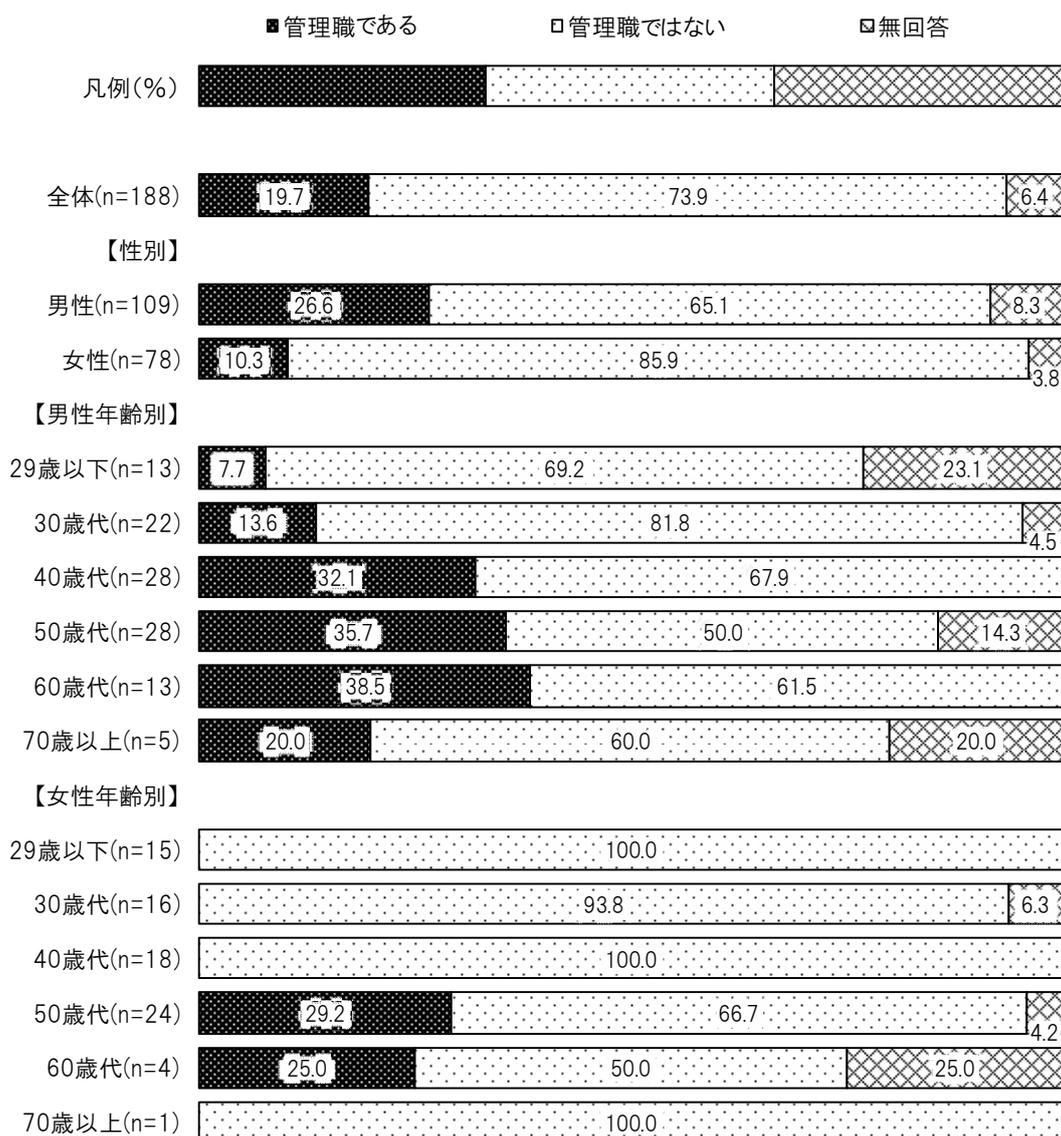
性別では、男性は女性に比べ「正社員・正職員」「公務員・団体職員」「無職」などの割合が高く、女性は「パート・アルバイト・派遣など」「家事専業」の割合が男性を大きく上回っている。



4 管理職

管理職については、「管理職である」が19.7%、「管理職ではない」が73.9%となっている。「管理職である」の割合は、男性が26.6%と、女性の10.3%を大きく上回っている。

性年齢別では、男性は40～60歳代で「管理職である」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



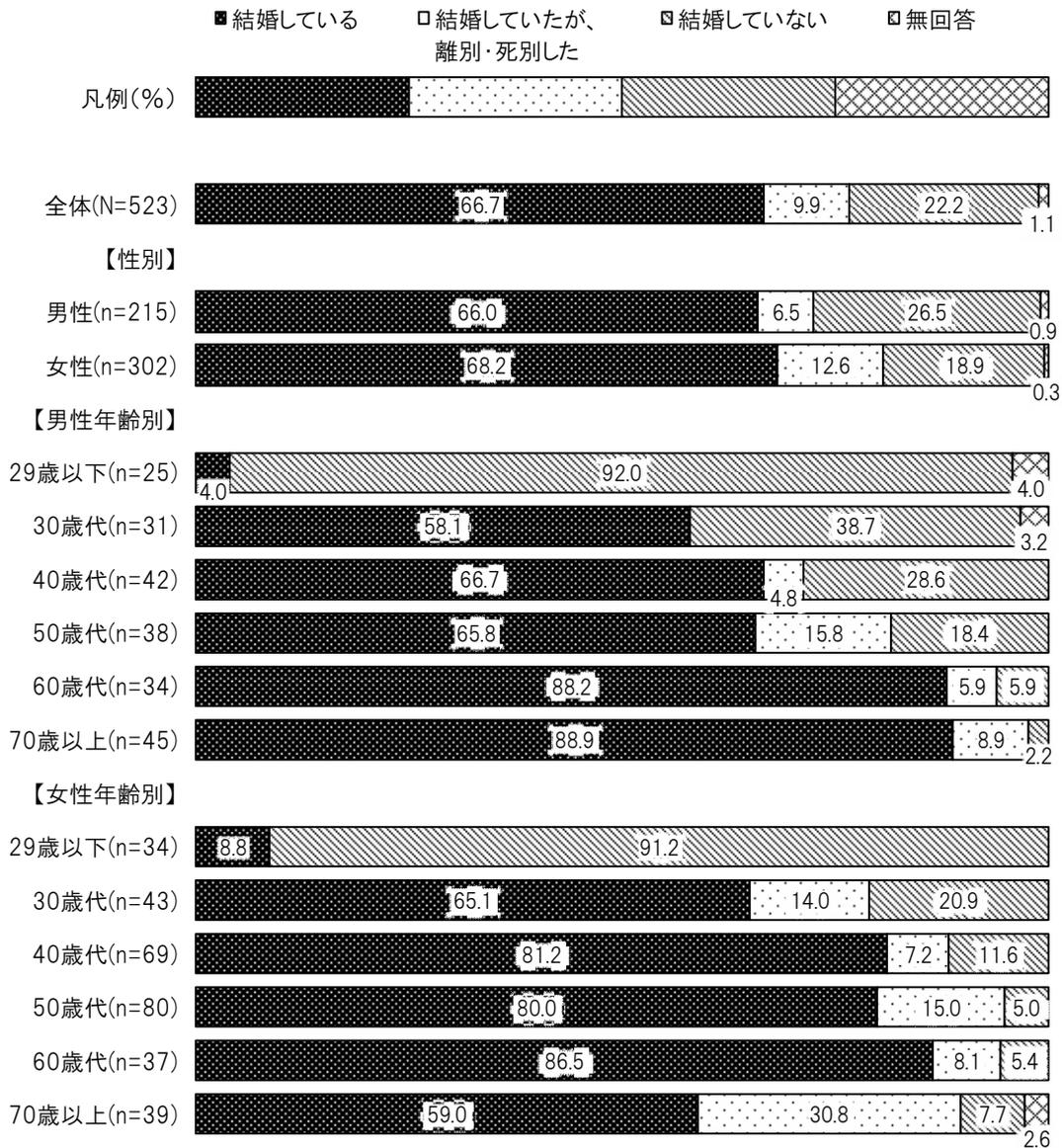
注: 件数(n)が10未満の項目については、参考値として参照。

5 未既婚

未既婚については、「結婚している」割合が 66.7%と最も高く、「結婚していない」割合が 22.2%となっている。また、「結婚していたが、離別・死別した」割合は約 1割 (9.9%) みられた。

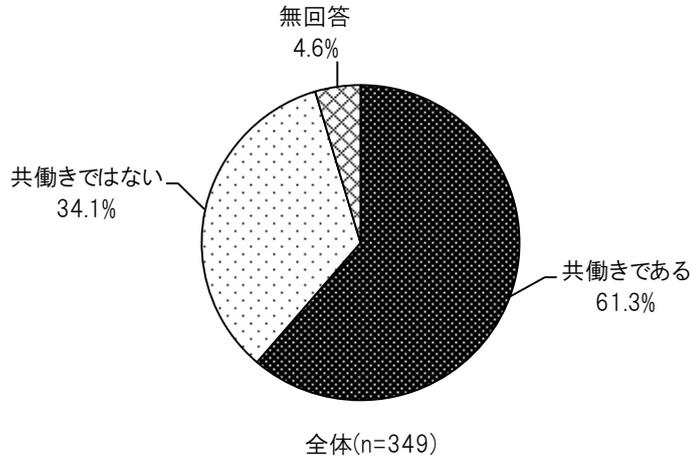
性別では、男性は女性に比べ「結婚していない」割合が高く、女性は「結婚していたが、離別・死別した」割合が男性を上回っている。

性年齢別では、男女共に、30歳代以上になると「結婚している」割合が高くなっている。



6 共働きの状況

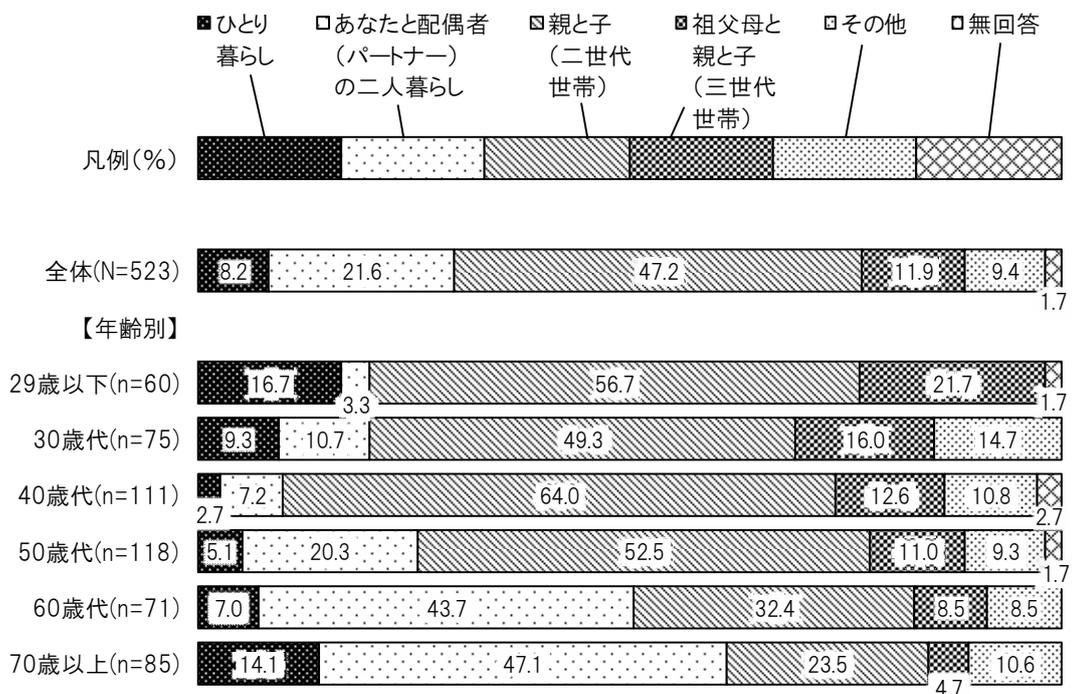
共働きの状況については、「共働きである」が61.3%、「共働きではない」が34.1%となっている。



7 同居家族の構成

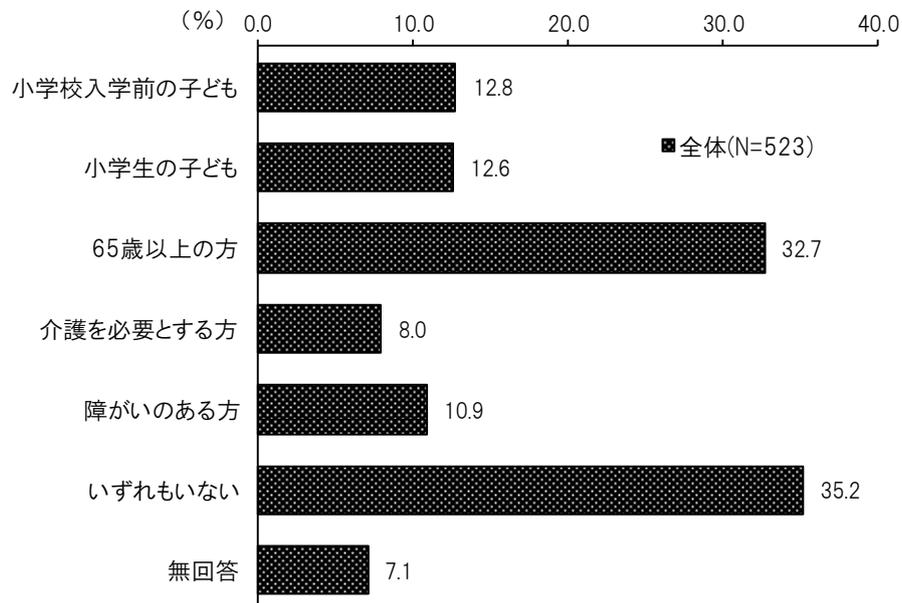
同居家族の構成については、「親と子（二世世代世帯）」の割合が約半数（47.2%）と最も高く、次いで「あなたと配偶者（パートナー）の二人暮らし」（21.6%）が続いている。

年齢別では、若い年齢層ほど「祖父母と親と子（三世世代世帯）」の割合が増える傾向にあり、29歳以下や70歳以上で「ひとり暮らし」、60歳代以上で「あなたと配偶者（パートナー）の二人暮らし」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



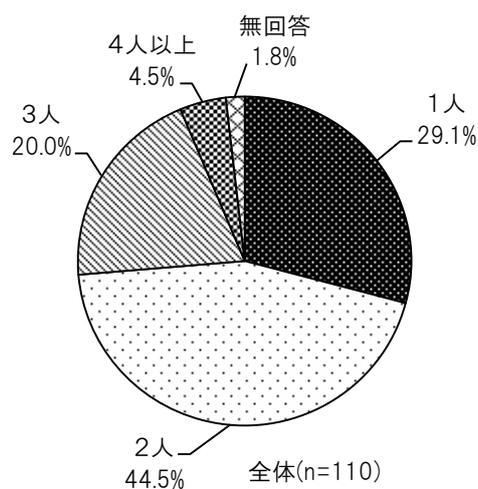
8 同居している家族について

同居している家族については、「いずれもない」が 35.2%と最も高く、次いで「65歳以上の方」が 32.7%となっている。



9 同居している子どもの人数

同居している子どもの人数については、「2人」が 44.5%と最も高く、次いで「1人」(29.1%)、「3人」(20.0%)となっている。



Ⅲ 調査結果

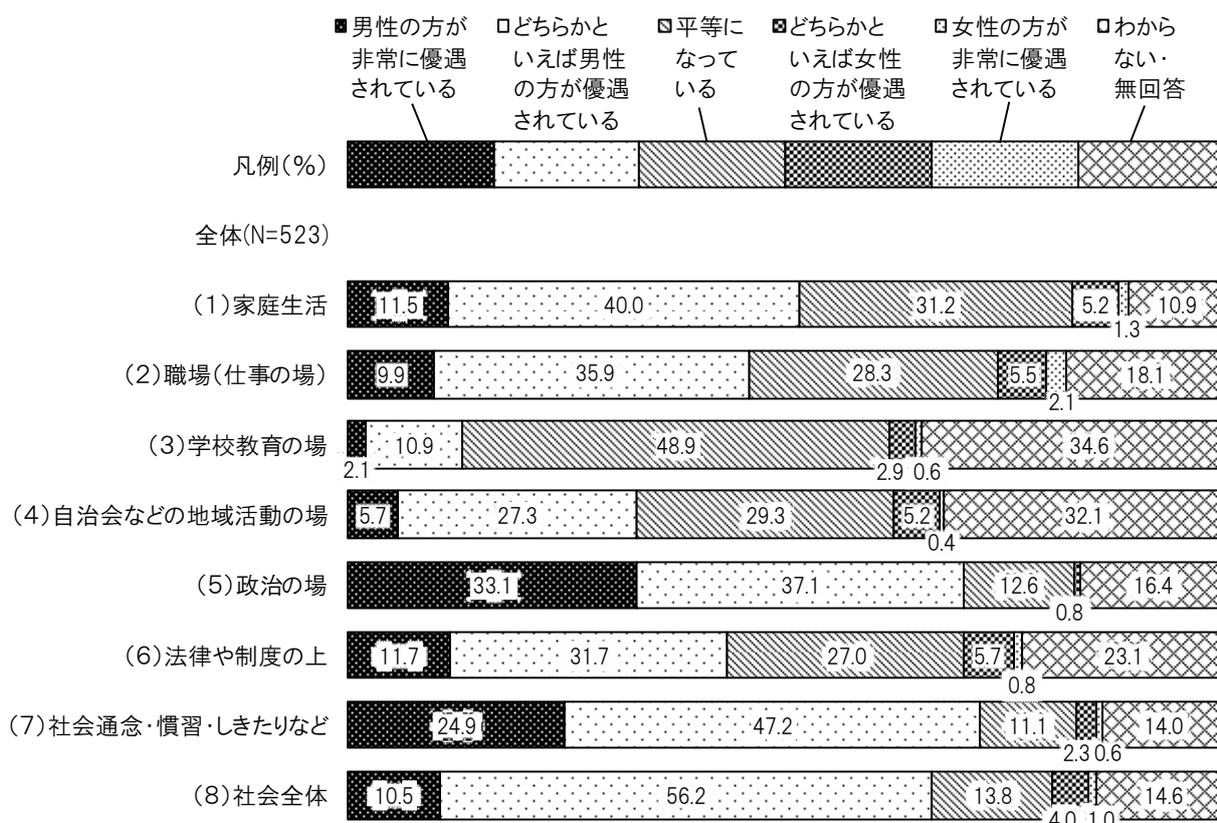
【1】男女平等意識について

1 男女の平等意識

問9 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。
 (1)から(8)までの項目について、それぞれお答えください。(○印1つずつ)

男女の平等意識については、全ての分野において、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の割合が『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）の割合を上回っている。特に、「(7) 社会通念・慣習・しきたりなど」（72.1%）、「(5) 政治の場」（70.2%）、「(8) 社会全体」（66.7%）で『男性優遇』の割合が高くなっている。

一方、「平等になっている」割合が高い分野としては、「(3) 学校教育の場」（48.9%）があげられる。

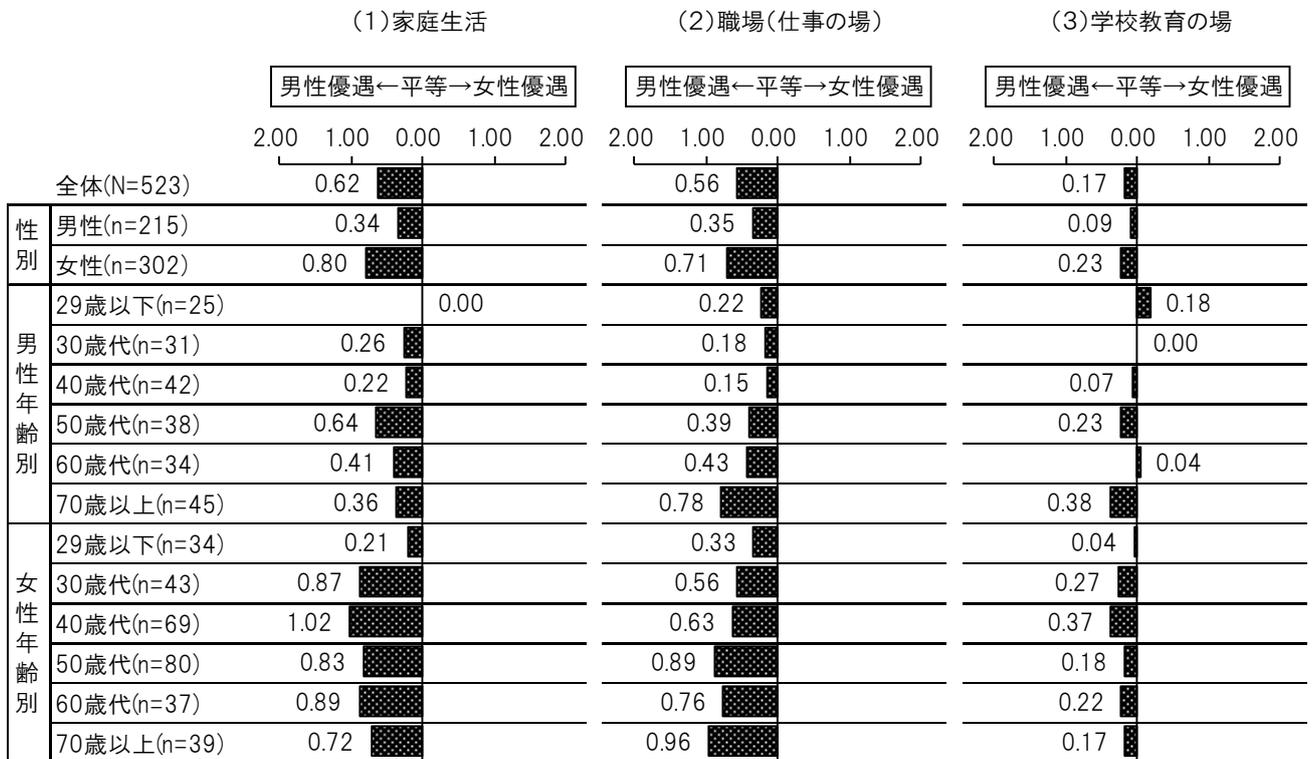


平均評定値^注による属性別傾向をみると、全ての分野において、女性は男性に比べ『男性優遇』意識が高くなっており、特に「(1)家庭生活」「(6)法律や制度の上」「(8)社会全体」などで男性の割合を大きく上回っている。

性年齢別では、男性は50歳代で「(1)家庭生活」、70歳以上で「(2)職場(仕事の間)」で『男性優遇』意識が高く、女性はおおむね年齢が上がるほど「(2)職場(仕事の間)」で『男性優遇』意識が高くなっている。また、男女共に29歳以下では「(1)家庭生活」で『平等』意識が高くなっている。

注:平均評定値

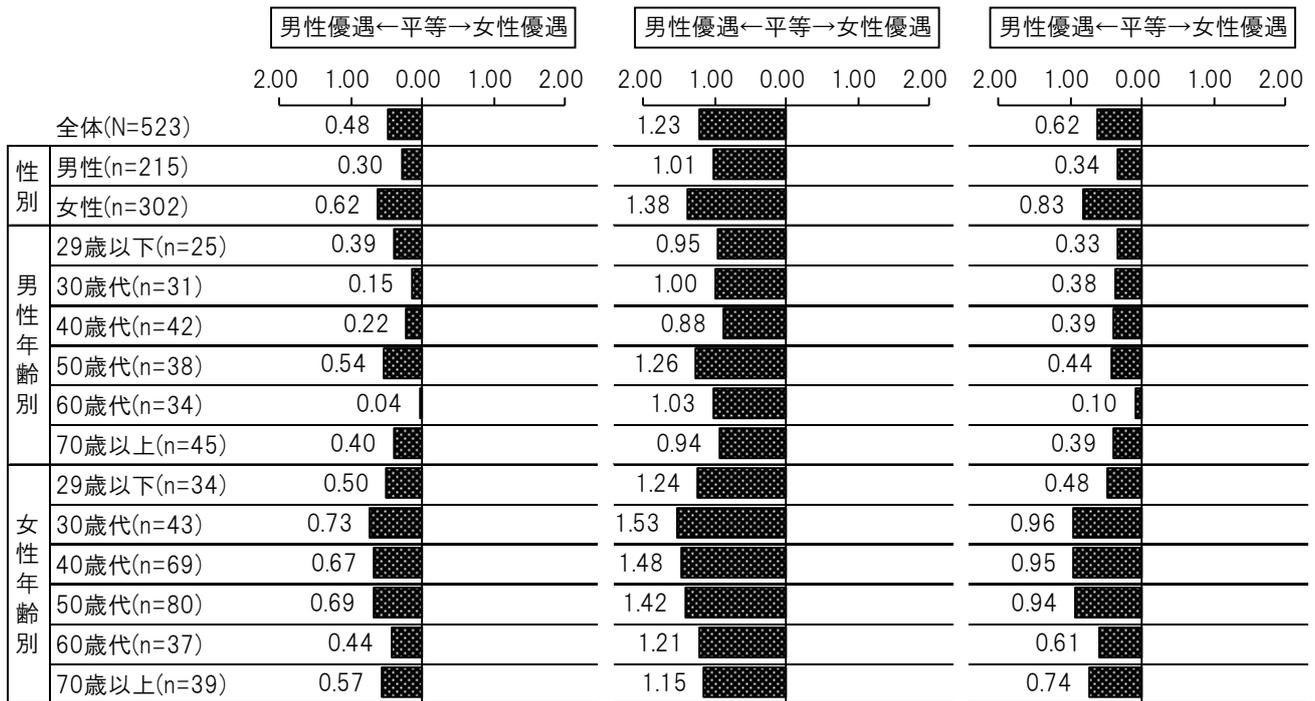
平均評定値とは、男性、女性それぞれについて「非常に優遇されている」に2点、「どちらかといえば優遇されている」に1点、「平等」に0点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ加重平均して算出した値で、グラフ上では0を中心として左側が男性優遇、右側が女性優遇、0に近いほど平等を示す指標である。



(4) 自治会などの地域活動の場

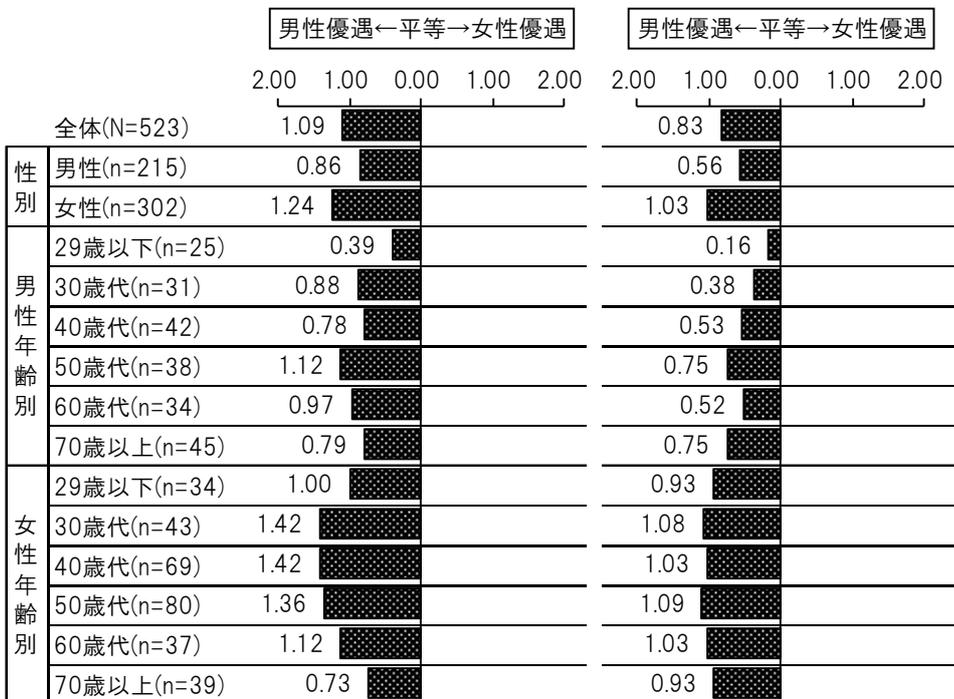
(5) 政治の場

(6) 法律や制度の上



(7) 社会通念・慣習・しきたりなど

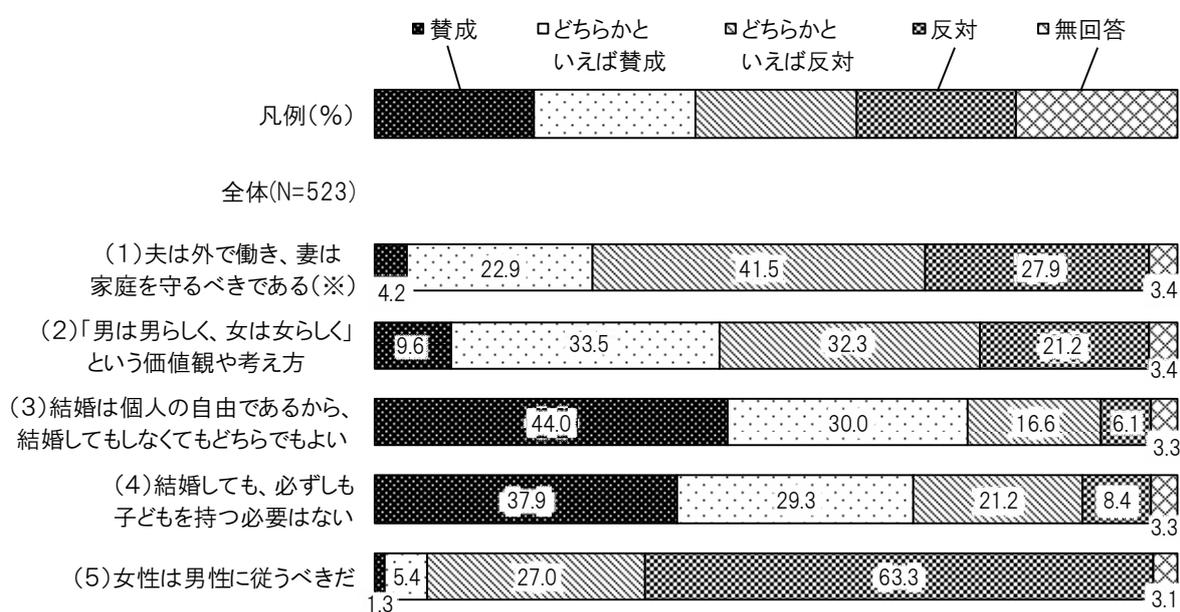
(8) 社会全体



2 家庭生活と男女の役割について

問 10 あなたは、次の(1)から(5)までの考え方について、どのように思いますか。
(○印1つずつ)

家庭生活と男女の役割については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した『賛成意識』の割合が高い項目として、「(3)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(74.0%)、「(4)結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」(67.2%)があげられる。一方、「どちらかといえば反対」と「反対」を合計した『反対意識』の割合が高い項目として、「(5)女性は男性に従うべきだ」(90.3%)があげられる。

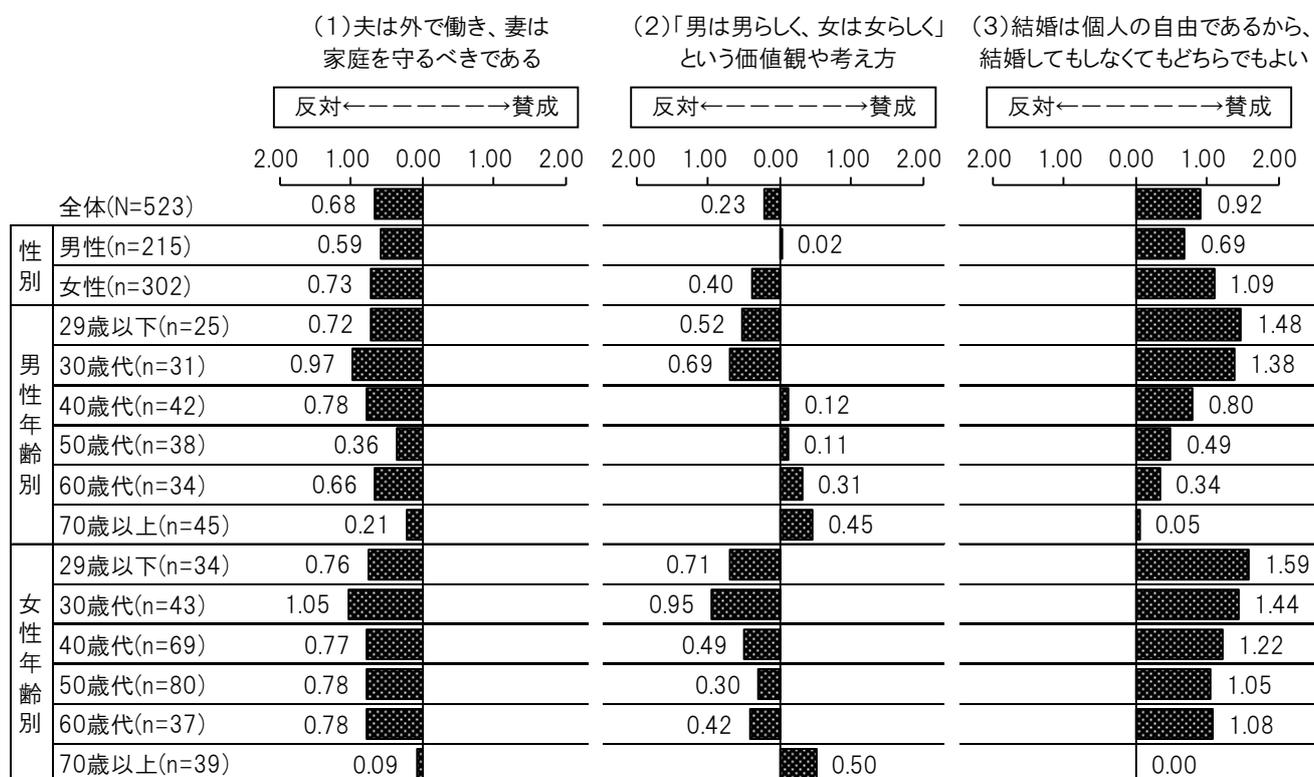


※(1)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(「男は仕事、女は家庭(家事・育児など)」という考え方)

平均評定値^注による属性別傾向をみると、男性は若い年齢層ほど「(3)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「(4)結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」の『賛成意識』が高くなる傾向があり、40歳代以上で「(2)男は男らしく、女は女らしくという価値観や考え方」の『賛成意識』が高くなっている。また、女性は30歳代以下で「(4)結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」の『賛成意識』が高く、おおむね若い年齢層ほど「(2)男は男らしく、女は女らしくという価値観や考え方」の『反対意識』が高くなる傾向がある。

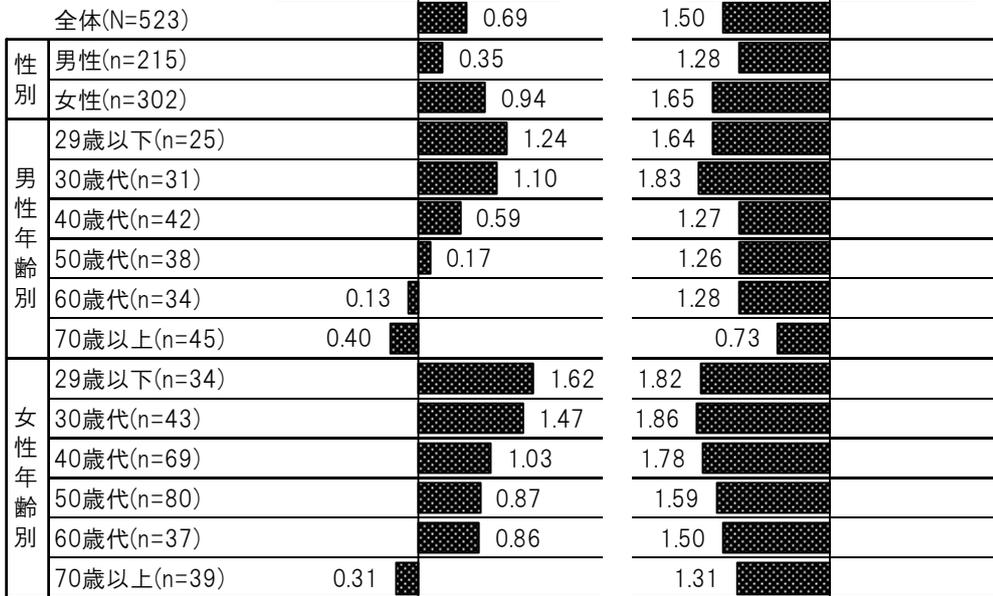
注:平均評定値

平均評定値とは、「賛成」「反対」に2点、「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」に1点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、グラフ上では0を中心として左側が反対、右側が賛成を示す指標である。



(4)結婚しても、必ずしも
子どもを持つ必要はない

(5)女性は男性に従うべきだ



【2】職業生活について

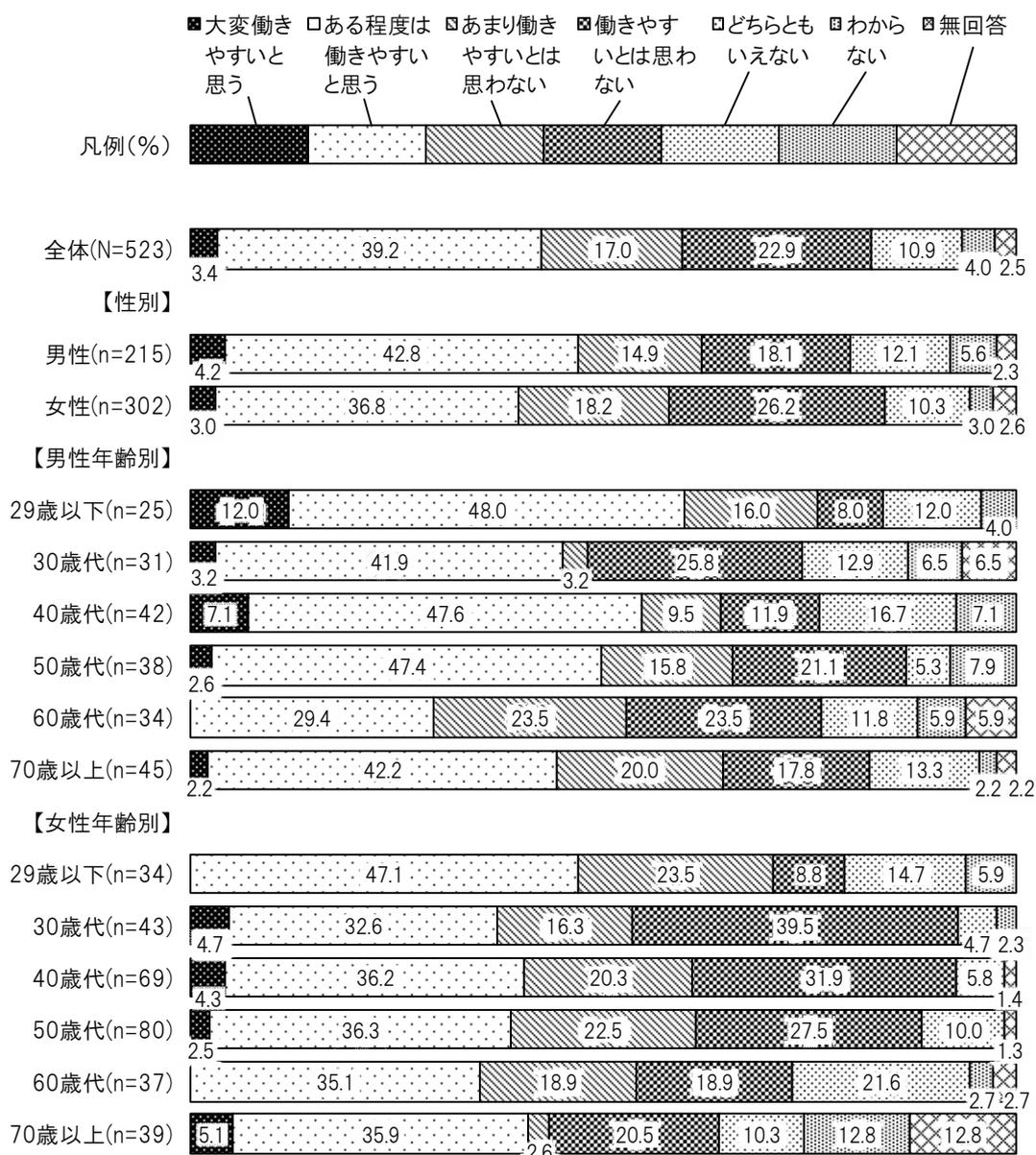
1 女性の働きやすさ

問 11 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(○印1つ)

女性の働きやすさについては、「大変働きやすいと思う」が3.4%、「ある程度は働きやすいと思う」が39.2%で、合計42.6%が『働きやすいと思う』と回答している。一方、「あまり働きやすいとは思わない」(17.0%)、「働きやすいとは思わない」(22.9%)の合計は39.9%であった。

性別では、男性は女性に比べ「ある程度は働きやすいと思う」の割合が高く、女性は「働きやすいとは思わない」の割合が男性を上回っている。

性年齢別では、男女共に29歳以下で『働きやすいと思う(合計)』、女性の30~50歳代で『働きやすいとは思わない(合計)』の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

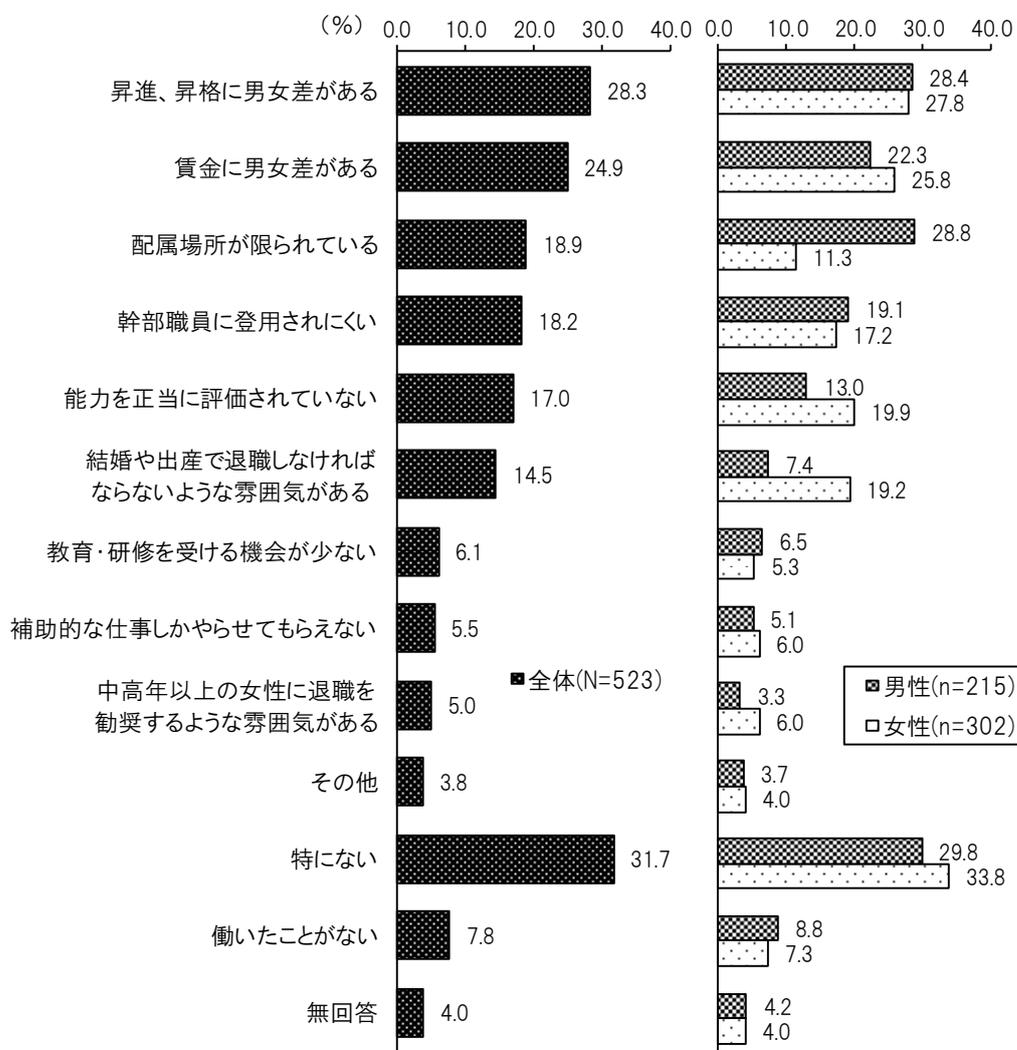


2 職場での待遇等について

問 12 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか（または、ありましたか）。（〇印いくつでも）
 ※働いたことがない方は、「12」を選択してください。

職場での待遇等については、「昇進、昇格に男女差がある」の割合が28.3%と最も高く、次いで「賃金に男女差がある」(24.9%)、「配属場所が限られている」(18.9%)、「幹部職員に登用されにくい」(18.2%)、「能力を正當に評価されていない」(17.0%)の順となっている。一方、約3割(31.7%)は「特にない」と回答している。

性別では、男性は「配属場所が限られている」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「能力を正當に評価されていない」「結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある」などの割合が高くなっている。



性年齢別では、男性は60歳代で「配属場所が限られている」「幹部職員に登用されにくい」、60歳代以上で「昇進、昇格に男女差がある」、70歳以上で「賃金に男女差がある」の割合が高く、女性は30歳代で「配属場所が限られている」、50歳代で「昇進、昇格に男女差がある」、50歳代や70歳以上で「賃金に男女差がある」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。一方、男女共に40歳代以下の年齢層で「特にない」の割合が高くなっている。

単位 (%)	昇進、昇格に男女差がある	賃金に男女差がある	配属場所が限られている	幹部職員に登用されにくい	能力を正當に評価されていない	結婚や出産で退職しなげればならないような雰囲気がある	教育・研修を受ける機会が少ない	補助的な仕事しかやらせてもらえない	中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある	その他	特にない	働いたことがない
全体(N=523)	28.3	24.9	18.9	18.2	17.0	14.5	6.1	5.5	5.0	3.8	31.7	7.8
【男性年齢別】												
29歳以下(n=25)	16.0	16.0	16.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	44.0	24.0
30歳代(n=31)	22.6	9.7	22.6	12.9	6.5	6.5	3.2	3.2	0.0	6.5	35.5	6.5
40歳代(n=42)	16.7	14.3	23.8	11.9	4.8	2.4	4.8	9.5	2.4	2.4	40.5	9.5
50歳代(n=38)	26.3	28.9	34.2	18.4	18.4	10.5	5.3	2.6	5.3	2.6	26.3	10.5
60歳代(n=34)	41.2	23.5	41.2	38.2	17.6	8.8	11.8	2.9	2.9	2.9	20.6	0.0
70歳以上(n=45)	42.2	35.6	31.1	24.4	22.2	11.1	8.9	6.7	6.7	6.7	17.8	6.7
【女性年齢別】												
29歳以下(n=34)	5.9	8.8	2.9	0.0	2.9	11.8	2.9	0.0	2.9	0.0	50.0	32.4
30歳代(n=43)	32.6	27.9	18.6	23.3	27.9	25.6	9.3	7.0	4.7	4.7	39.5	0.0
40歳代(n=69)	23.2	15.9	10.1	18.8	15.9	24.6	4.3	5.8	4.3	2.9	37.7	4.3
50歳代(n=80)	38.8	36.3	12.5	21.3	26.3	21.3	5.0	7.5	8.8	7.5	26.3	2.5
60歳代(n=37)	24.3	24.3	8.1	21.6	13.5	16.2	5.4	5.4	10.8	5.4	29.7	10.8
70歳以上(n=39)	30.8	35.9	12.8	10.3	25.6	7.7	5.1	7.7	2.6	0.0	25.6	5.1

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計(年齢別など)において最も高い割合を示している。

(例/年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。

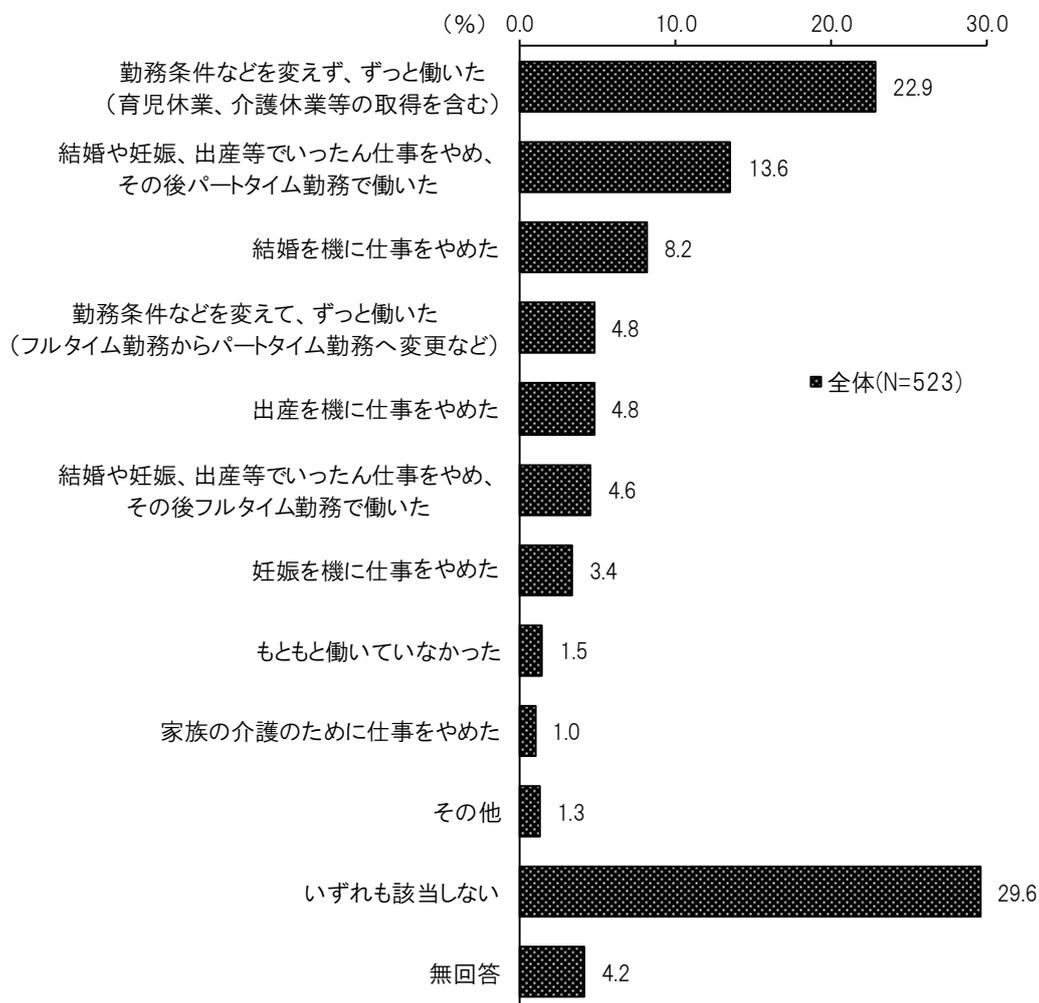
また「無回答」は表記から省略している。(本報告書においては、以下同様)

3 ライフステージの節目の働き方

問 13 あなた、またはあなたの配偶者（パートナー）は、結婚や妊娠、出産、家族の介護などの節目に、どのような働き方を選びましたか。過去の経験を含めてお答えください。（○印1つ）※いずれにも該当しない場合は、「11」を選択してください。

ライフステージの節目の働き方については、「勤務条件などを変えず、ずっと働いた（育児休業、介護休業等の取得を含む）」の割合が 22.9%と最も高く、次いで「結婚や妊娠、出産等でいったん仕事をやめ、その後パートタイム勤務で働いた」（13.6%）、「結婚を機に仕事をやめた」（8.2%）の順となっている。

また、ライフステージの節目に「仕事をやめた」または「いったん仕事をやめた」と回答した人は、合計で3割以上（35.6%）となっている。

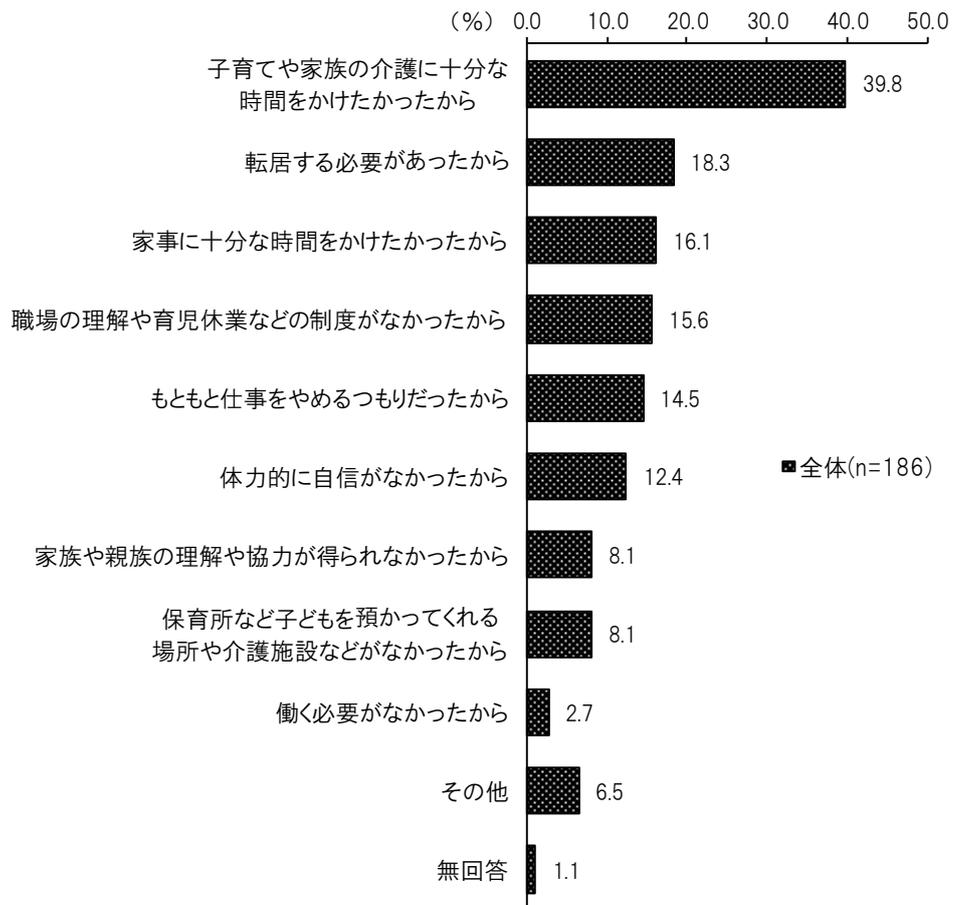


4 仕事をやめた理由

【問 13 で「3～8」と答えた方のみにおたずねします。】

問 14 仕事をやめた理由は何ですか。（○印いくつでも）

仕事をやめた理由については、「子育てや家族の介護に十分な時間をかけたかったから」の割合が 39.8%と最も高く、次いで「転居する必要があったから」(18.3%)、「家事に十分な時間をかけたかったから」(16.1%)、「職場の理解や育児休業などの制度がなかったから」(15.6%)、「もともと仕事をやめるつもりだったから」(14.5%)の順となっている。

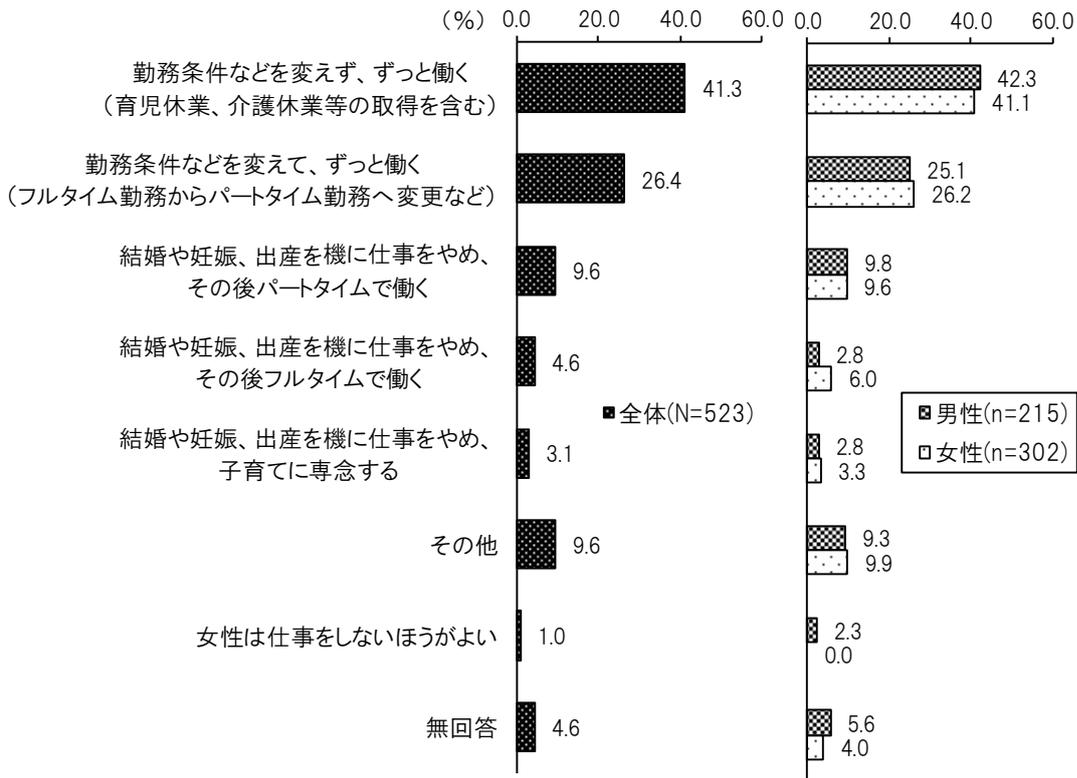


5 望ましい女性の働き方

問 15 あなたは、どのような女性の働き方が望ましいと思いますか。（○印1つ）

望ましい女性の働き方については、「勤務条件などを変えず、ずっと働く（育児休業、介護休業等の取得を含む）」の割合が41.3%と最も高く、次いで「勤務条件を変えて、ずっと働く（フルタイム勤務からパートタイム勤務へ変更など）」(26.4%)、「結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、その後パートタイムで働く」(9.6%)の順となっている。

性別では、大きな差はみられない。



性年齢別では、男性の60歳代で「勤務条件などを変えず、ずっと働く（育児休業、介護休業等の取得を含む）」、女性の40歳代で「勤務条件などを変えて、ずっと働く（フルタイム勤務からパートタイム勤務へ変更など）」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	勤務条件などを変えず、ずっと働く（育児休業、介護休業等の取得を含む）	勤務条件などを変えて、ずっと働く（フルタイム勤務からパートタイム勤務へ変更など）	結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、その後パートタイムで働く	結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、その後フルタイムで働く	結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、子育てに専念する	その他	女性は仕事をしないほうがよい
全体(N=523)	41.3	26.4	9.6	4.6	3.1	9.6	1.0
【男性年齢別】							
29歳以下(n=25)	36.0	28.0	12.0	4.0	0.0	20.0	0.0
30歳代(n=31)	41.9	22.6	6.5	0.0	0.0	19.4	0.0
40歳代(n=42)	45.2	21.4	7.1	9.5	4.8	7.1	4.8
50歳代(n=38)	36.8	31.6	13.2	2.6	0.0	2.6	0.0
60歳代(n=34)	50.0	26.5	2.9	0.0	5.9	8.8	0.0
70歳以上(n=45)	42.2	22.2	15.6	0.0	4.4	4.4	6.7
【女性年齢別】							
29歳以下(n=34)	38.2	23.5	11.8	8.8	8.8	5.9	0.0
30歳代(n=43)	41.9	23.3	4.7	0.0	4.7	23.3	0.0
40歳代(n=69)	37.7	36.2	11.6	4.3	0.0	10.1	0.0
50歳代(n=80)	43.8	26.3	8.8	6.3	1.3	10.0	0.0
60歳代(n=37)	43.2	24.3	13.5	8.1	0.0	5.4	0.0
70歳以上(n=39)	41.0	15.4	7.7	10.3	10.3	2.6	0.0

【ライフステージの節目の働き方（問13）と望ましいと思う女性の働き方（問15）の比較】

ライフステージの節目の働き方（現実）と望ましいと思う女性の働き方（理想）を比較すると、勤務条件などを変えず、ずっと働く（育児休業等の取得を含む）ことを望ましいと思う層では3割以上（34.3%）が「勤務条件などを変えず、ずっと働いた（育児休業、介護休業等の取得を含む）」と回答している。また、勤務条件などを変えて、ずっと働く（パートへ変更など）ことを望ましいと思う層では、合計約4割（42.0%）が「仕事をやめた」または「いったん仕事をやめた」と回答している。

単位 (%)	育児休業、介護休業等の取得を含む	結婚や妊娠、出産等でいったん仕事をやめ、その後パートタイム勤務で働いた	結婚を機に仕事をやめた	勤務条件などを変えて、ずっと働いた（フルタイム勤務からパートタイム勤務へ変更など）	出産を機に仕事をやめた	結婚や妊娠、出産等でいったん仕事をやめ、その後フルタイム勤務で働いた	妊娠を機に仕事をやめた	もともと働いていなかった	家族の介護のために仕事をやめた	いずれも該当しない
全体(N=523)	22.9	13.6	8.2	4.8	4.8	4.6	3.4	1.5	1.0	29.6
【望ましいと思う女性の働き方別(問15)】										
勤務条件などを変えず、ずっと働く(n=216)	34.3	9.3	7.9	3.7	4.2	4.2	2.8	0.5	0.5	29.6
勤務条件などを変えて、ずっと働く(n=138)	17.4	18.8	8.7	7.2	5.8	2.9	5.1	2.2	0.7	27.5
結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、その後フルタイムで働く(n=24)	8.3	25.0	8.3	4.2	4.2	20.8	0.0	0.0	0.0	29.2
結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、その後パートタイムで働く(n=50)	12.0	16.0	8.0	4.0	8.0	4.0	2.0	2.0	4.0	34.0
結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、子育てに専念する(n=16)	12.5	6.3	6.3	18.8	6.3	6.3	0.0	6.3	0.0	37.5

6 育児休業や介護休業の取得状況

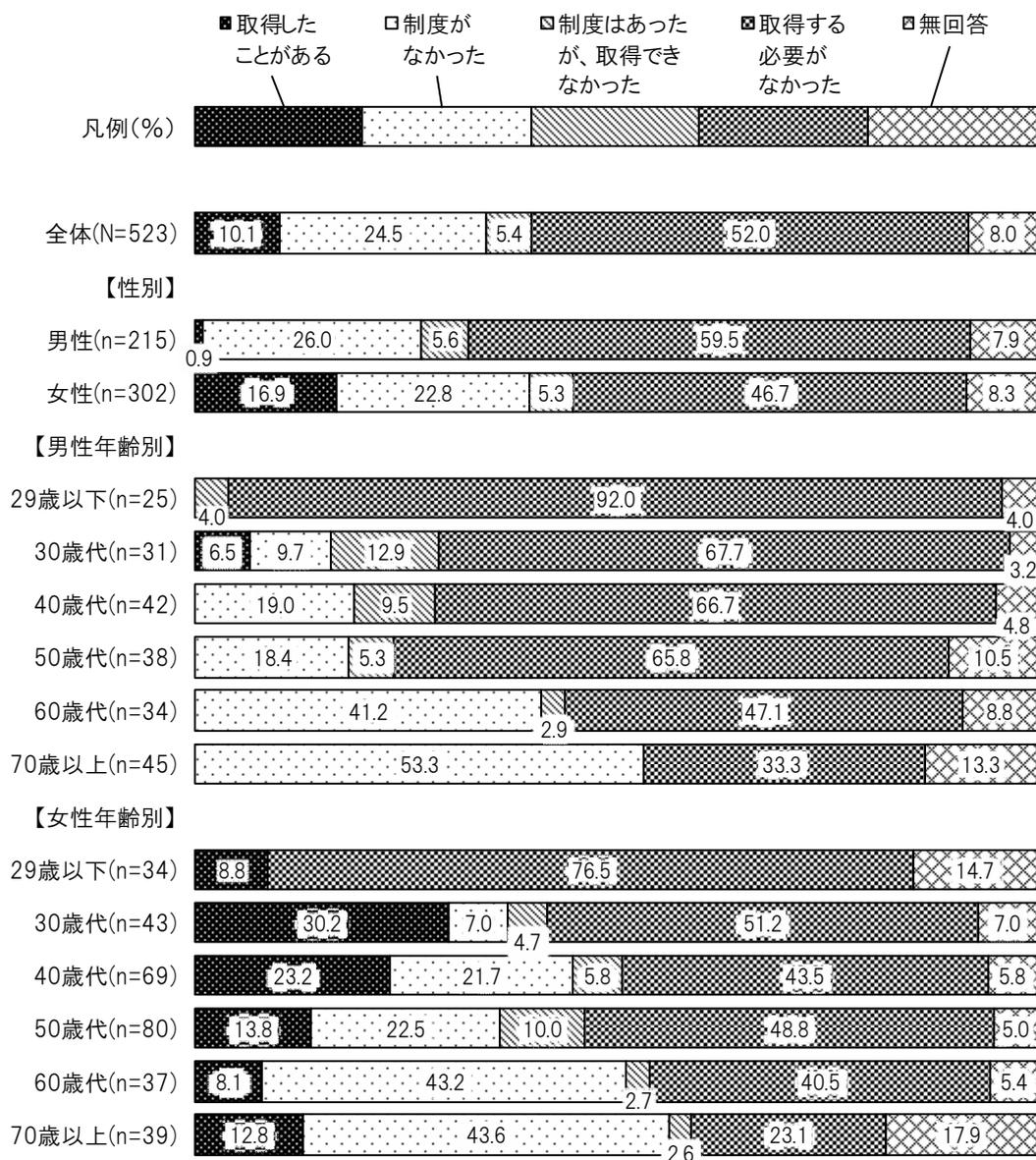
問 16 あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(○印1つずつ)

① 育児休業

育児休業の取得状況については、「取得したことがある」が10.1%、「制度がなかった」が24.5%、「制度はあったが、取得できなかった」が5.4%となっている。

性別では「取得したことがある」は、男性が0.9%、女性が16.9%となっている。

性年齢別では、男性の30～40歳代で「制度はあったが、取得できなかった」、女性の30～40歳代で「取得したことがある」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。また、男女共に60歳代以上で「制度がなかった」の割合が高くなっている。

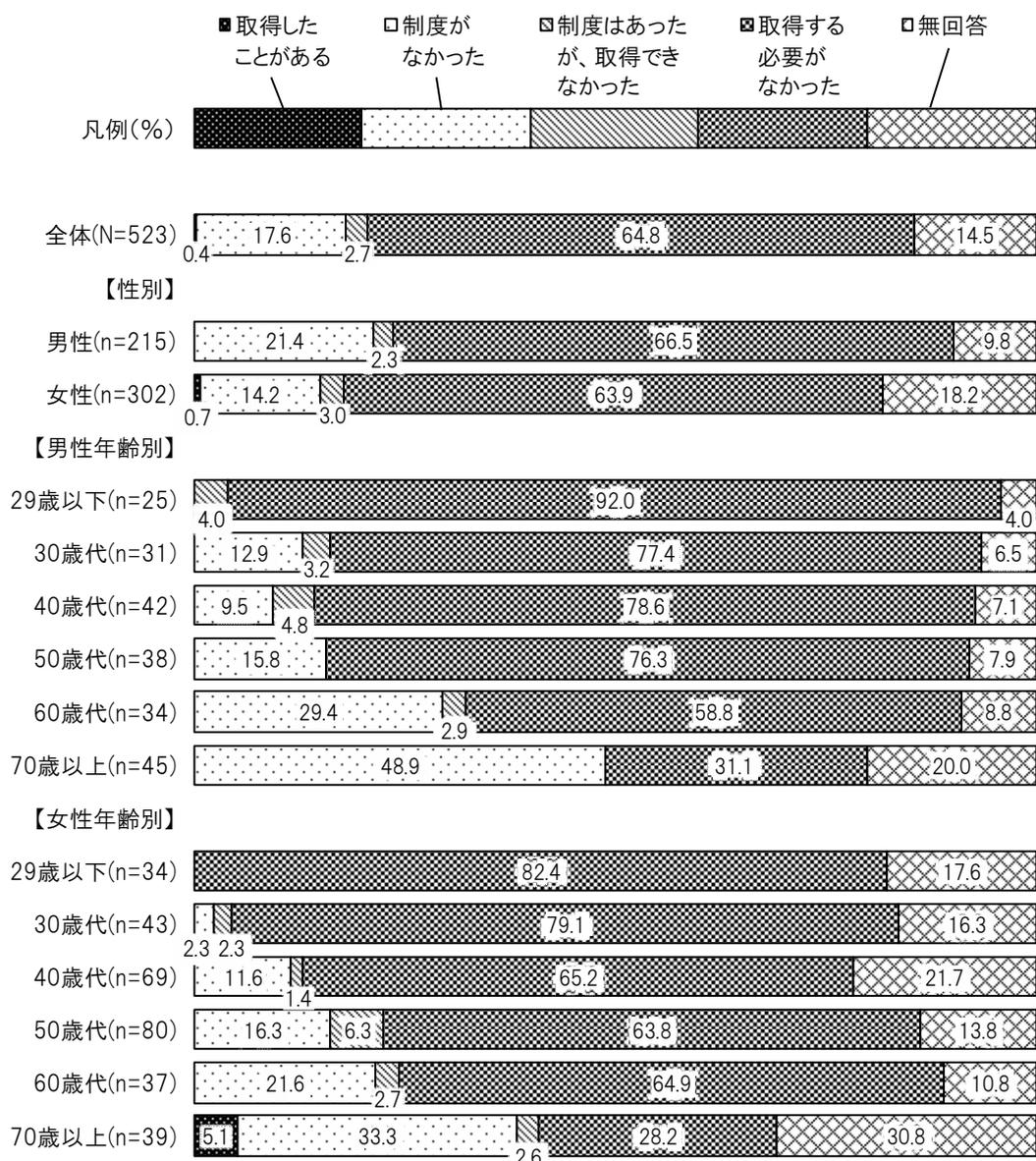


② 介護休業

介護休業の取得状況については、「取得したことがある」が 0.4%、「制度がなかった」が 17.6%、「制度はあったが、取得できなかった」が 2.7%となっている。

性別では、女性で「取得したことがある」が 0.7%となっている。

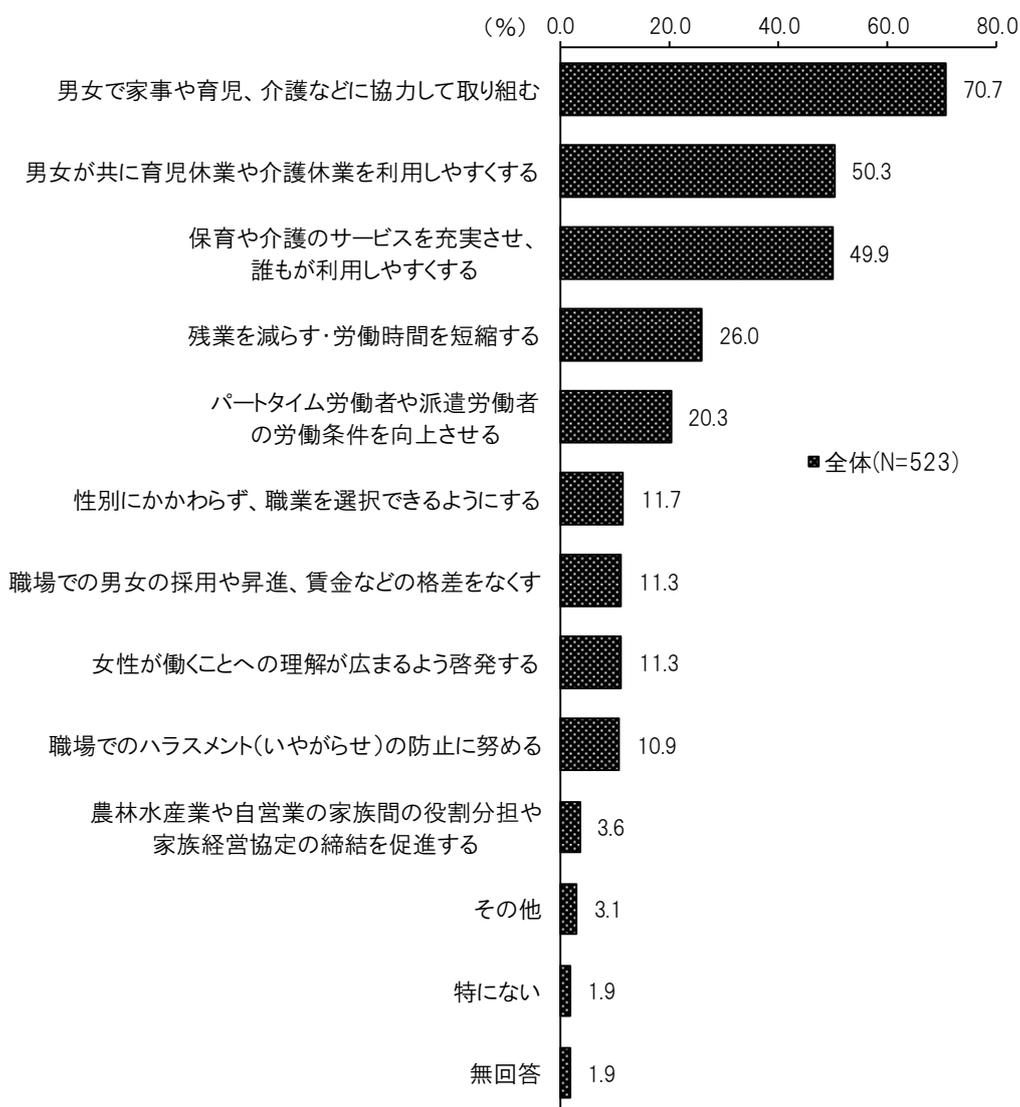
性年齢別では、男女共におおむね年齢が上がるほど「制度がなかった」の割合が増える傾向にあり、女性の 50 歳代で「制度はあったが、取得できなかった」の割合が他の年齢層に比べてやや高くなっている。



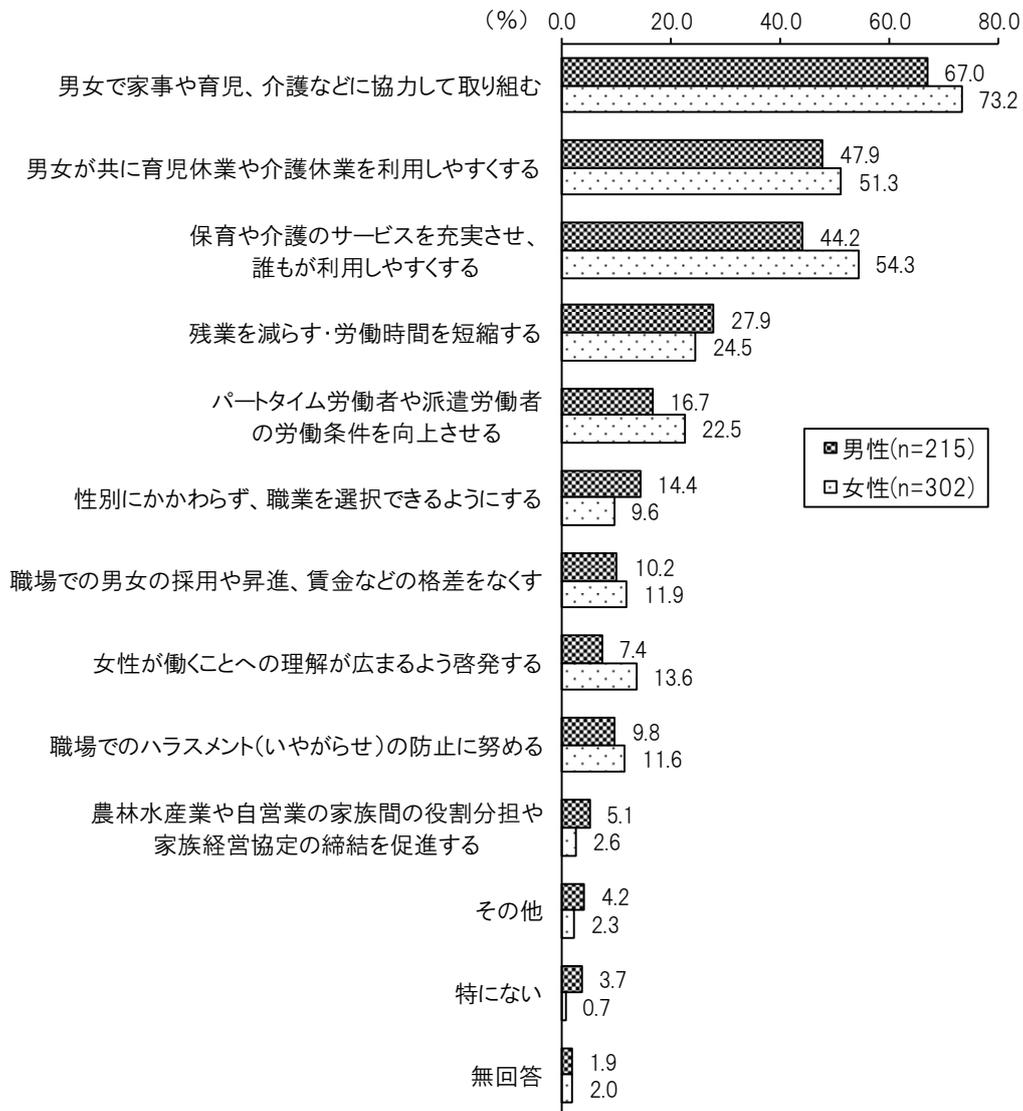
7 男女が共に働きやすい社会環境をつくるために必要なこと

問 17 あなたは、男女が共に働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印3つまで）

男女が共に働きやすい社会環境をつくるために必要なことについては、「男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む」の割合が70.7%と最も高く、次いで「男女が共に育児休業や介護休業を利用しやすくする」（50.3%）、「保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする」（49.9%）、「残業を減らす・労働時間を短縮する」（26.0%）、「パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる」（20.3%）の順となっている。



性別では、男性は女性に比べ「性別にかかわらず、職業を選択できるようにする」などの割合がやや高く、女性は「男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む」「保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする」「パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる」「女性が働くことへの理解が広まるよう啓発する」などの割合が男性を上回っている。



性年齢別では、男女共に 29 歳以下で「性別にかかわらず、職業を選択できるようにする」の割合が高く、男性はおおむね若い年齢層ほど「残業を減らす・労働時間を短縮する」の割合が増える傾向にある。また、男性は 60 歳代で「職場での男女の採用や昇進、賃金などの格差をなくす」の割合が高く、女性は 29 歳以下で「残業を減らす・労働時間を短縮する」、30 歳代で「職場でのハラスメント（いやがらせ）の防止に努める」、30 歳代以下で「男女が共に育児休業や介護休業を利用しやすくする」、50 歳代で「男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む」、50～60 歳代で「保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする」、70 歳以上で「女性が働くことへの理解が広まるよう啓発する」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む	男女が共に育児休業や介護休業を利用しやすくする	保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする	残業を減らす・労働時間を短縮する	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	性別にかかわらず、職業を選択できるようにする	職場での男女の採用や昇進、賃金などの格差をなくす	女性が働くことへの理解が広まるよう啓発する	職場でのハラスメント（いやがらせ）の防止に努める	進捗する	農林水産業や家族経営協定の締結を促進する	特にな
全体(N=523)	70.7	50.3	49.9	26.0	20.3	11.7	11.3	11.3	10.9	3.6	1.9	
【男性年齢別】												
29歳以下(n=25)	76.0	64.0	36.0	48.0	4.0	28.0	12.0	0.0	16.0	0.0	0.0	
30歳代(n=31)	51.6	51.6	41.9	51.6	12.9	3.2	9.7	3.2	9.7	3.2	3.2	
40歳代(n=42)	66.7	40.5	38.1	33.3	14.3	16.7	4.8	0.0	9.5	4.8	9.5	
50歳代(n=38)	71.1	34.2	52.6	26.3	18.4	15.8	5.3	13.2	7.9	2.6	5.3	
60歳代(n=34)	61.8	61.8	44.1	17.6	17.6	11.8	23.5	11.8	14.7	2.9	2.9	
70歳以上(n=45)	73.3	44.4	48.9	4.4	26.7	13.3	8.9	13.3	4.4	13.3	0.0	
【女性年齢別】												
29歳以下(n=34)	61.8	61.8	32.4	41.2	17.6	29.4	20.6	8.8	11.8	2.9	2.9	
30歳代(n=43)	74.4	62.8	55.8	32.6	0.0	4.7	14.0	16.3	25.6	0.0	0.0	
40歳代(n=69)	69.6	49.3	52.2	27.5	30.4	10.1	7.2	5.8	13.0	5.8	0.0	
50歳代(n=80)	83.8	56.3	67.5	17.5	27.5	2.5	13.8	15.0	8.8	0.0	1.3	
60歳代(n=37)	73.0	43.2	73.0	16.2	32.4	10.8	13.5	10.8	2.7	0.0	0.0	
70歳以上(n=39)	66.7	30.8	30.8	17.9	17.9	10.3	5.1	28.2	7.7	7.7	0.0	

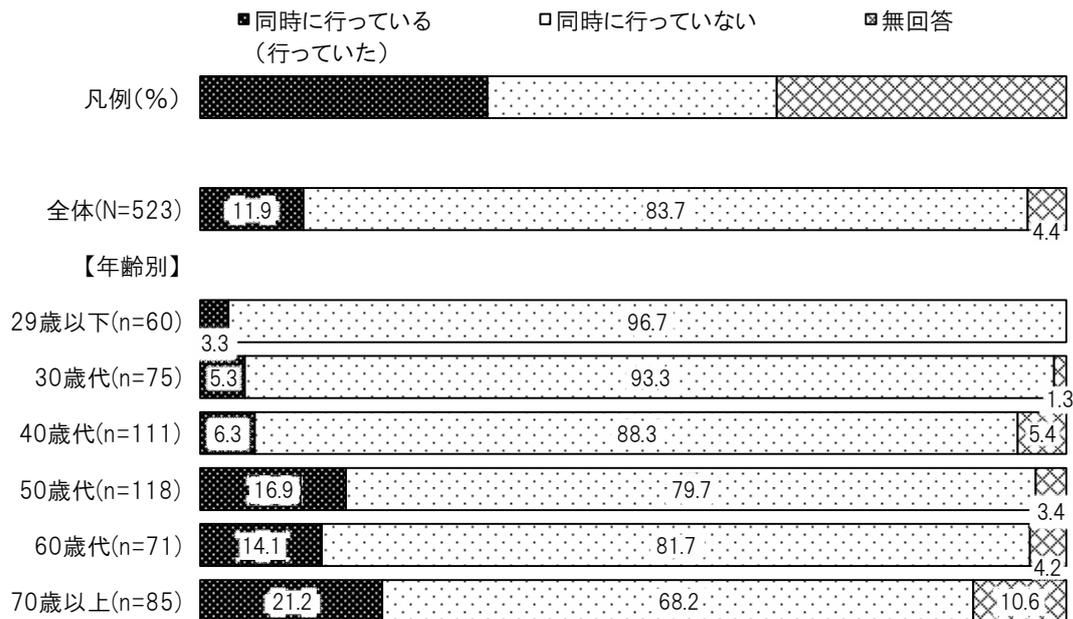
注:「その他」は表記から省略している。

【3】家庭生活について

1 子育てと介護を同時に行うことについて

問 18 あなたの家庭では、現在、子育てと介護を同時に行っていますか、または同時に行っていたことがありますか。(○印1つ)

子育てと介護を同時に行うことについては、「同時に行っている(行っていた)」の割合が約1割(11.9%)となっており、50歳以上の年齢層で割合が高くなっている。

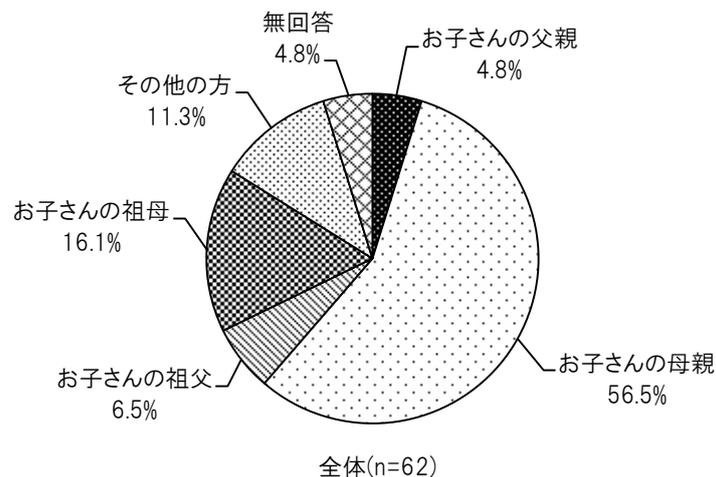


2 子育てと介護を同時に行っている人

【問 18 で「1」と答えた方のみにおたずねします。】

問 19 主に、子育てと介護を同時に行っている(行っていた)のは誰ですか。(○印1つ)

子育てと介護を同時に行っている人については、「お子さんの母親」の割合が56.5%と最も高く、次いで「お子さんの祖母」(16.1%)、「その他の方」(11.3%)となっている。

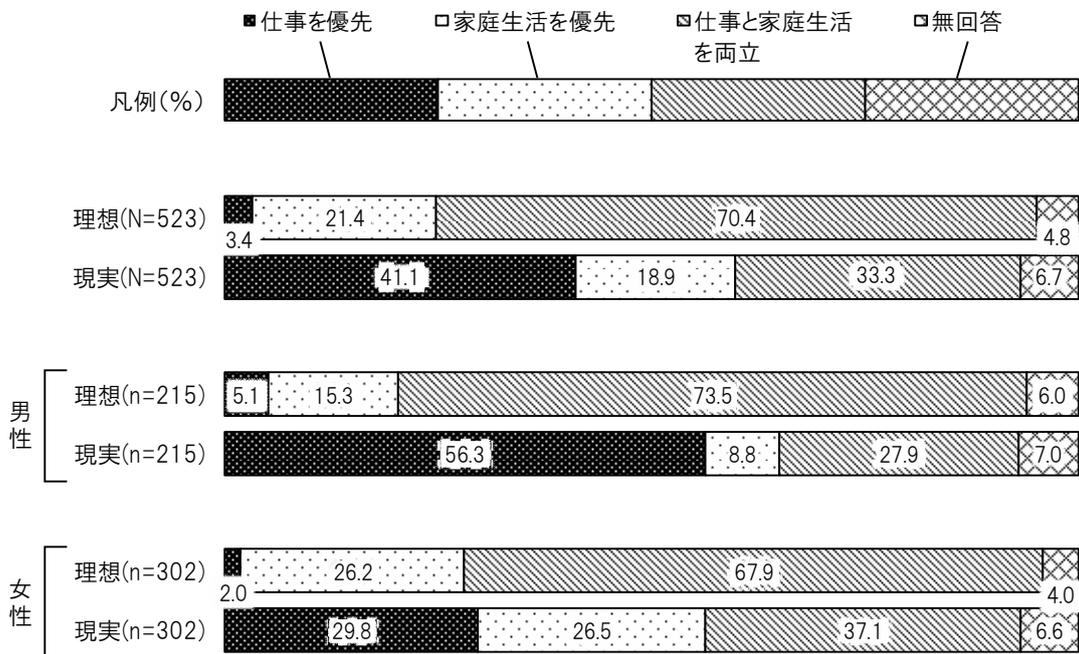


3 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 20 日常生活における、「仕事」と「家庭生活」のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度と②実際の（現実の）優先度をお答えください。
 (○印1つずつ)

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について、理想では「仕事と家庭生活を両立」が70.4%と最も高く、次いで「家庭生活を優先」（21.4%）が続いているが、現実では「仕事を優先」が41.1%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活を両立」（33.3%）が続いている。

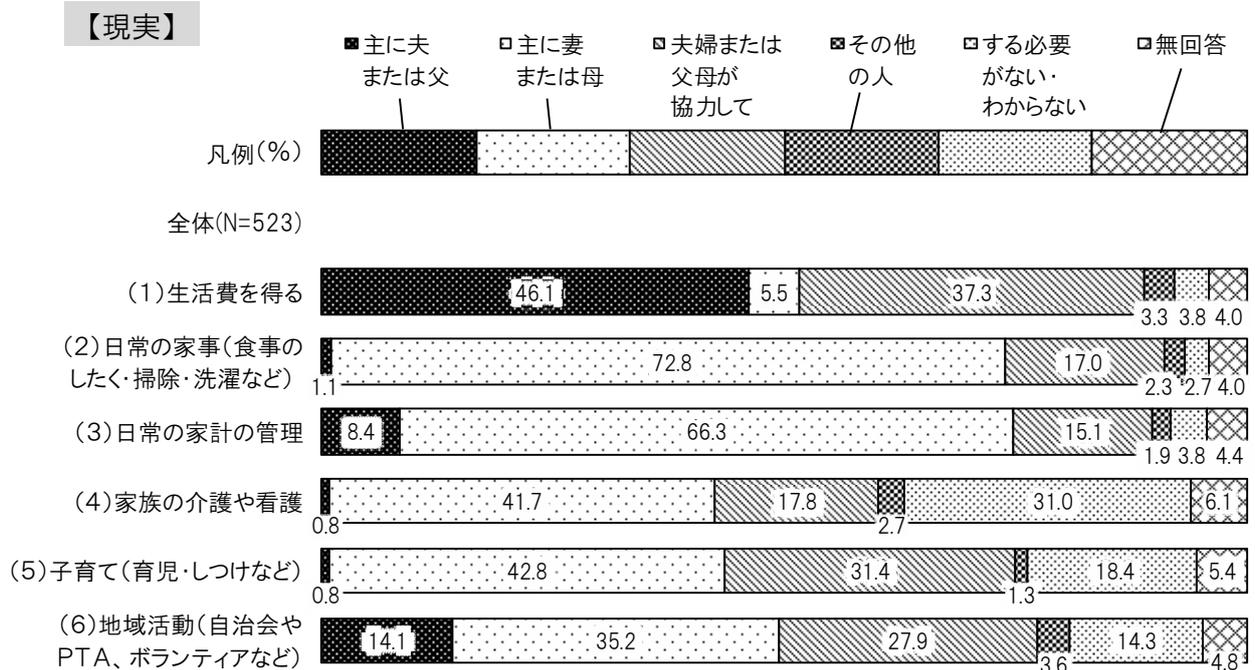
性別でみると、男女共に「仕事を優先」で現実が理想を大きく上回っており、「仕事と家庭生活を両立」では理想が現実を大きく上回っている。



4 家庭内の仕事の分担

問 21 あなたの家庭では、(1)から(6)までの項目について、主に誰が担っていますか。現在一人暮らしの方は、過去の生活のことをお答えください。
(○印1つつ)

家庭内の仕事の分担については、「(2) 日常の家事(食事のしたく・掃除・洗濯など)」や「(3) 日常の家計の管理」では「主に妻または母」が高い割合を占めている。一方、「(1) 生活費を得る」や「(6) 地域活動(自治会やPTA、ボランティアなど)」では、「主に夫または父」の割合が高くなっている。

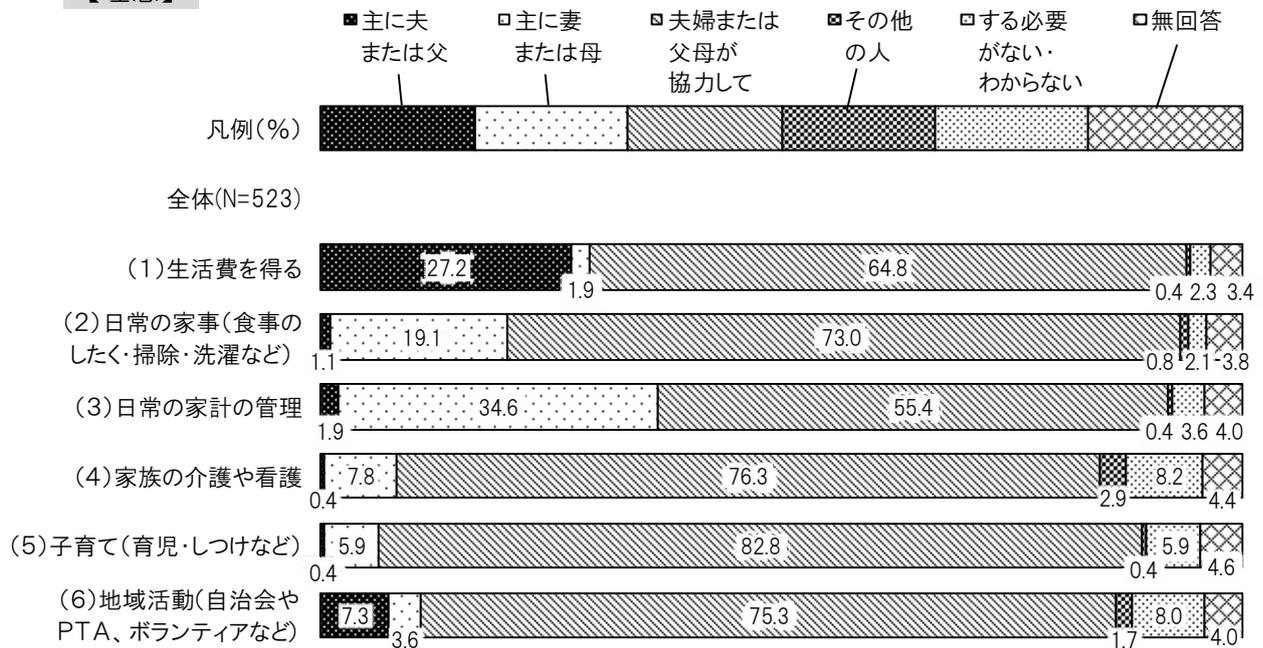


5 理想的な家庭内の仕事の分担

問 22 あなたは、(1) から (6) までの項目について、主に誰が担うのが理想だと思いますか。(○印1つずつ)

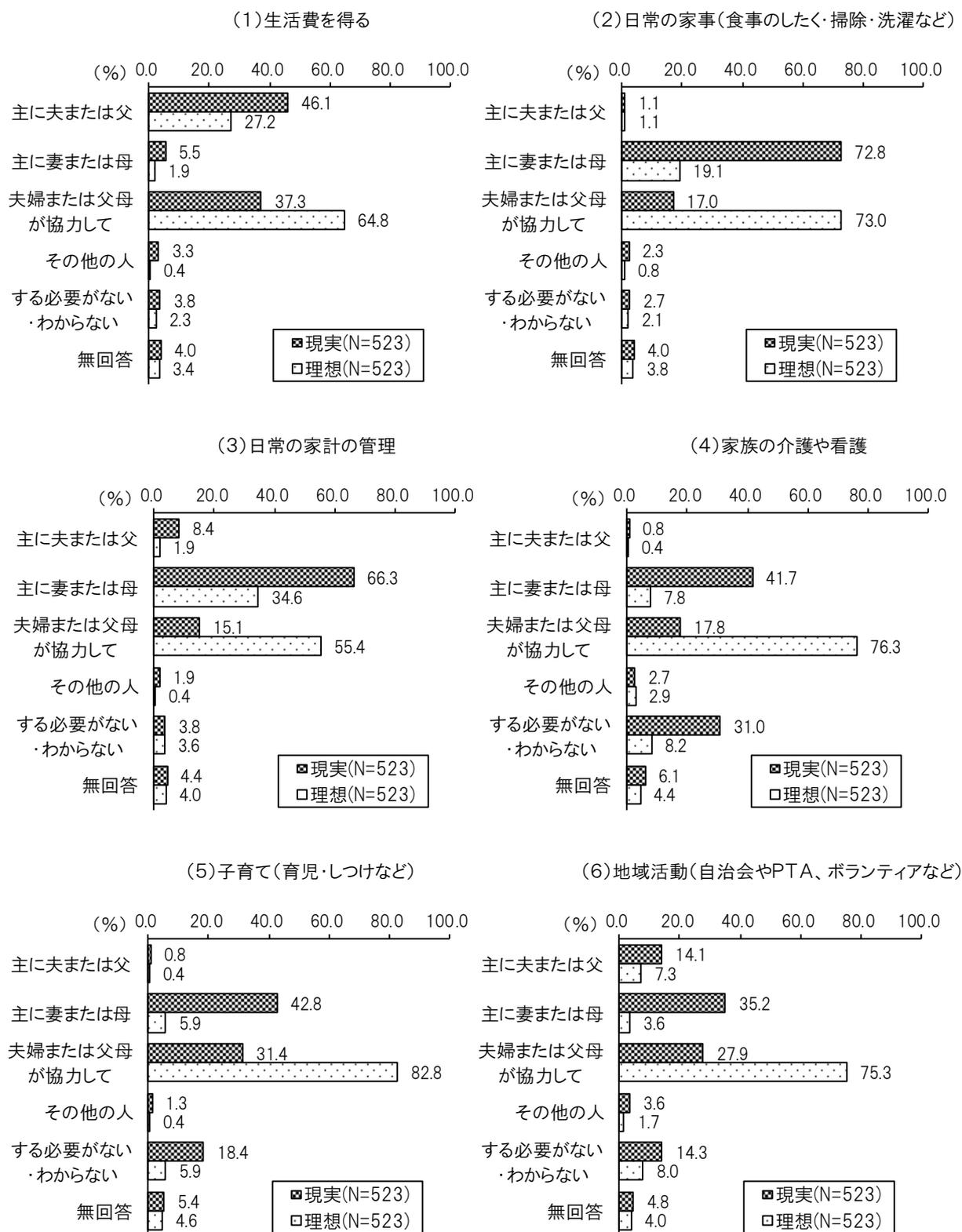
理想的な家庭内の仕事の分担については、「夫婦または父母が協力して」分担するのが理想とする項目が目立っている。また、「主に妻または母」の割合が高いものとして「(3) 日常の家計の管理」(34.6%)、「(2) 日常の家事(食事のしたく・掃除・洗濯など)」(19.1%)があげられ、「主に夫または父」の割合が高いものとして「(1) 生活費を得る」(27.2%)があげられる。

【理想】



【再掲／現実と理想の分担比較】

現実と理想の分担を比較すると、特に「(2) 日常の家事(食事のしたく・掃除・洗濯など)」では、理想として「夫婦または父母が協力して」の割合が高いが、現実には「主に妻または母」の割合が高くなっている。



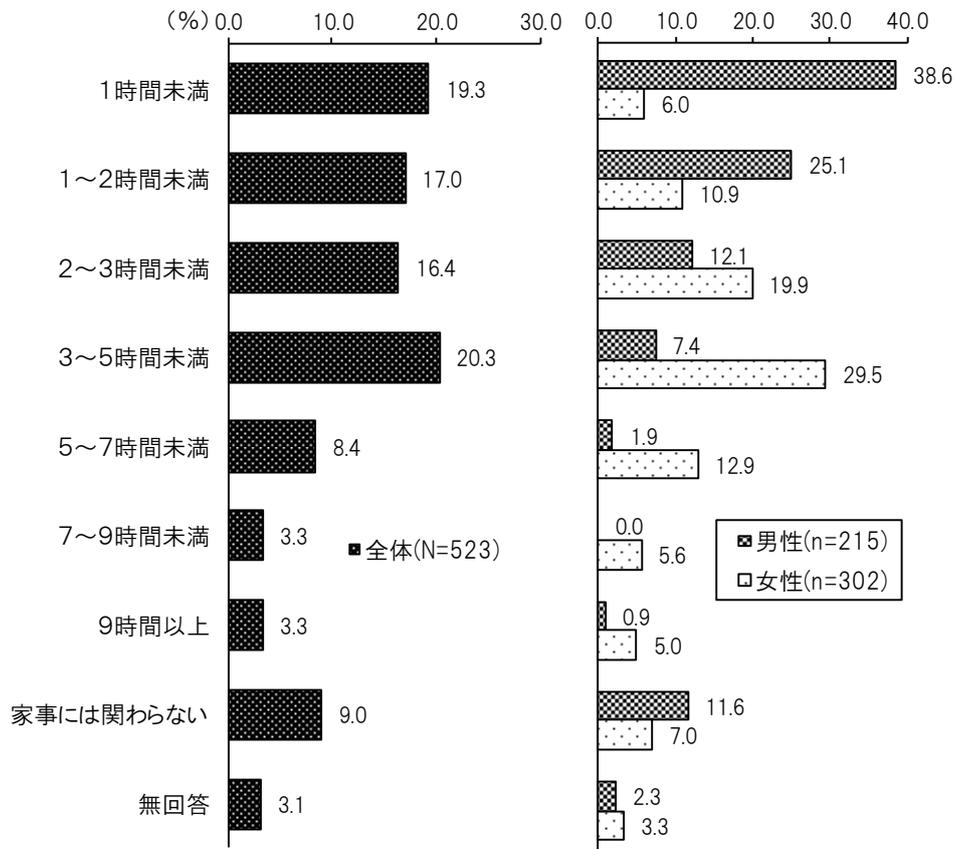
6 家事に費やす時間

問 23 あなたが、1日に「家事」に費やす時間はどのくらいですか。(○印1つ)

※「家事」とは、食事のしたく、掃除、洗濯、買物などに加え、育児や介護も含みます。

家事に費やす時間については、「3～5時間未満」の割合が20.3%と最も高く、次いで「1時間未満」(19.3%)、「1～2時間未満」(17.0%)の順となっている。

性別では、男性は「1時間未満」「1～2時間未満」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「3～5時間未満」「5～7時間未満」などの割合が高くなっている。



性年齢別では、男女共に 29 歳以下で「1 時間未満」「家事には関わらない」、60 歳代で「1～2 時間未満」、70 歳以上で「2～3 時間未満」の割合がそれぞれ高く、女性は 30 歳代で「9 時間以上」、40 歳代で「7～9 時間未満」、50 歳代で「3～5 時間未満」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	1 時間未満	1～2 時間未満	2～3 時間未満	3～5 時間未満	5～7 時間未満	7～9 時間未満	9 時間以上	家事には関わらない
全体(N=523)	19.3	17.0	16.4	20.3	8.4	3.3	3.3	9.0
【男性年齢別】								
29歳以下(n=25)	56.0	12.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	24.0
30歳代(n=31)	41.9	16.1	12.9	12.9	0.0	0.0	3.2	12.9
40歳代(n=42)	45.2	38.1	4.8	2.4	2.4	0.0	0.0	4.8
50歳代(n=38)	36.8	13.2	18.4	5.3	0.0	0.0	2.6	21.1
60歳代(n=34)	44.1	38.2	5.9	2.9	2.9	0.0	0.0	2.9
70歳以上(n=45)	17.8	26.7	24.4	15.6	4.4	0.0	0.0	8.9
【女性年齢別】								
29歳以下(n=34)	26.5	11.8	5.9	5.9	8.8	0.0	2.9	38.2
30歳代(n=43)	4.7	11.6	20.9	25.6	16.3	4.7	14.0	2.3
40歳代(n=69)	1.4	8.7	21.7	27.5	11.6	10.1	7.2	4.3
50歳代(n=80)	5.0	11.3	18.8	38.8	12.5	6.3	2.5	1.3
60歳代(n=37)	2.7	18.9	21.6	35.1	18.9	2.7	0.0	0.0
70歳以上(n=39)	2.6	5.1	28.2	33.3	10.3	5.1	2.6	7.7

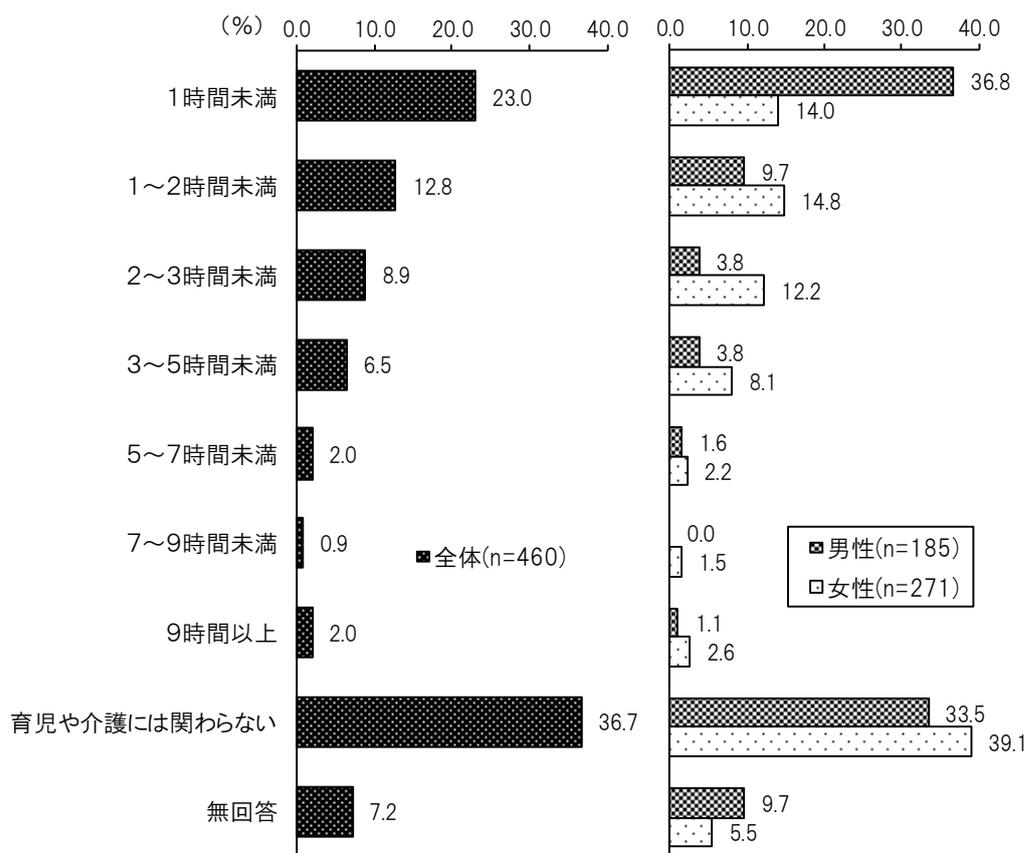
7 育児や介護に費やす時間

【問 23 で「1～7」と答えた方のみにおたずねします。】

問 24 そのうち、育児や介護に費やす時間はどのくらいですか。(○印1つ)

育児や介護に費やす時間については、「1時間未満」の割合が23.0%と最も高く、次いで「1～2時間未満」(12.8%)、「2～3時間未満」(8.9%)の順となっている。

性別では、男性は「1時間未満」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「1～2時間未満」「2～3時間未満」などの割合が高くなっている。



性年齢別では、男性は40～60歳代で「1時間未満」の割合が高く、女性は40歳代で「1～2時間未満」、50歳代で「1時間未満」、70歳以上で「2～3時間未満」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

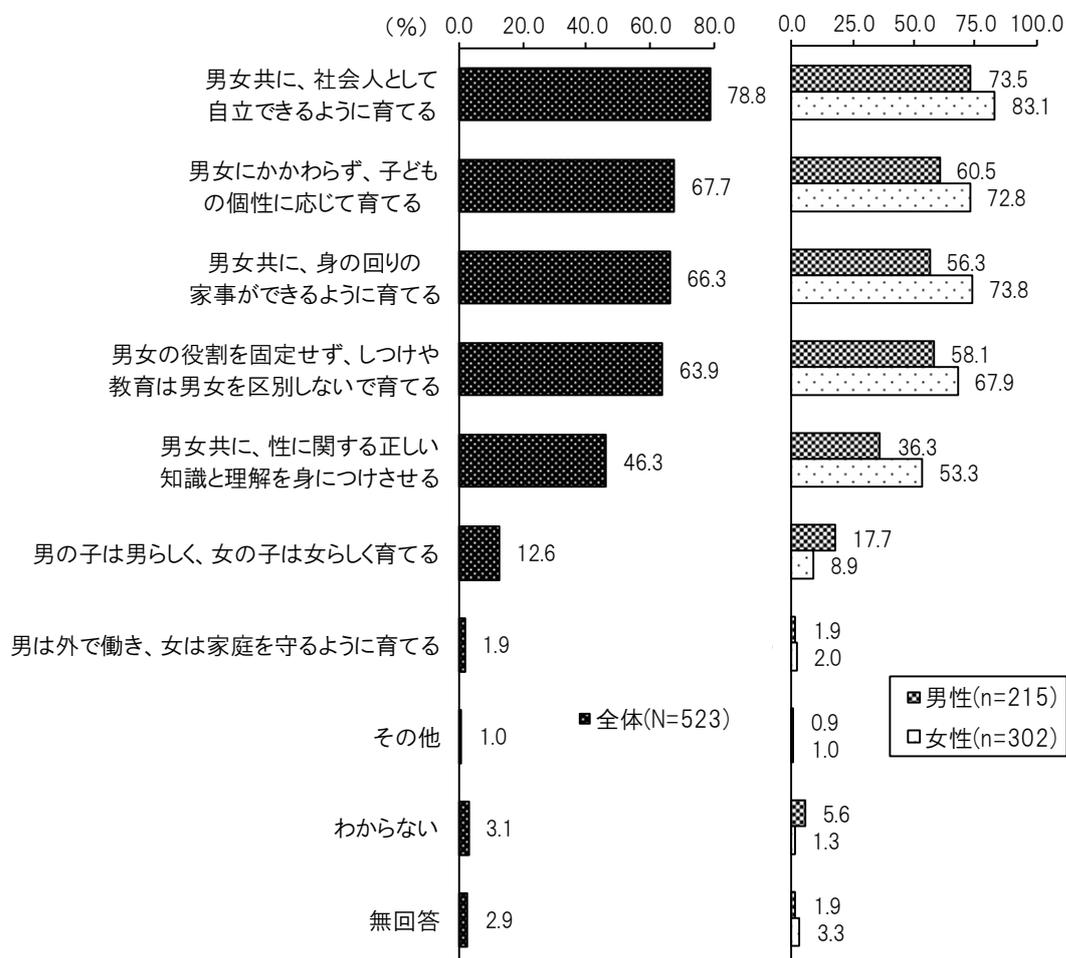
単位 (%)	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	ない 育児や介護には関わら
全体(n=460)	23.0	12.8	8.9	6.5	2.0	0.9	2.0	36.7
【男性年齢別】								
29歳以下(n=18)	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	61.1
30歳代(n=27)	22.2	18.5	11.1	7.4	0.0	0.0	0.0	33.3
40歳代(n=39)	53.8	10.3	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	30.8
50歳代(n=29)	51.7	13.8	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	17.2
60歳代(n=32)	46.9	9.4	0.0	6.3	3.1	0.0	0.0	25.0
70歳以上(n=40)	15.0	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	2.5	42.5
【女性年齢別】								
29歳以下(n=21)	4.8	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0	9.5	76.2
30歳代(n=42)	11.9	11.9	16.7	14.3	4.8	0.0	9.5	28.6
40歳代(n=61)	13.1	29.5	16.4	11.5	3.3	4.9	0.0	18.0
50歳代(n=76)	26.3	9.2	7.9	3.9	1.3	1.3	0.0	43.4
60歳代(n=37)	5.4	10.8	5.4	2.7	0.0	0.0	0.0	67.6
70歳以上(n=34)	5.9	14.7	23.5	11.8	2.9	0.0	2.9	26.5

8 望ましい子どもの育て方

問 25 あなたは、どのような子どもの育て方が望ましいと思いますか。
(○印いくつでも)

望ましい子どもの育て方については、「男女共に、社会人として自立できるように育てる」の割合が78.8%と最も高く、次いで「男女にかかわらず、子どもの個性に応じて育てる」(67.7%)、「男女共に、身の回りの家事ができるように育てる」(66.3%)、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は男女を区別しないで育てる」(63.9%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合が高く、女性は「男女共に、身の回りの家事ができるように育てる」「男女共に、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」などの割合が男性を大きく上回っている。



性年齢別では、男性は 29 歳以下で「男女共に、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」、60 歳代以上で「男女共に、社会人として自立できるように育てる」の割合が高く、女性は 30 歳代で「男女にかかわらず、子どもの個性に応じて育てる」、50～60 歳代で「男女共に、社会人として自立できるように育てる」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。また、男女共に 70 歳以上で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合が高くなっている。

単位 (%)	で男女共に、社会人として自立できるように育てる	個々に応じて育てる、子どもの個性に応じて育てる	で男女共に、身の回りの家事ができるように育てる	で男女共に、性別を区別しない	知識と理解を身につけさせる	男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	男は外で働き、女は家庭を守るように育てる	その他	わからない
全体(N=523)	78.8	67.7	66.3	63.9	46.3	12.6	1.9	1.0	3.1
【男性年齢別】									
29歳以下(n=25)	72.0	56.0	56.0	60.0	48.0	12.0	0.0	0.0	8.0
30歳代(n=31)	64.5	67.7	61.3	64.5	35.5	19.4	0.0	0.0	6.5
40歳代(n=42)	66.7	47.6	50.0	52.4	21.4	19.0	0.0	2.4	4.8
50歳代(n=38)	71.1	52.6	57.9	63.2	39.5	7.9	2.6	0.0	10.5
60歳代(n=34)	82.4	73.5	55.9	55.9	35.3	11.8	0.0	2.9	2.9
70歳以上(n=45)	82.2	66.7	57.8	55.6	42.2	31.1	6.7	0.0	2.2
【女性年齢別】									
29歳以下(n=34)	79.4	70.6	67.6	67.6	38.2	2.9	0.0	0.0	5.9
30歳代(n=43)	81.4	90.7	76.7	76.7	58.1	7.0	2.3	2.3	0.0
40歳代(n=69)	79.7	72.5	78.3	71.0	58.0	4.3	2.9	0.0	1.4
50歳代(n=80)	92.5	78.8	80.0	72.5	60.0	11.3	1.3	2.5	0.0
60歳代(n=37)	94.6	59.5	70.3	64.9	51.4	8.1	0.0	0.0	0.0
70歳以上(n=39)	64.1	56.4	59.0	46.2	41.0	20.5	5.1	0.0	2.6

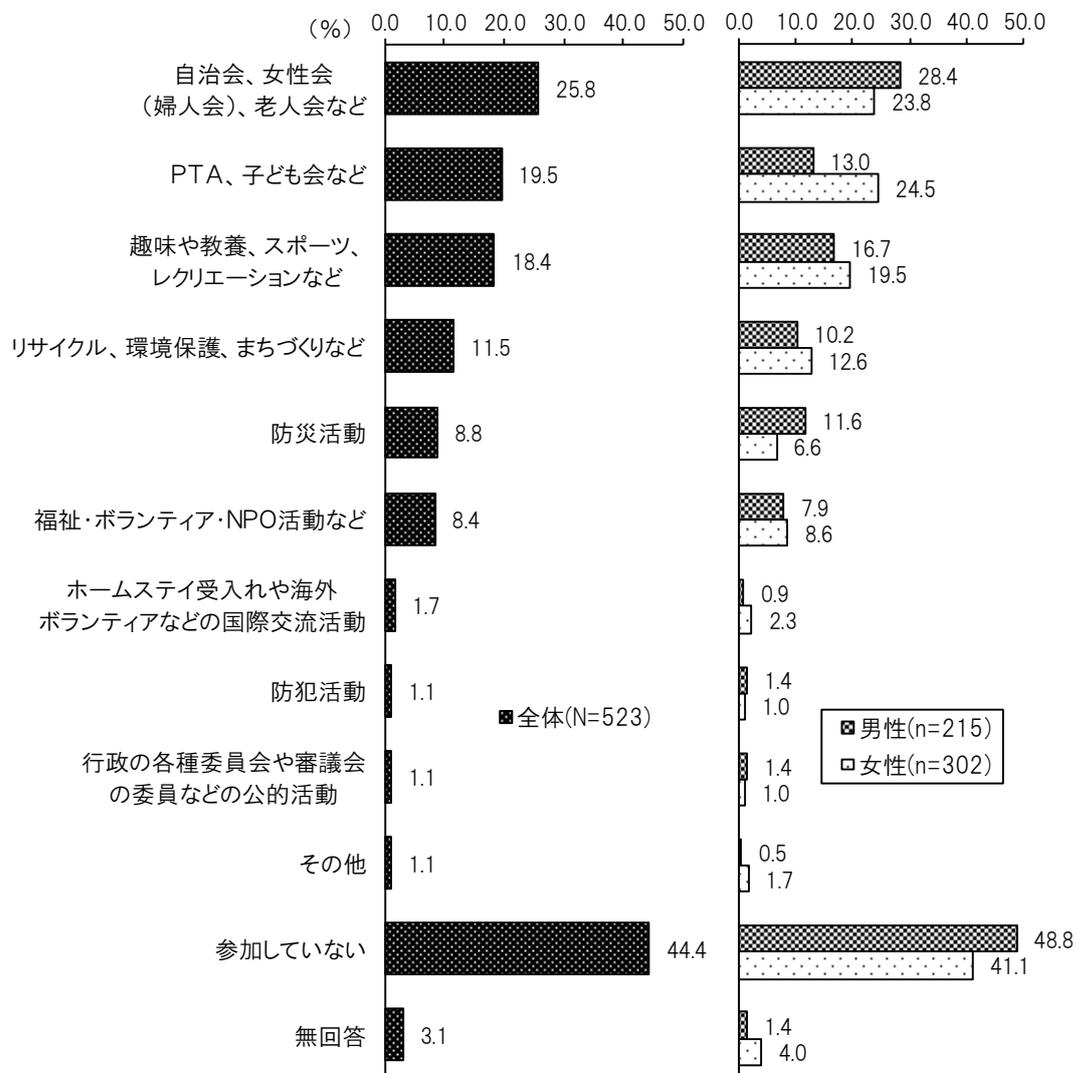
【4】地域での活動について

1 地域活動への参加状況

問 26 あなたは、次の地域活動に参加していますか。（○印いくつでも）

地域活動への参加状況については、「自治会、女性会（婦人会）、老人会など」の割合が25.8%と最も高く、次いで「PTA、子ども会など」（19.5%）、「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなど」（18.4%）、「リサイクル、環境保護、まちづくりなど」（11.5%）の順となっている。また、4割以上（44.4%）が「参加していない」と回答している。

性別では、男性は女性に比べ「自治会、女性会（婦人会）、老人会など」「防災活動」「参加していない」の割合が高く、女性は「PTA、子ども会など」の割合が男性を大きく上回っている。



性年齢別では、男女共に 29 歳以下で「参加していない」の割合が高く、男性はおおむね年齢が上がるほど「自治会、女性会（婦人会）、老人会など」の割合が増える傾向にある。また、男性は 30 歳代で「PTA、子ども会など」、70 歳以上で「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなど」「リサイクル、環境保護、まちづくりなど」「防災活動」などの割合が高く、女性は 40 歳代で「PTA、子ども会など」、50 歳代で「リサイクル、環境保護、まちづくりなど」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

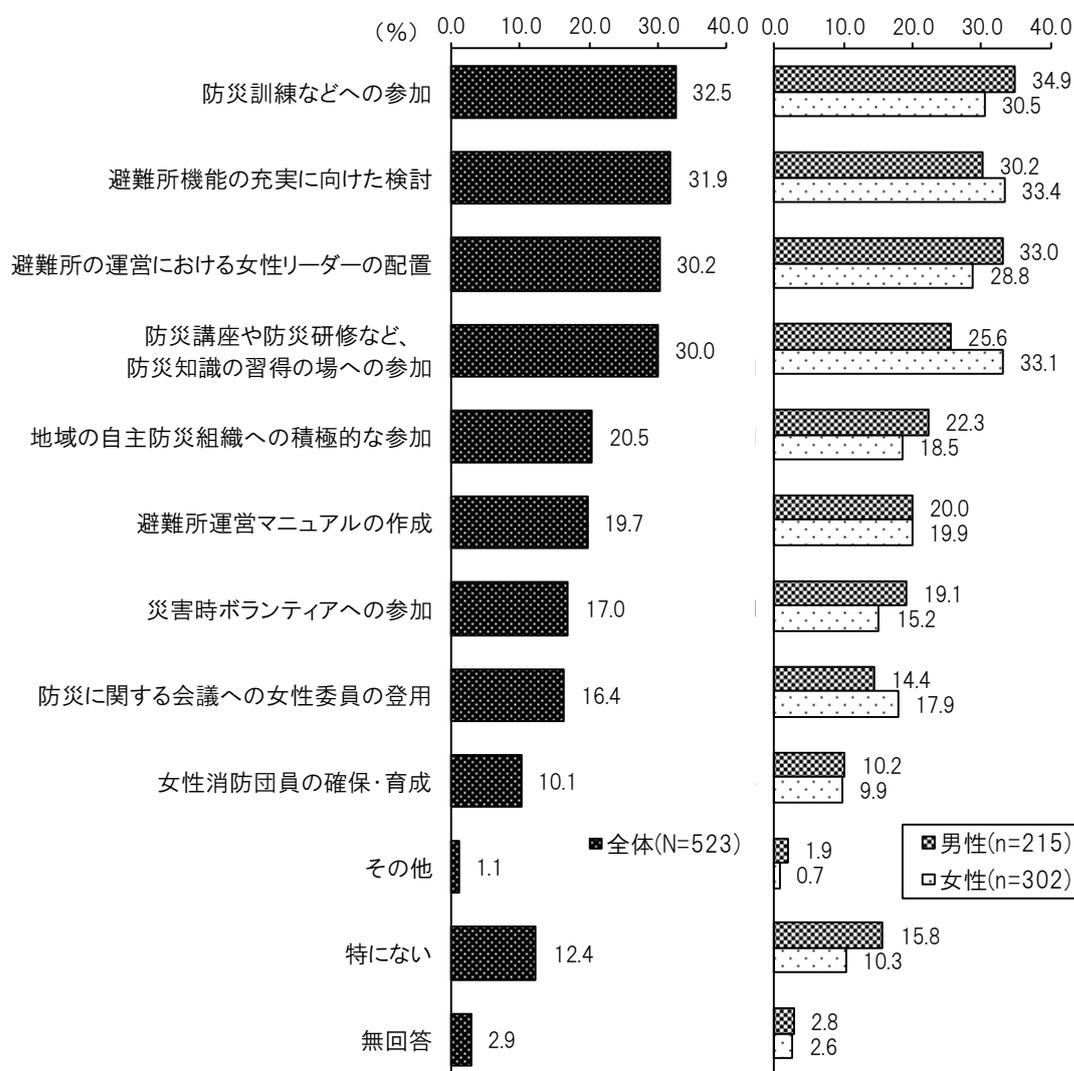
単位 (%)	自治会、女性会（婦人会）、老人会など	PTA、子ども会など	趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなど	リサイクル、環境保護、まちづくりなど	防災活動	福祉・ボランティア・NPO 活動など	ホームステイ受入れや海外ボランティアなどの国際交流活動	防犯活動	行政の各種委員会や審議会の委員などの公的活動	その他	参加していない
全体(N=523)	25.8	19.5	18.4	11.5	8.8	8.4	1.7	1.1	1.1	1.1	44.4
【男性年齢別】											
29歳以下(n=25)	0.0	0.0	8.0	0.0	4.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0
30歳代(n=31)	9.7	41.9	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	51.6
40歳代(n=42)	23.8	16.7	19.0	2.4	14.3	7.1	0.0	4.8	0.0	0.0	52.4
50歳代(n=38)	21.1	5.3	2.6	7.9	13.2	7.9	2.6	2.6	0.0	0.0	50.0
60歳代(n=34)	44.1	11.8	20.6	17.6	8.8	8.8	0.0	0.0	0.0	2.9	35.3
70歳以上(n=45)	55.6	4.4	31.1	26.7	22.2	13.3	2.2	0.0	6.7	0.0	31.1
【女性年齢別】											
29歳以下(n=34)	8.8	2.9	17.6	8.8	5.9	11.8	2.9	2.9	0.0	0.0	70.6
30歳代(n=43)	11.6	39.5	23.3	11.6	7.0	2.3	4.7	2.3	0.0	0.0	39.5
40歳代(n=69)	17.4	53.6	15.9	8.7	2.9	5.8	1.4	0.0	1.4	0.0	36.2
50歳代(n=80)	33.8	18.8	21.3	20.0	6.3	11.3	2.5	0.0	1.3	1.3	33.8
60歳代(n=37)	29.7	8.1	21.6	8.1	5.4	8.1	2.7	0.0	0.0	8.1	45.9
70歳以上(n=39)	35.9	2.6	17.9	12.8	15.4	12.8	0.0	2.6	2.6	2.6	35.9

2 防災・災害復興対策で必要とされる女性の活躍

問 27 防災・災害復興対策において、女性の視点が必要とされています。どのような取組において、より女性の活躍が必要だと思いますか。（○印3つまで）

防災・災害復興対策で必要とされる女性の活躍については、「防災訓練などへの参加」が32.5%と最も高く、ほぼ並んで「避難所機能の充実にに向けた検討」（31.9%）、「避難所の運営における女性リーダーの配置」（30.2%）、「防災講座や防災研修など、防災知識の習得の場への参加」（30.0%）が続いている。

性別では、男性は女性に比べ「防災訓練などへの参加」「避難所の運営における女性リーダーの配置」「特にない」などの割合がやや高く、女性は「防災講座や防災研修など、防災知識の習得の場への参加」などの割合が男性を上回っている。



【5】暴力等の防止について

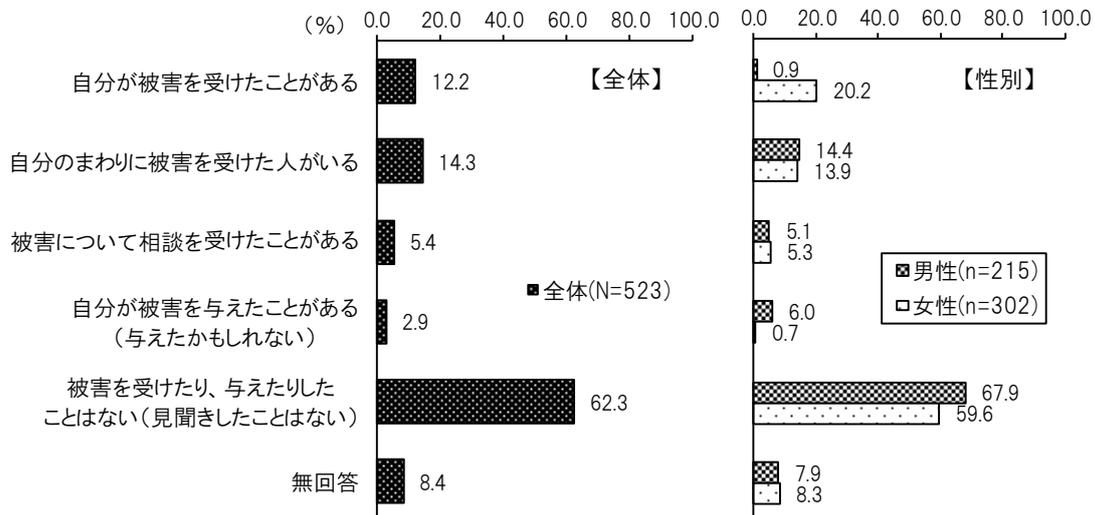
1 各種ハラスメントに関する経験等

問 28 あなたは、次の①から④までの行為について経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（○印それぞれいくつでも）

①セクシュアルハラスメント（セクハラ）

セクシュアルハラスメント（セクハラ）の経験については、「自分が被害を受けたことがある」が 12.2%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が 14.3%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は 5.4%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は 2.9%であった。

性別では、女性の約2割（20.2%）が「自分が被害を受けたことがある」と回答しており、特に女性の30～40歳代で高くなっている。

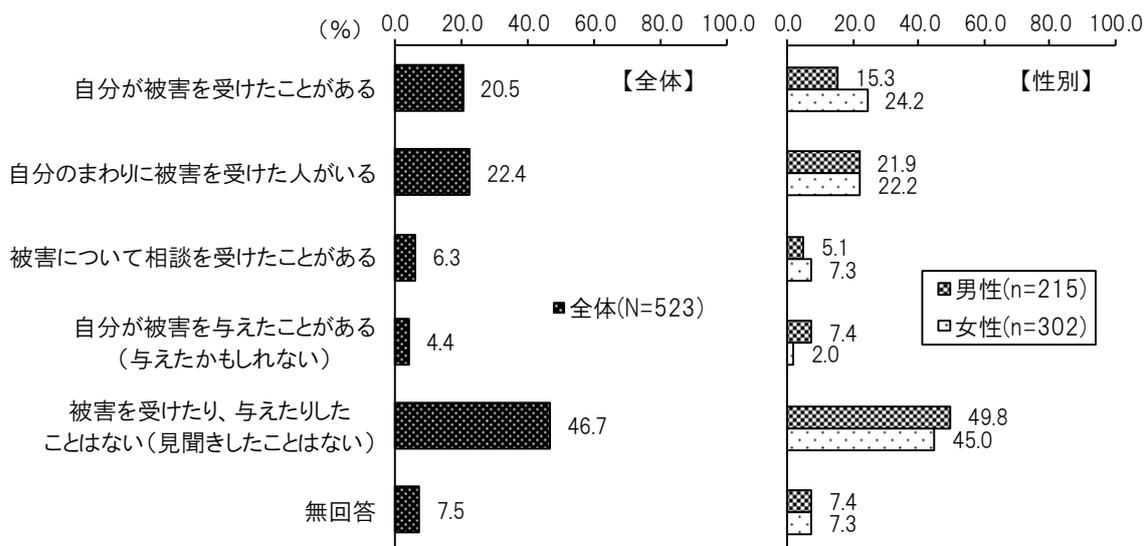


単位(%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある(与えたかもしれない)	被害を受けたり、与えたりしたことはない(見聞きしたことはない)
全体(N=523)	12.2	14.3	5.4	2.9	62.3
【男性年齢別】					
29歳以下(n=25)	4.0	16.0	8.0	4.0	76.0
30歳代(n=31)	0.0	25.8	6.5	9.7	54.8
40歳代(n=42)	0.0	11.9	4.8	0.0	78.6
50歳代(n=38)	0.0	13.2	0.0	13.2	65.8
60歳代(n=34)	0.0	11.8	8.8	8.8	67.6
70歳以上(n=45)	2.2	11.1	4.4	2.2	64.4
【女性年齢別】					
29歳以下(n=34)	17.6	20.6	5.9	0.0	64.7
30歳代(n=43)	34.9	16.3	7.0	2.3	44.2
40歳代(n=69)	26.1	17.4	7.2	1.4	63.8
50歳代(n=80)	17.5	15.0	6.3	0.0	53.8
60歳代(n=37)	10.8	5.4	2.7	0.0	73.0
70歳以上(n=39)	10.3	5.1	0.0	0.0	64.1

②パワーハラスメント（パワハラ）

パワーハラスメント（パワハラ）の経験については、「自分が被害を受けたことがある」が20.5%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が22.4%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は6.3%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は4.4%であった。

性別では、女性は男性に比べて「自分が被害を受けたことがある」の割合が高く、男性の30歳代、女性の30～50歳代で高くなっている。

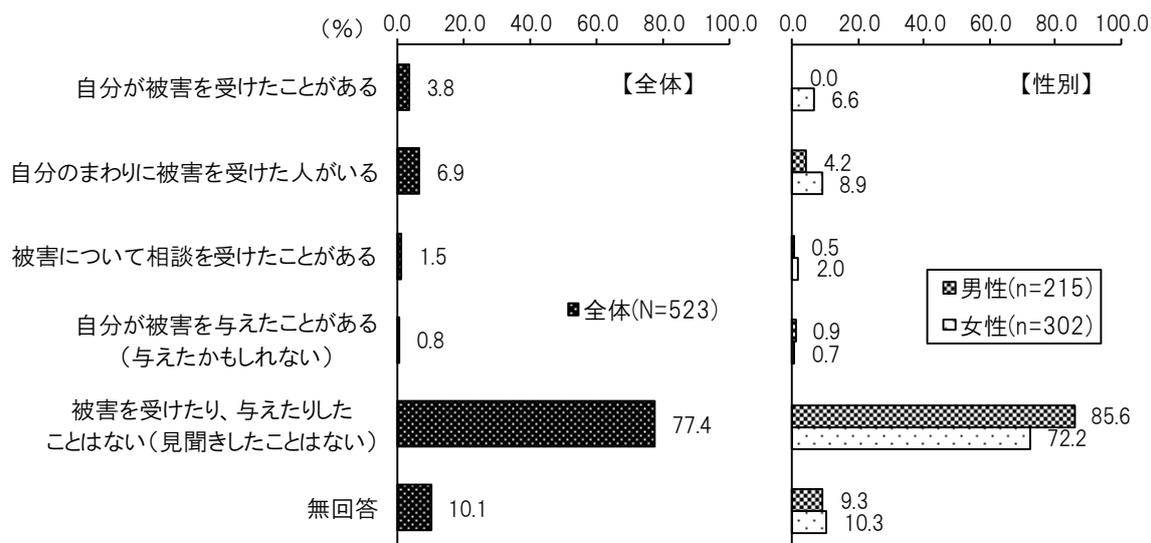


単位(%)	自分が被害を受けたことがある	自分が被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）
全体(N=523)	20.5	22.4	6.3	4.4	46.7
【男性年齢別】					
29歳以下(n=25)	8.0	16.0	8.0	4.0	72.0
30歳代(n=31)	38.7	32.3	6.5	9.7	25.8
40歳代(n=42)	21.4	26.2	0.0	4.8	47.6
50歳代(n=38)	7.9	15.8	7.9	15.8	42.1
60歳代(n=34)	17.6	29.4	5.9	5.9	50.0
70歳以上(n=45)	2.2	13.3	4.4	4.4	62.2
【女性年齢別】					
29歳以下(n=34)	20.6	17.6	8.8	0.0	58.8
30歳代(n=43)	30.2	25.6	9.3	4.7	41.9
40歳代(n=69)	30.4	27.5	8.7	2.9	44.9
50歳代(n=80)	30.0	26.3	3.8	1.3	32.5
60歳代(n=37)	10.8	13.5	8.1	0.0	62.2
70歳以上(n=39)	10.3	12.8	7.7	2.6	46.2

③ マタニティハラスメント（マタハラ）

マタニティハラスメント（マタハラ）の経験については、「自分が被害を受けたことがある」が3.8%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が6.9%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は1.5%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は0.8%であった。

性別では、女性の30歳代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が高くなっている。

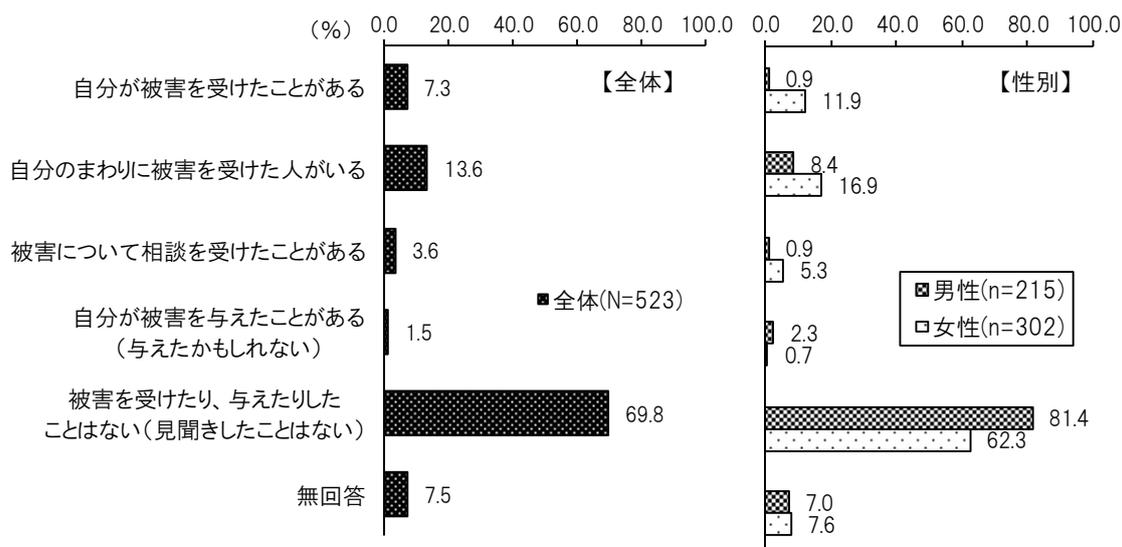


単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）
全体(N=523)	3.8	6.9	1.5	0.8	77.4
【男性年齢別】					
29歳以下(n=25)	0.0	8.0	0.0	4.0	88.0
30歳代(n=31)	0.0	12.9	0.0	0.0	83.9
40歳代(n=42)	0.0	0.0	0.0	0.0	95.2
50歳代(n=38)	0.0	5.3	0.0	2.6	84.2
60歳代(n=34)	0.0	2.9	2.9	0.0	79.4
70歳以上(n=45)	0.0	0.0	0.0	0.0	82.2
【女性年齢別】					
29歳以下(n=34)	8.8	11.8	2.9	0.0	76.5
30歳代(n=43)	18.6	9.3	0.0	2.3	65.1
40歳代(n=69)	8.7	11.6	2.9	0.0	76.8
50歳代(n=80)	2.5	8.8	2.5	0.0	67.5
60歳代(n=37)	2.7	0.0	0.0	0.0	89.2
70歳以上(n=39)	0.0	10.3	2.6	2.6	61.5

④ドメスティック・バイオレンス（DV）

ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験については、「自分が被害を受けたことがある」が7.3%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が13.6%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は3.6%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は1.5%であった。

性別では、女性の約1割（11.9%）が「自分が被害を受けたことがある」と回答しており、特に30歳代で高くなっている。



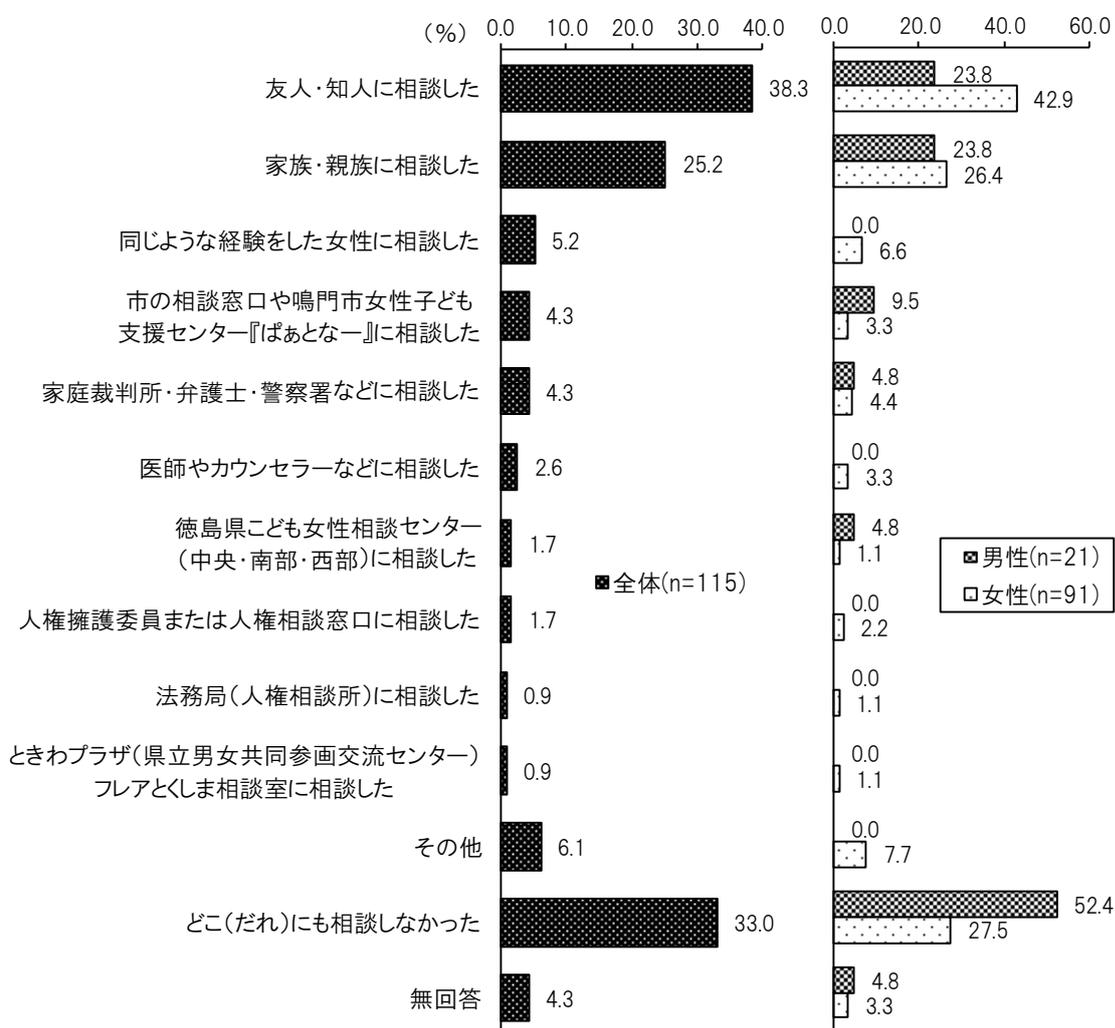
単位(%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）
全体(N=523)	7.3	13.6	3.6	1.5	69.8
【男性年齢別】					
29歳以下(n=25)	0.0	16.0	0.0	0.0	84.0
30歳代(n=31)	6.5	16.1	3.2	0.0	74.2
40歳代(n=42)	0.0	7.1	0.0	0.0	88.1
50歳代(n=38)	0.0	5.3	0.0	2.6	84.2
60歳代(n=34)	0.0	2.9	2.9	2.9	79.4
70歳以上(n=45)	0.0	6.7	0.0	6.7	77.8
【女性年齢別】					
29歳以下(n=34)	8.8	17.6	0.0	0.0	70.6
30歳代(n=43)	18.6	18.6	4.7	0.0	55.8
40歳代(n=69)	10.1	21.7	8.7	1.4	63.8
50歳代(n=80)	12.5	22.5	6.3	0.0	56.3
60歳代(n=37)	13.5	5.4	0.0	0.0	75.7
70歳以上(n=39)	7.7	5.1	7.7	2.6	59.0

2 DV経験者の相談状況

【問 28④ドメスティック・バイオレンス(DV)で「1～3」と答えた方のみにおたずねします。】
 問 29 あなたは、経験したことや見聞きしたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○印いくつでも)

DV経験者の相談状況については、「友人・知人に相談した」の割合が38.3%と最も高く、次いで「家族・親族に相談した」(25.2%)が続いている。一方、3割以上(33.0%)は「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答している。

性別では、男性は「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「友人・知人に相談した」の割合が高くなっている。



3 相談しなかった理由

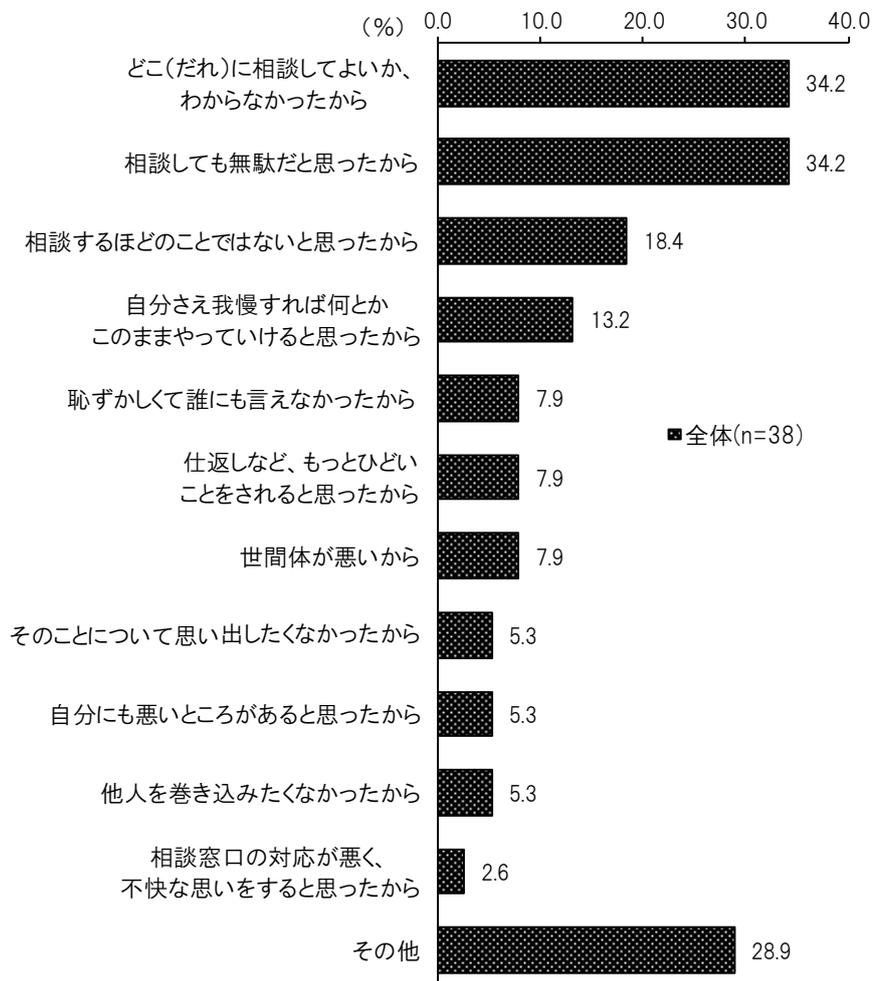
【問 29 で「12」と答えた方のみにおたずねします。】

問 30 あなたが「どこ（だれ）にも相談しなかった」のは、なぜですか。

（○印いくつでも）

相談しなかった理由については、「どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」の割合がそれぞれ 34.2%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」（18.4%）、「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」（13.2%）の順となっている。

また「その他」では、「すでに過去のことだったから」「誰にも言わないでほしいと言われたから」などの意見がみられた。

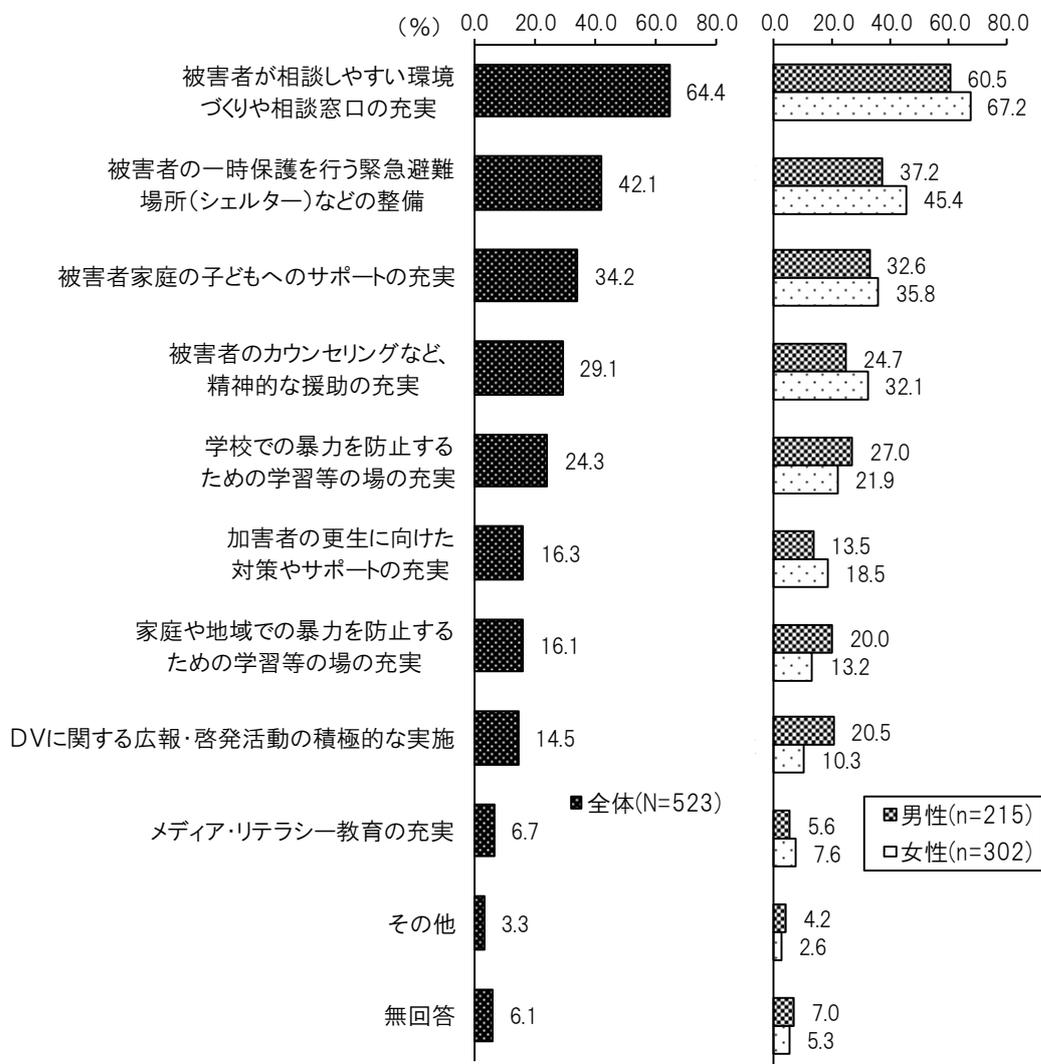


4 DVに対する必要な取組

問31 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）に対する対策や支援として、どのような取組が必要だと思いますか。（○印3つまで）

DVに対する必要な取組については、「被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実」が64.4%と最も高く、次いで「被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）などの整備」（42.1%）、「被害者家庭の子どもへのサポートの充実」（34.2%）、「被害者のカウンセリングなど、精神的な援助の充実」（29.1%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「DVに関する広報・啓発活動の積極的な実施」などの割合が高く、女性は「被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実」「被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）などの整備」「被害者のカウンセリングなど、精神的な援助の充実」などの割合が男性を上回っている。



性年齢別では、男性は 29 歳以下で「被害者のカウンセリングなど、精神的な援助の充実」、50～60 歳代で「被害者家庭の子どもへのサポートの充実」「加害者の更生に向けた対策やサポートの充実」、70 歳以上で「学校での暴力を防止するための学習等の場の充実」などの割合が高く、女性は 29 歳以下で「学校での暴力を防止するための学習等の場の充実」、30 歳代で「加害者の更生に向けた対策やサポートの充実」、40 歳代で「被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）などの整備」、50 歳代で「被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実」などの割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	被害者が相談しやす い環境づく	被害者への一時保 護を行う緊急避 難場所（シェル ター）などの整 備	被害者家庭のこ どもへのサポ ートの充実	被害者の援助の 充実	精神的な援助の 充実	学校での暴力を 防止するための 学習等の場の充 実	加害者の更生に 向けた対策やサ ポートの充実	家庭や地域での 暴力を防止する ための学習等の 場の充実	DVに関する広 報・啓発活動の 積極的な実施	メディア・リテ ラシー教育の充 実	その他
全体(N=523)	64.4	42.1	34.2	29.1	24.3	16.3	16.1	14.5	6.7	3.3	
【男性年齢別】											
29歳以下(n=25)	60.0	24.0	28.0	44.0	20.0	8.0	24.0	8.0	8.0	8.0	
30歳代(n=31)	48.4	48.4	29.0	32.3	29.0	9.7	22.6	16.1	12.9	6.5	
40歳代(n=42)	59.5	47.6	28.6	21.4	21.4	11.9	19.0	19.0	0.0	4.8	
50歳代(n=38)	65.8	42.1	44.7	21.1	18.4	21.1	13.2	26.3	5.3	0.0	
60歳代(n=34)	58.8	38.2	47.1	11.8	26.5	20.6	26.5	23.5	5.9	8.8	
70歳以上(n=45)	66.7	22.2	20.0	24.4	42.2	8.9	17.8	24.4	4.4	0.0	
【女性年齢別】											
29歳以下(n=34)	73.5	47.1	38.2	38.2	35.3	17.6	17.6	5.9	14.7	0.0	
30歳代(n=43)	53.5	39.5	39.5	30.2	18.6	30.2	7.0	11.6	9.3	11.6	
40歳代(n=69)	63.8	62.3	44.9	31.9	17.4	15.9	14.5	7.2	4.3	0.0	
50歳代(n=80)	80.0	43.8	36.3	43.8	18.8	18.8	8.8	13.8	6.3	1.3	
60歳代(n=37)	59.5	48.6	24.3	18.9	24.3	21.6	21.6	5.4	16.2	2.7	
70歳以上(n=39)	64.1	20.5	23.1	17.9	25.6	7.7	15.4	15.4	0.0	2.6	

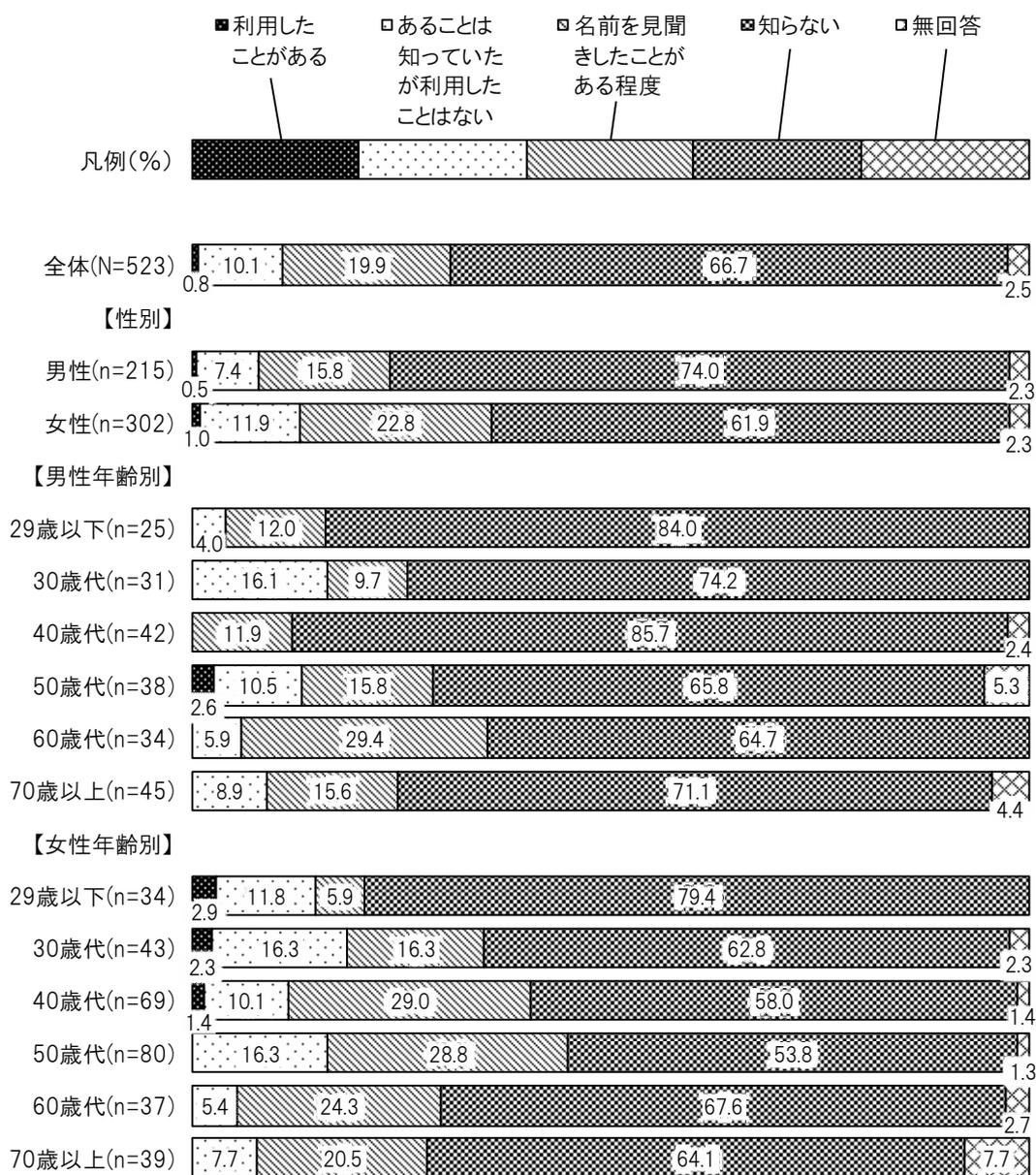
5 鳴門市女性子ども支援センター『ぱあとなー』の認知状況

問 32 あなたは、鳴門市女性子ども支援センター『ぱあとなー』をご存知ですか。
(○印1つ)

鳴門市女性子ども支援センター『ぱあとなー』の認知状況については、「利用したことがある」の割合が0.8%、「あることは知っていたが利用したことはない」が10.1%、「名前を見聞きしたことがある程度」が19.9%となっており、合計で約3割(30.8%)の『認知率』となっている。一方、「知らない」は66.7%となっている。

性別では、男性は「知らない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「名前を見聞きしたことがある程度」の割合が高くなっている。

性年齢別では、男性の60歳代、女性の40～50歳代で『認知率(合計)』が他の年齢層に比べて高くなっている。



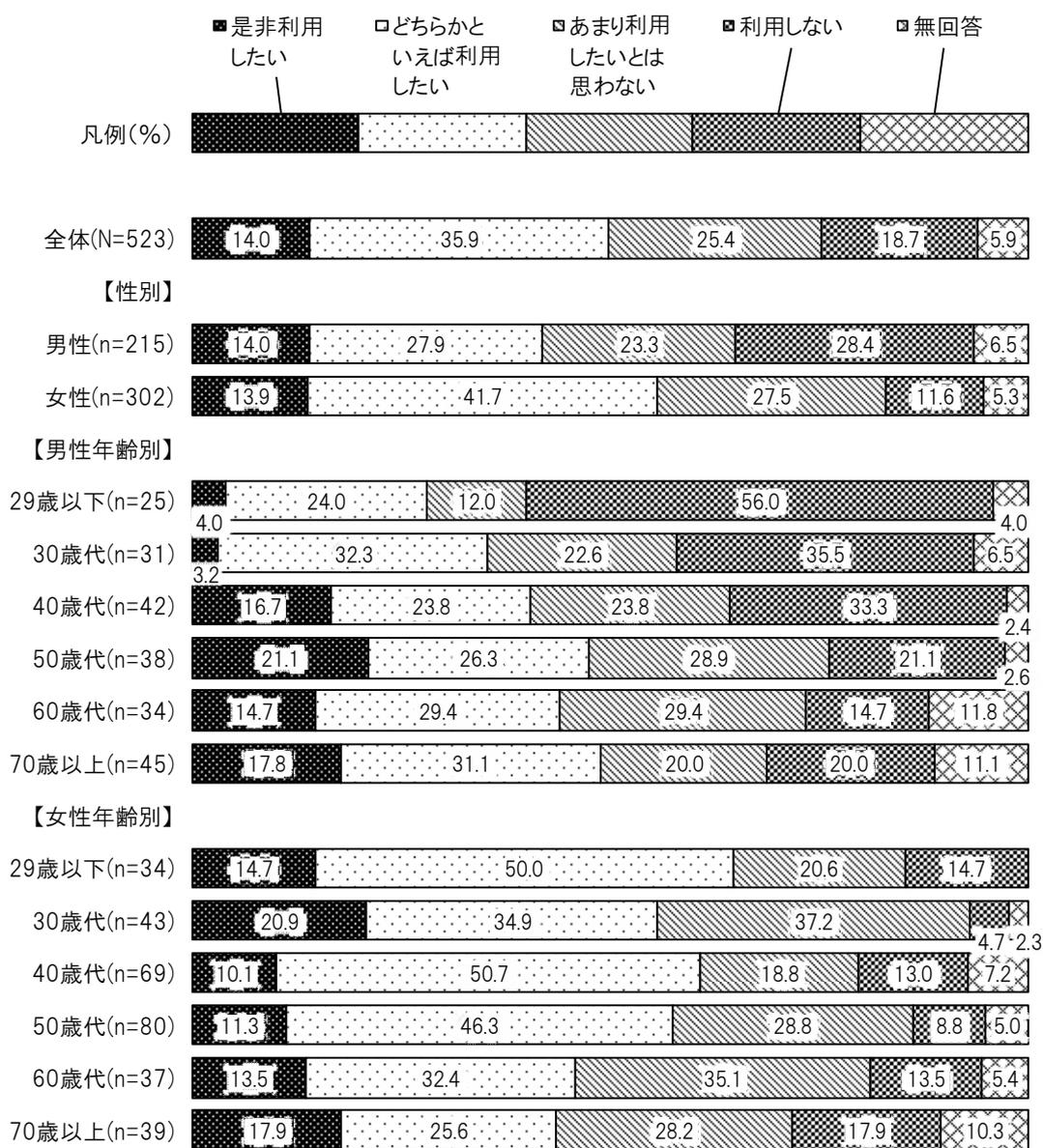
6 鳴門市女性子ども支援センター『ぱあとなー』の利用意向

問 33 あなたは、今後、相談事ができたときに鳴門市女性子ども支援センター『ぱあとなー』を利用してみたいと思いますか。(○印1つ)

鳴門市女性子ども支援センター『ぱあとなー』の利用意向については、「是非利用したい」が14.0%、「どちらかといえば利用したい」が35.9%で、合計49.9%が『利用したい』と回答している。一方、「あまり利用したいとは思わない」(25.4%)、「利用しない」(18.7%)の合計は44.1%であった。

性別では、男性は「利用しない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「どちらかといえば利用したい」の割合が高くなっている。

性年齢別では、男性の40歳代以上、女性の50歳代以下で『利用したい(合計)』の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



【6】性的マイノリティ「LGBT（Q+）」等について

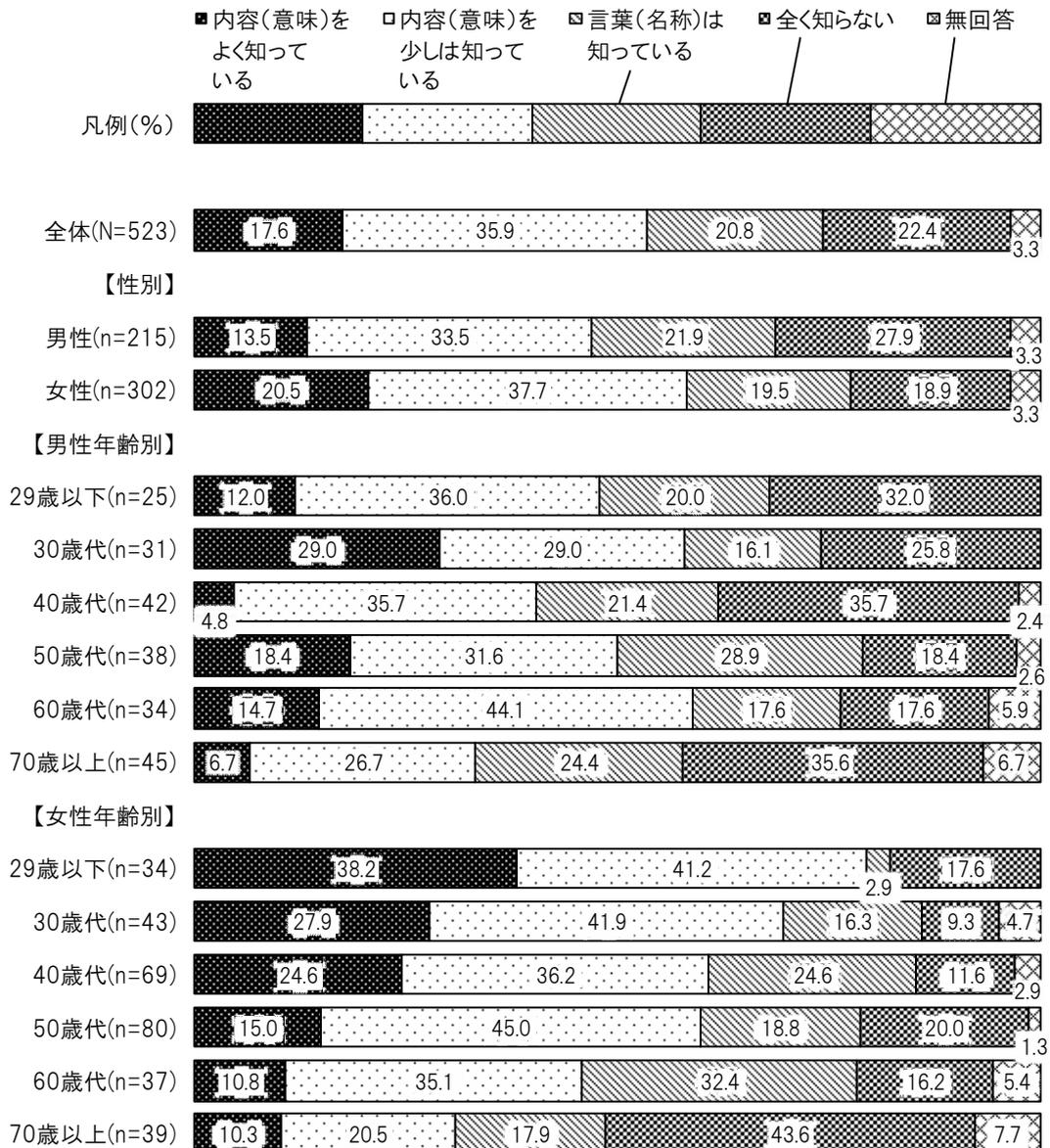
1 「LGBT（Q+）」「性的マイノリティ」の認知状況

問 34 あなたは「LGBT（Q+）」「性的マイノリティ」という言葉や意味を知っていますか。（○印1つ）

「LGBT（Q+）」「性的マイノリティ」の認知状況については、「内容（意味）をよく知っている」の割合が 17.6%、「内容（意味）を少し知っている」が 35.9%、「言葉（名称）は知っている」が 20.8%となっており、合計で7割以上（74.3%）の『認知率』となっている。一方、「全く知らない」は 22.4%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「全く知らない」の割合が高く、女性は「内容（意味）をよく知っている」の割合が男性を上回っている。

性年齢別では、男性の 30 歳代で「内容（意味）をよく知っている」の割合が高く、女性は若い年齢層ほど「内容（意味）をよく知っている」の割合が増える傾向にある。



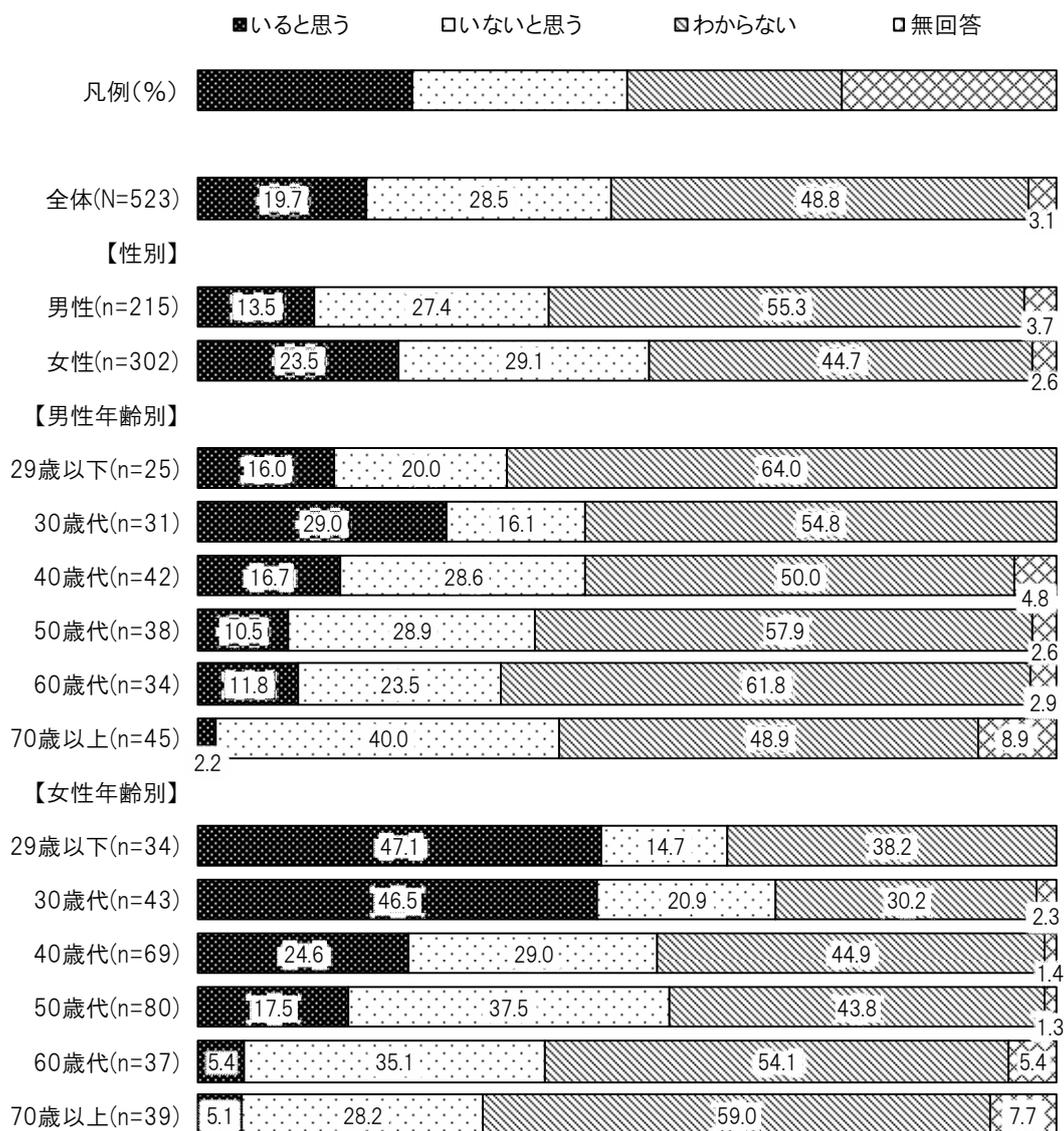
2 身近に性的マイノリティの当事者がいることについて

問 35 あなたのまわりに性的マイノリティの当事者がいると思いますか。(○印1つ)

身近に性的マイノリティの当事者がいることについては、「いると思う」の割合が19.7%、「いないと思う」が28.5%、「わからない」が48.8%となっている。

性別では、男性は「わからない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「いると思う」の割合が高くなっている。

性年齢別では、男性の30歳代、女性の30歳代以下で「いると思う」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

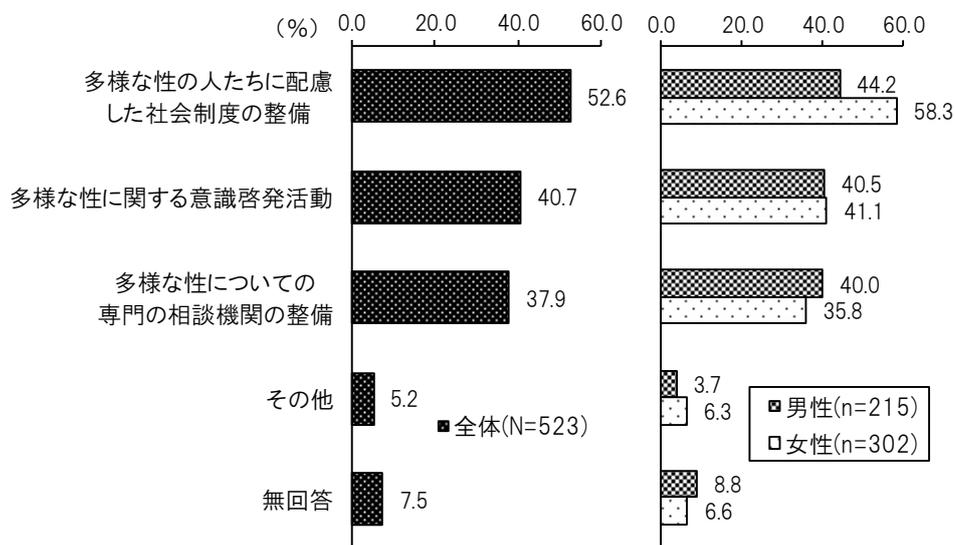


3 多様な性の人たちが暮らしやすい社会をつくるために必要な取組

問 36 性的マイノリティのような多様な性の人たちが暮らしやすい社会をつくるために、どのような取組が必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

多様な性の人たちが暮らしやすい社会をつくるために必要な取組については、「多様な性の人たちに配慮した社会制度の整備」の割合が52.6%と最も高く、次いで「多様な性に関する意識啓発活動」(40.7%)、「多様な性についての専門の相談機関の整備」(37.9%)の順となっている。

性別では、女性は「多様な性の人たちに配慮した社会制度の整備」の割合が男性を大きく上回っている。

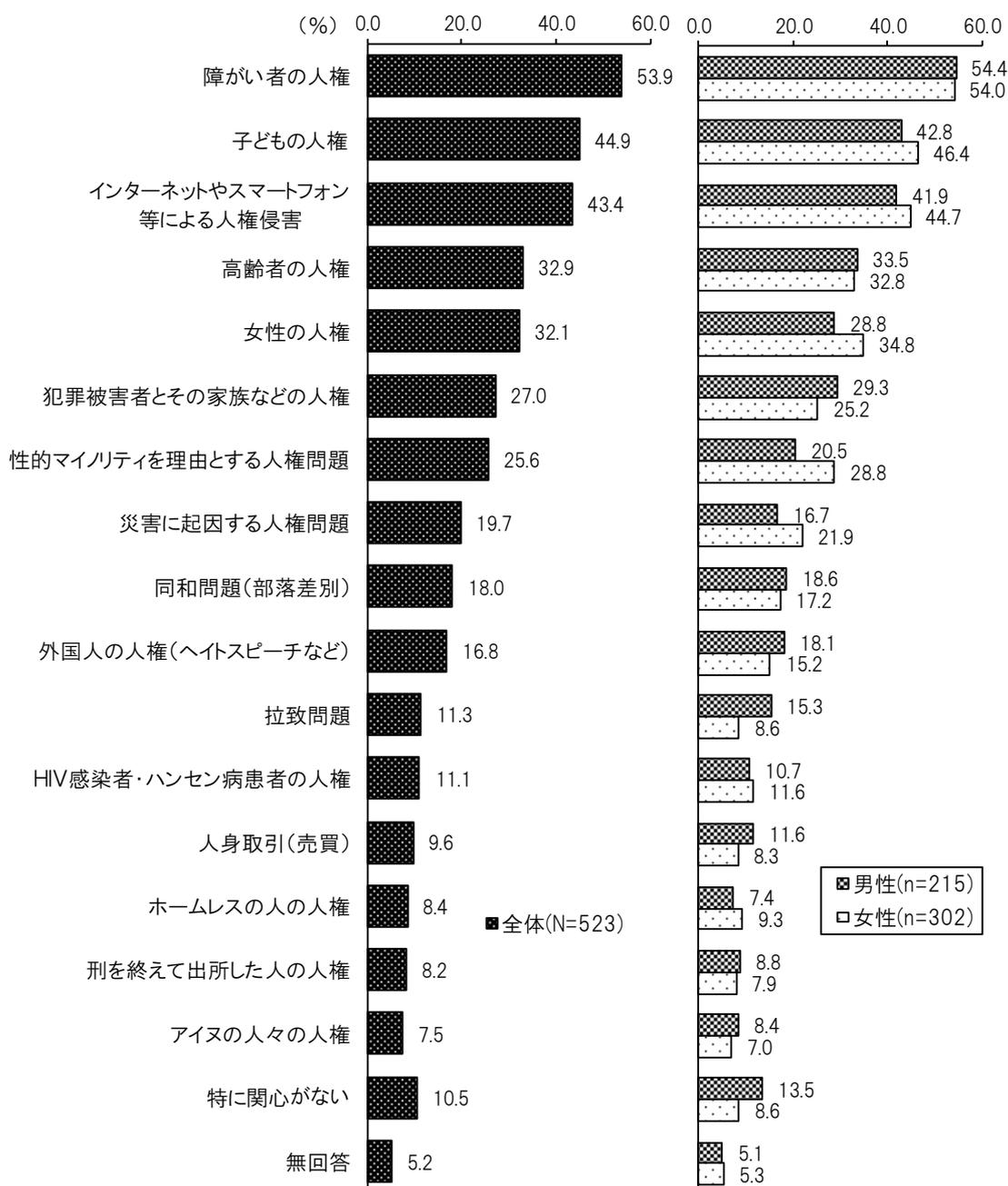


4 今後、鳴門市が取り組むべき人権課題

問 37 性的マイノリティのほかに、障がい者や被差別部落の人々、在日外国人やアイヌの人々など、社会的少数者（マイノリティ）と言われる人たちの中には、様々な差別に苦しんでいる人が少なくありません。このような人たちが暮らしやすい社会をつくるために、今後、鳴門市はどのような人権課題の解決にさらに取り組むべきだと思いますか。（○印いくつでも）

今後、鳴門市が取り組むべき人権課題については、「障がい者の人権」の割合が 53.9%と最も高く、次いで「子どもの人権」（44.9%）、「インターネットやスマートフォン等による人権侵害」（43.4%）、「高齢者の人権」（32.9%）、「女性の人権」（32.1%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「拉致問題」などの割合が高く、女性は「女性の人権」「性的マイノリティを理由とする人権問題」などの割合が男性を上回っている。



性年齢別では、男性は29歳以下で「特に関心がない」、30歳代や60歳代で「子どもの人権」、50歳代で「犯罪被害者とその家族などの人権」、60歳代以上で「高齢者の人権」の割合が高く、女性は29歳以下で「障がい者の人権」「同和問題（部落差別）」、30歳代で「性的マイノリティを理由とする人権問題」、70歳以上で「特に関心がない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	障がい者の人権	子どもの人権	インサイダーネットワークによる人権侵害	高齢者の人権	女性の人権	犯罪被害者などの人権	性的マイノリティを理由とする人権問題	災害に起因する人権問題	同和問題（部落差別）
全体(N=523)	53.9	44.9	43.4	32.9	32.1	27.0	25.6	19.7	18.0
【男性年齢別】									
29歳以下(n=25)	44.0	24.0	36.0	16.0	24.0	28.0	20.0	28.0	24.0
30歳代(n=31)	54.8	58.1	48.4	29.0	32.3	25.8	29.0	22.6	16.1
40歳代(n=42)	50.0	35.7	38.1	21.4	26.2	23.8	19.0	16.7	19.0
50歳代(n=38)	57.9	39.5	57.9	28.9	23.7	44.7	28.9	15.8	28.9
60歳代(n=34)	61.8	61.8	52.9	52.9	35.3	29.4	26.5	8.8	8.8
70歳以上(n=45)	55.6	37.8	22.2	46.7	31.1	24.4	4.4	13.3	15.6
【女性年齢別】									
29歳以下(n=34)	70.6	52.9	55.9	38.2	47.1	29.4	41.2	20.6	32.4
30歳代(n=43)	41.9	51.2	44.2	16.3	37.2	16.3	51.2	27.9	16.3
40歳代(n=69)	59.4	56.5	50.7	30.4	40.6	24.6	29.0	23.2	14.5
50歳代(n=80)	56.3	41.3	52.5	38.8	31.3	36.3	28.8	18.8	17.5
60歳代(n=37)	51.4	40.5	35.1	32.4	32.4	29.7	13.5	29.7	16.2
70歳以上(n=39)	41.0	33.3	17.9	38.5	20.5	5.1	7.7	12.8	10.3

単位 (%)	外国人のスパイ活動など	拉致問題	HIV感染者・H7N9患者	人身取引（売買）	ホームレスの人	刑を終えて出所した人	アイヌの人々の人権	特に関心がない
全体(N=523)	16.8	11.3	11.1	9.6	8.4	8.2	7.5	10.5
【男性年齢別】								
29歳以下(n=25)	20.0	16.0	16.0	20.0	12.0	16.0	12.0	36.0
30歳代(n=31)	22.6	16.1	9.7	19.4	3.2	9.7	6.5	9.7
40歳代(n=42)	16.7	14.3	11.9	14.3	9.5	7.1	9.5	16.7
50歳代(n=38)	23.7	10.5	18.4	10.5	5.3	5.3	7.9	5.3
60歳代(n=34)	14.7	17.6	5.9	11.8	5.9	11.8	8.8	8.8
70歳以上(n=45)	13.3	17.8	4.4	0.0	8.9	6.7	6.7	11.1
【女性年齢別】								
29歳以下(n=34)	17.6	5.9	11.8	8.8	11.8	2.9	0.0	5.9
30歳代(n=43)	14.0	11.6	14.0	7.0	7.0	7.0	4.7	7.0
40歳代(n=69)	14.5	5.8	10.1	4.3	10.1	10.1	7.2	7.2
50歳代(n=80)	18.8	10.0	11.3	10.0	7.5	8.8	8.8	7.5
60歳代(n=37)	16.2	13.5	16.2	10.8	13.5	10.8	13.5	2.7
70歳以上(n=39)	7.7	5.1	7.7	10.3	7.7	5.1	5.1	23.1

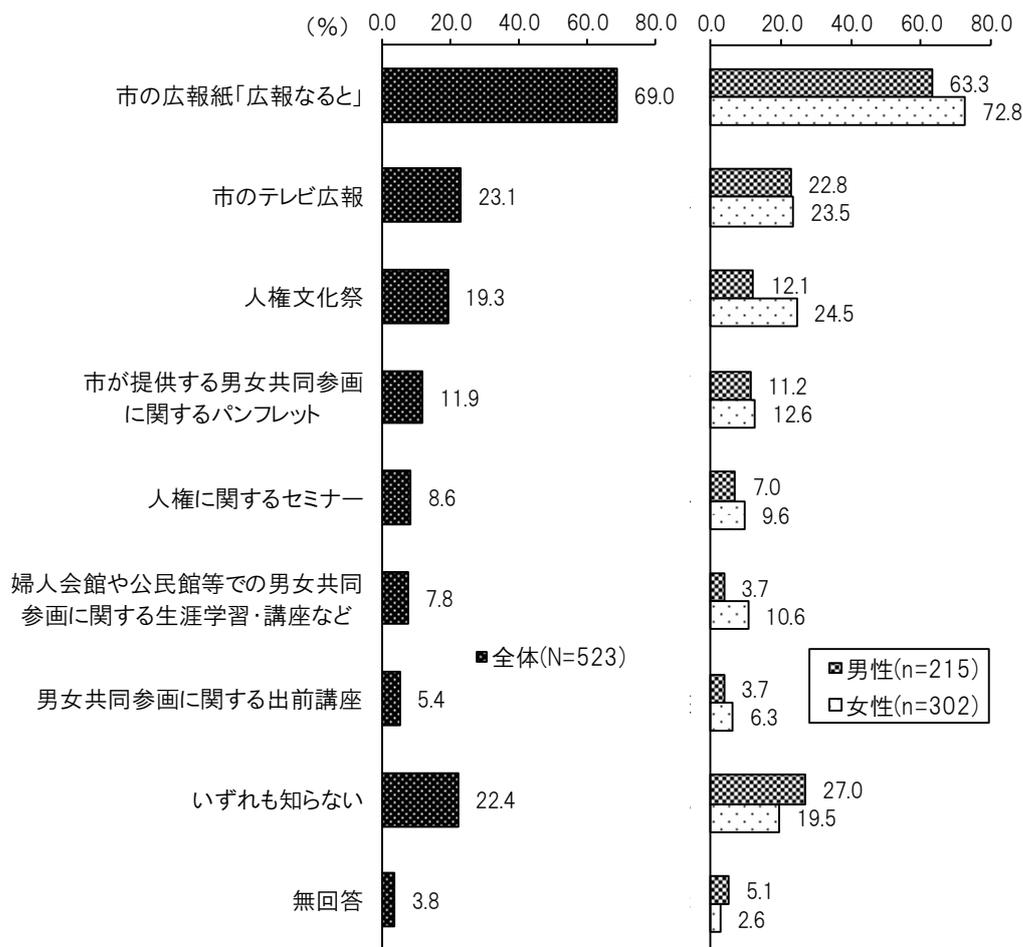
【7】男女共同参画の取組について

1 男女共同参画に関連する広報等の認知状況

問 38 鳴門市では、男女共同参画に関連する広報等を通じた情報提供や、セミナーやイベント、講座などを開催しています。このうち、あなたをご存知のものをお答えください。（○印いくつでも）

男女共同参画に関連する報等の認知状況については、「市の広報紙「広報なると」」の割合が 69.0%と突出して最も高く、次いで「市のテレビ広報」(23.1%)、「人権文化祭」(19.3%)、「市が提供する男女共同参画に関するパンフレット」(11.9%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「いずれも知らない」の割合が高く、女性は「市の広報紙「広報なると」」「人権文化祭」「婦人会館や公民館等での男女共同参画に関する生涯学習・講座など」の割合が男性を上回っている。



性年齢別では、男性は60歳代で「人権文化祭」、60歳代以上で「市の広報紙「広報なると」」の割合が高く、女性は30歳代で「人権に関するセミナー」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。また、男女共に29歳以下で「いずれも知らない」の割合が高くなっている。

単位 (%)	市の広報紙「広報なると」	市のテレビ広報	人権文化祭	市が提供するパンフレット	人権に関するセミナー	習・講座など	婦人会館や公民館等生涯の男女共同参画に関する出前講座	いずれも知らない
全体(N=523)	69.0	23.1	19.3	11.9	8.6	7.8	5.4	22.4
【男性年齢別】								
29歳以下(n=25)	32.0	12.0	8.0	0.0	0.0	0.0	8.0	64.0
30歳代(n=31)	54.8	25.8	12.9	22.6	12.9	6.5	6.5	35.5
40歳代(n=42)	64.3	28.6	7.1	7.1	2.4	0.0	4.8	31.0
50歳代(n=38)	57.9	23.7	10.5	21.1	7.9	10.5	2.6	26.3
60歳代(n=34)	82.4	17.6	26.5	5.9	11.8	2.9	0.0	11.8
70歳以上(n=45)	75.6	24.4	8.9	8.9	6.7	2.2	2.2	8.9
【女性年齢別】								
29歳以下(n=34)	61.8	20.6	26.5	5.9	2.9	8.8	0.0	29.4
30歳代(n=43)	72.1	23.3	18.6	14.0	18.6	2.3	4.7	23.3
40歳代(n=69)	72.5	26.1	30.4	11.6	7.2	5.8	8.7	17.4
50歳代(n=80)	76.3	23.8	28.8	15.0	12.5	15.0	11.3	18.8
60歳代(n=37)	78.4	16.2	18.9	8.1	10.8	16.2	5.4	13.5
70歳以上(n=39)	71.8	28.2	15.4	17.9	2.6	15.4	0.0	17.9

2 男女共同参画に関連する情報等の有益度

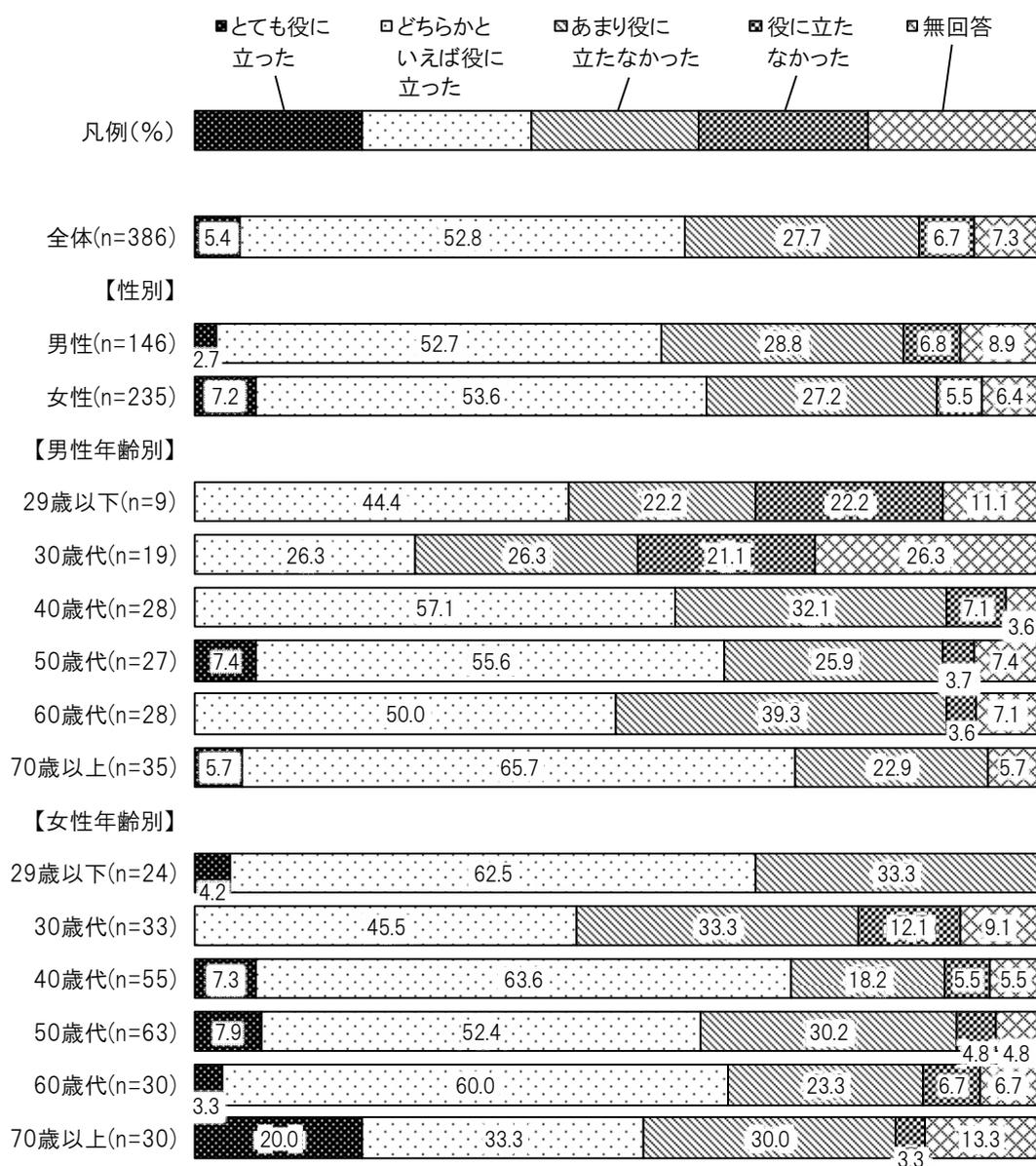
【問 38 で「1～7」と答えた方のみにおたずねします。】

問 39 男女共同参画に関連する情報や、参加したセミナーやイベントは、あなたにとって役に立つ内容でしたか。(○印1つ)

男女共同参画に関連する情報等の有益度については、「とても役に立った」が5.4%、「どちらかといえば役に立った」が52.8%で、合計58.2%が『役に立った』と回答している。一方、「あまり役に立たなかった」(27.7%)、「役に立たなかった」(6.7%)の合計は34.4%であった。

性別では、女性は男性に比べ「とても役に立った」の割合がやや高くなっている。

性年齢別では、男性の30歳代で「役に立たなかった」、女性の70歳以上で「とても役に立った」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



注: 男性の29歳以下については、件数(n)が少ないため、参考値として参照。

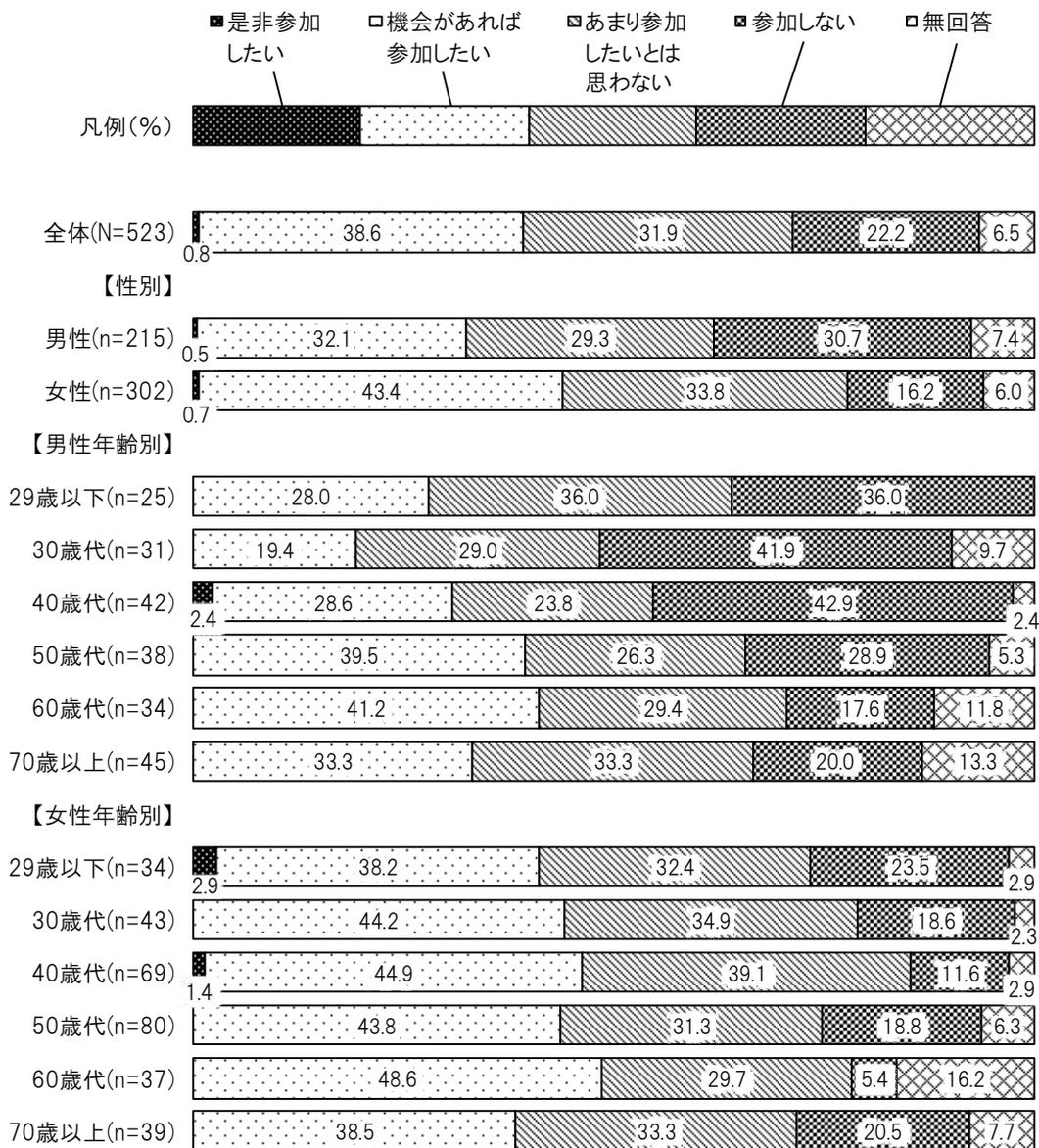
3 男女共同参画に関するセミナー等への参加意向

問 40 あなたは、今後、市が開催する人権や男女共同参画に関するセミナーやイベント、生涯学習などに参加（観覧）してみたいと思いますか。（○印1つ）

男女共同参画に関するセミナー等への参加意向については、「是非参加したい」が0.8%、「機会があれば参加したい」が38.6%で、合計約4割（39.4%）が『参加したい』と回答している。一方、「あまり参加したいとは思わない」（31.9%）、「参加しない」（22.2%）の合計は54.1%であった。

性別では、男性は「参加しない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「機会があれば参加したい」の割合が高くなっている。

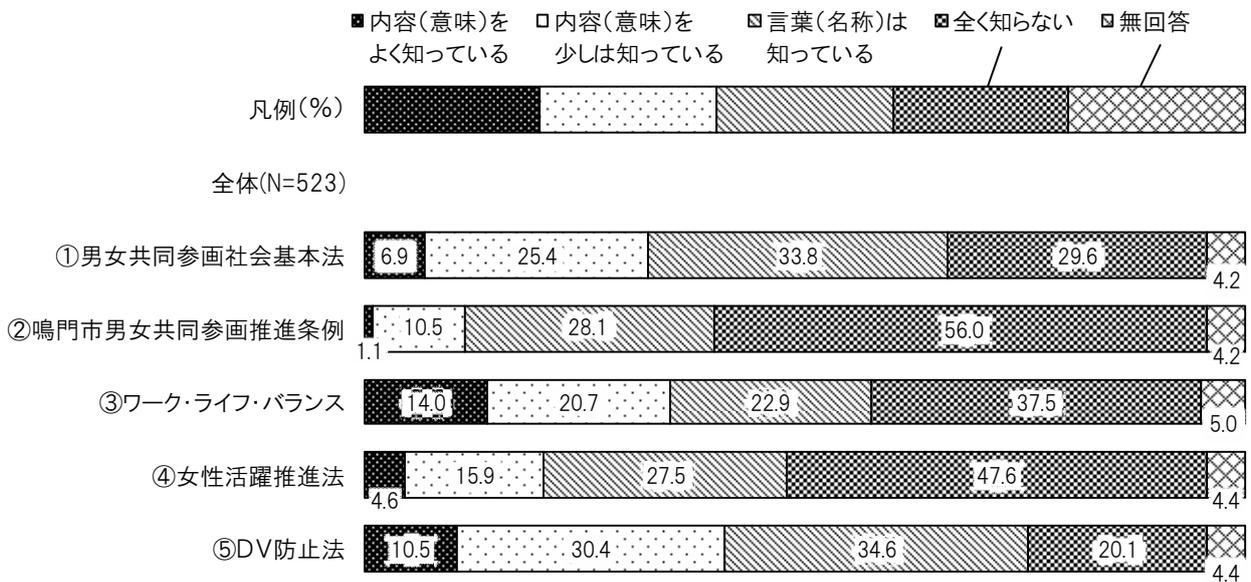
性年齢別では、男性の50～60歳代で「機会があれば参加したい」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



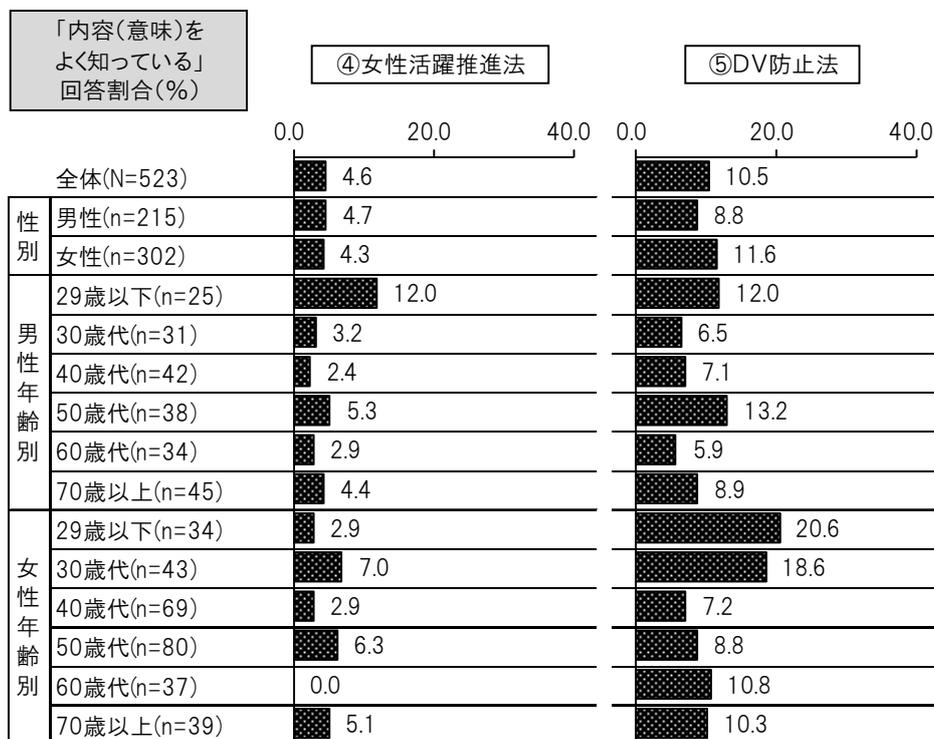
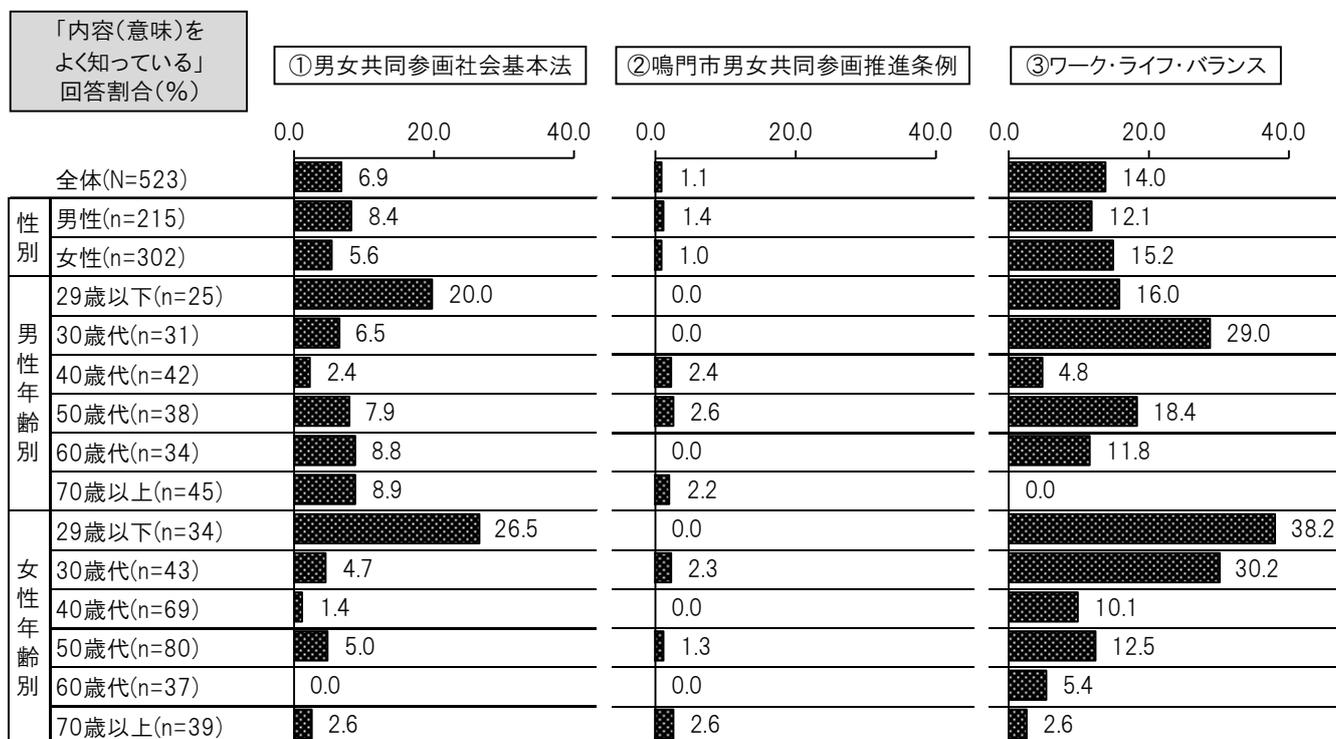
4 男女共同参画に関する用語の認知状況

問 41 あなたは、次の言葉をご存知でしたか。（○印1つずつ）

男女共同参画に関する用語の認知状況について、「内容（意味）をよく知っている」と「内容（意味）を少しは知っている」の合計では、「⑤DV防止法」が40.9%と最も高く、次いで「③ワーク・ライフ・バランス」（34.7%）、「①男女共同参画社会基本法」（32.3%）となっている。一方、「全く知らない」の割合が高い順に、「②鳴門市男女共同参画推進条例」（56.0%）、「④女性活躍推進法」（47.6%）となっている。



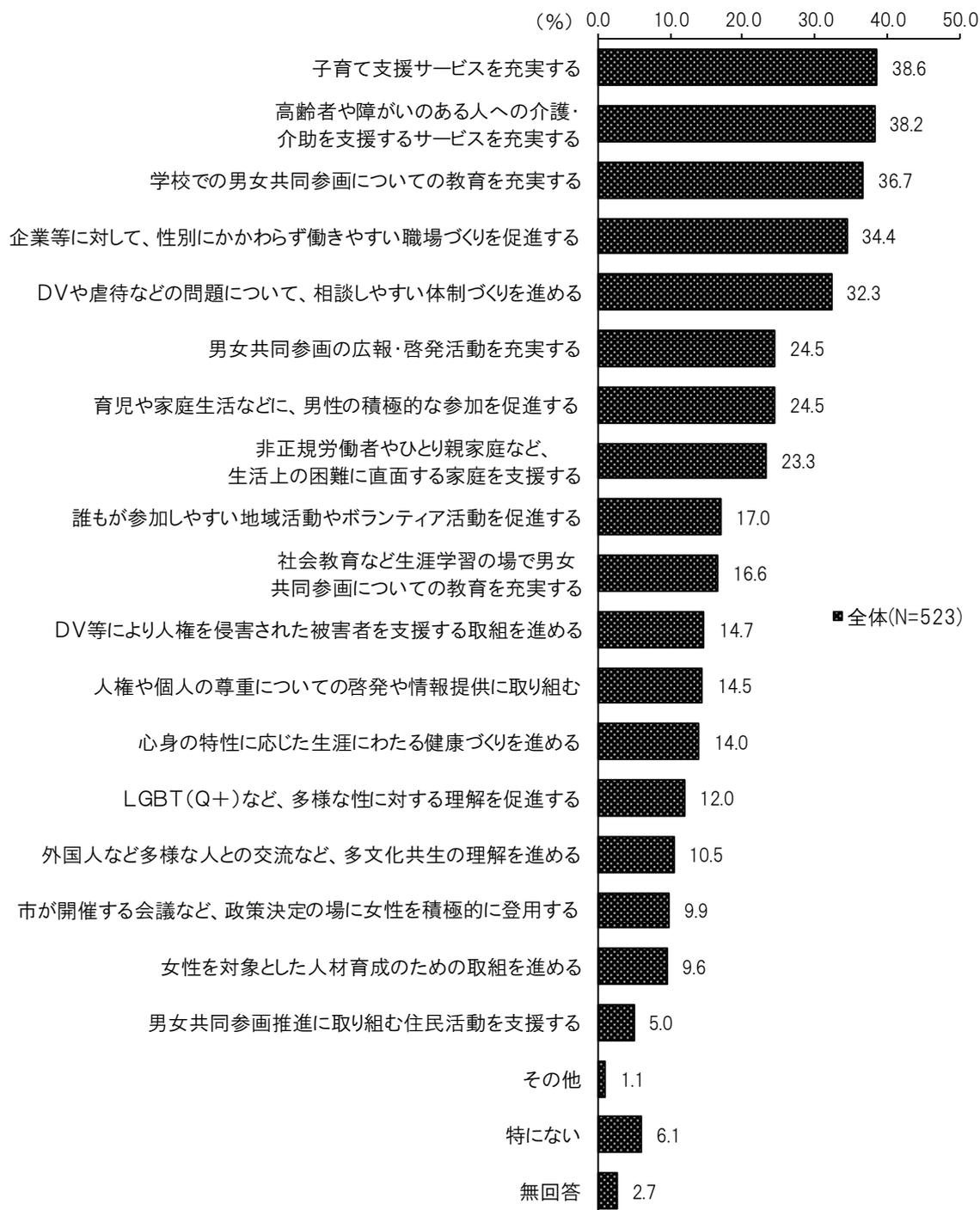
「内容（意味）をよく知っている」を属性別にみると、男性は 29 歳以下で「④女性活躍推進法」、30 歳代で「③ワーク・ライフ・バランス」の割合が高く、女性は 30 歳代以下で「③ワーク・ライフ・バランス」「⑤DV防止法」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。また、男女共に 29 歳以下で「①男女共同参画社会基本法」の割合が高くなっている。



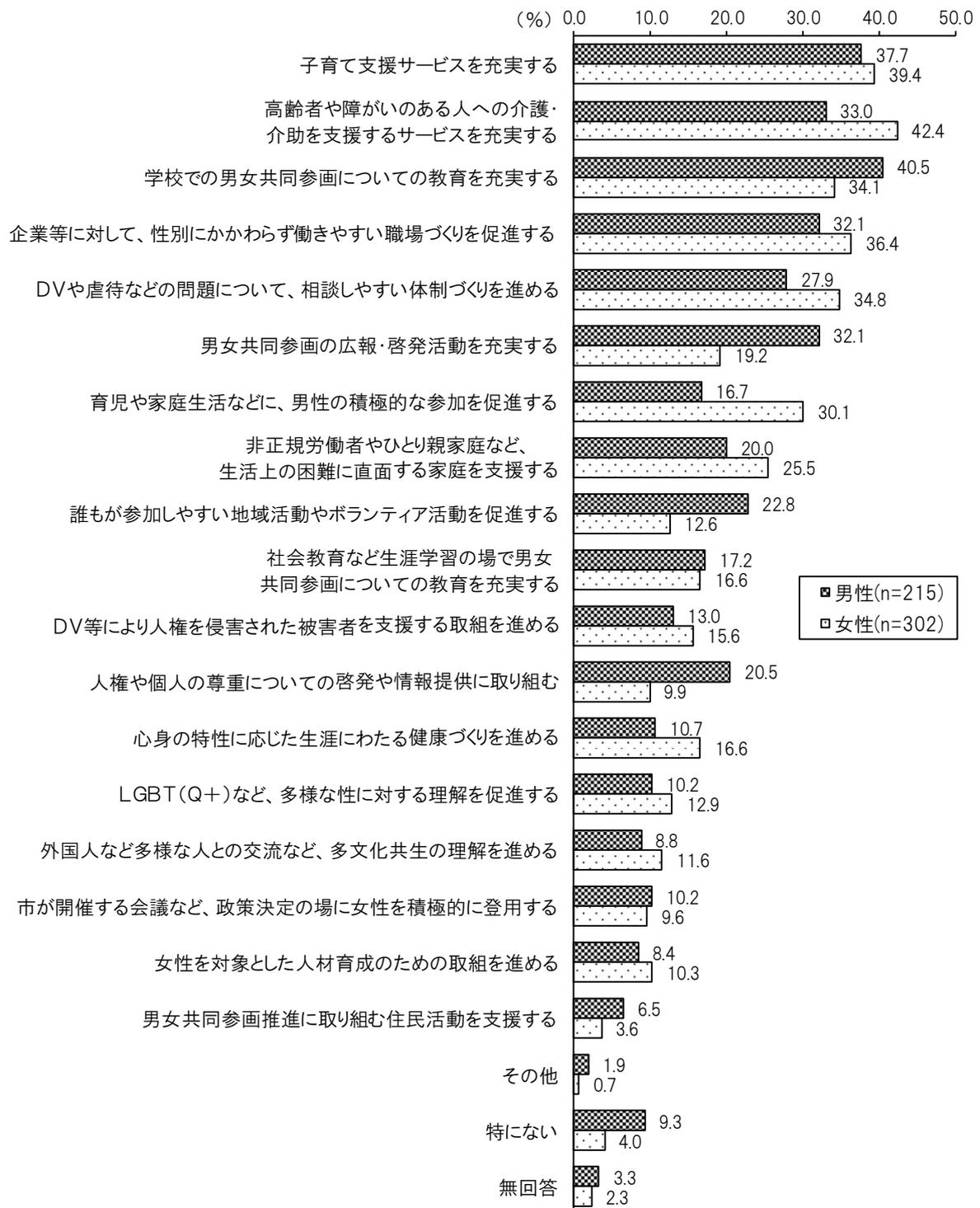
5 男女共同参画の推進に行政が力を入れるべきこと

問 42 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○印5つまで）

男女共同参画の推進に行政が力を入れるべきことについては、「子育て支援サービスを充実する」の割合が38.6%と最も高く、ほぼ並んで「高齢者や障がいのある人への介護・介助を支援するサービスを充実する」（38.2%）が続き、以下「学校での男女共同参画についての教育を充実する」（36.7%）、「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」（34.4%）、「DVや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める」（32.3%）の順となっている。



性別では、男性は「男女共同参画の広報・啓発活動を充実する」「誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する」「人権や個人の尊重についての啓発や情報提供に取り組む」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「高齢者や障がいのある人への介護・介助を支援するサービスを充実する」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する」などの割合が高くなっている。



性年齢別では、男性は40歳代や70歳以上で「人権や個人の尊重についての啓発や情報提供に取り組む」、50歳代で「DVや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する」などの割合が高く、女性は29歳以下で「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する」「LGBT(Q+)など、多様な性に対する理解を促進する」、30歳代で「外国人など多様な人との交流など、多文化共生の理解を進める」、60歳代で「誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する」「社会教育など生涯学習の場で男女共同参画についての教育を充実する」などの割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。また、男女共に30歳代で「子育て支援サービスを充実する」、70歳以上で「男女共同参画の広報・啓発活動を充実する」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位(%)	子育て支援サービスを充実する	高齢者や障がいのある人への介護・介助を支援するサービスを充実する	学校での男女共同参画についての教育を充実する	企業等に働きやすさを促進する	DVや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める	男女共同参画の広報・啓発活動を充実する	育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する	非正規労働者やひとり親家庭など、生活上の困難に直面する家庭を支援する	誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する	社会教育など生涯学習の場で男女共同参画についての教育を充実する
全体(N=523)	38.6	38.2	36.7	34.4	32.3	24.5	24.5	23.3	17.0	16.6
【男性年齢別】										
29歳以下(n=25)	28.0	20.0	20.0	40.0	24.0	24.0	16.0	12.0	20.0	12.0
30歳代(n=31)	51.6	25.8	45.2	19.4	16.1	25.8	12.9	25.8	12.9	9.7
40歳代(n=42)	33.3	26.2	42.9	28.6	19.0	26.2	11.9	21.4	33.3	19.0
50歳代(n=38)	28.9	39.5	39.5	36.8	39.5	39.5	26.3	18.4	21.1	18.4
60歳代(n=34)	47.1	38.2	38.2	29.4	32.4	29.4	14.7	11.8	32.4	20.6
70歳以上(n=45)	37.8	42.2	48.9	37.8	33.3	42.2	17.8	26.7	15.6	20.0
【女性年齢別】										
29歳以下(n=34)	44.1	23.5	41.2	50.0	38.2	8.8	47.1	23.5	5.9	17.6
30歳代(n=43)	55.8	41.9	25.6	30.2	34.9	9.3	34.9	32.6	9.3	11.6
40歳代(n=69)	47.8	27.5	40.6	42.0	36.2	13.0	27.5	31.9	15.9	11.6
50歳代(n=80)	37.5	55.0	32.5	36.3	36.3	13.8	30.0	21.3	6.3	17.5
60歳代(n=37)	32.4	51.4	43.2	27.0	29.7	40.5	21.6	29.7	27.0	29.7
70歳以上(n=39)	12.8	51.3	20.5	30.8	30.8	41.0	23.1	12.8	15.4	15.4

(→続く)

(→続き)

単位(%)	DV等により人権を侵害された被害者を支援する取組を進める	人権や個人の尊重についての啓発や情報提供に取り組む	心身の特性に応じた生涯にわたる健康づくりを進める	LGBT(Q+)など、多様な性に対する理解を促進する	外国人など多様な人との交流など、多文化共生の理解を進める	女性が積極的に登用する	市が開催する会議など、政策決定の場を女性を対象とした人材育成のための取組を進める	男女共同参画推進に取り組む住民活動を支援する	その他	特になし
全体(N=523)	14.7	14.5	14.0	12.0	10.5	9.9	9.6	5.0	1.1	6.1
【男性年齢別】										
29歳以下(n=25)	16.0	20.0	8.0	16.0	4.0	8.0	8.0	0.0	0.0	12.0
30歳代(n=31)	16.1	9.7	12.9	22.6	9.7	3.2	9.7	6.5	3.2	9.7
40歳代(n=42)	19.0	31.0	9.5	4.8	7.1	9.5	9.5	4.8	2.4	16.7
50歳代(n=38)	13.2	5.3	10.5	10.5	13.2	10.5	10.5	10.5	5.3	7.9
60歳代(n=34)	11.8	20.6	11.8	2.9	11.8	17.6	2.9	8.8	0.0	8.8
70歳以上(n=45)	4.4	31.1	11.1	8.9	6.7	11.1	8.9	6.7	0.0	2.2
【女性年齢別】										
29歳以下(n=34)	20.6	11.8	14.7	35.3	8.8	14.7	14.7	0.0	0.0	5.9
30歳代(n=43)	14.0	4.7	18.6	23.3	25.6	11.6	11.6	2.3	2.3	4.7
40歳代(n=69)	13.0	7.2	7.2	11.6	17.4	10.1	15.9	2.9	0.0	1.4
50歳代(n=80)	13.8	16.3	18.8	6.3	6.3	6.3	6.3	3.8	1.3	5.0
60歳代(n=37)	21.6	5.4	21.6	2.7	8.1	8.1	5.4	5.4	0.0	0.0
70歳以上(n=39)	15.4	10.3	23.1	7.7	2.6	10.3	7.7	7.7	0.0	7.7

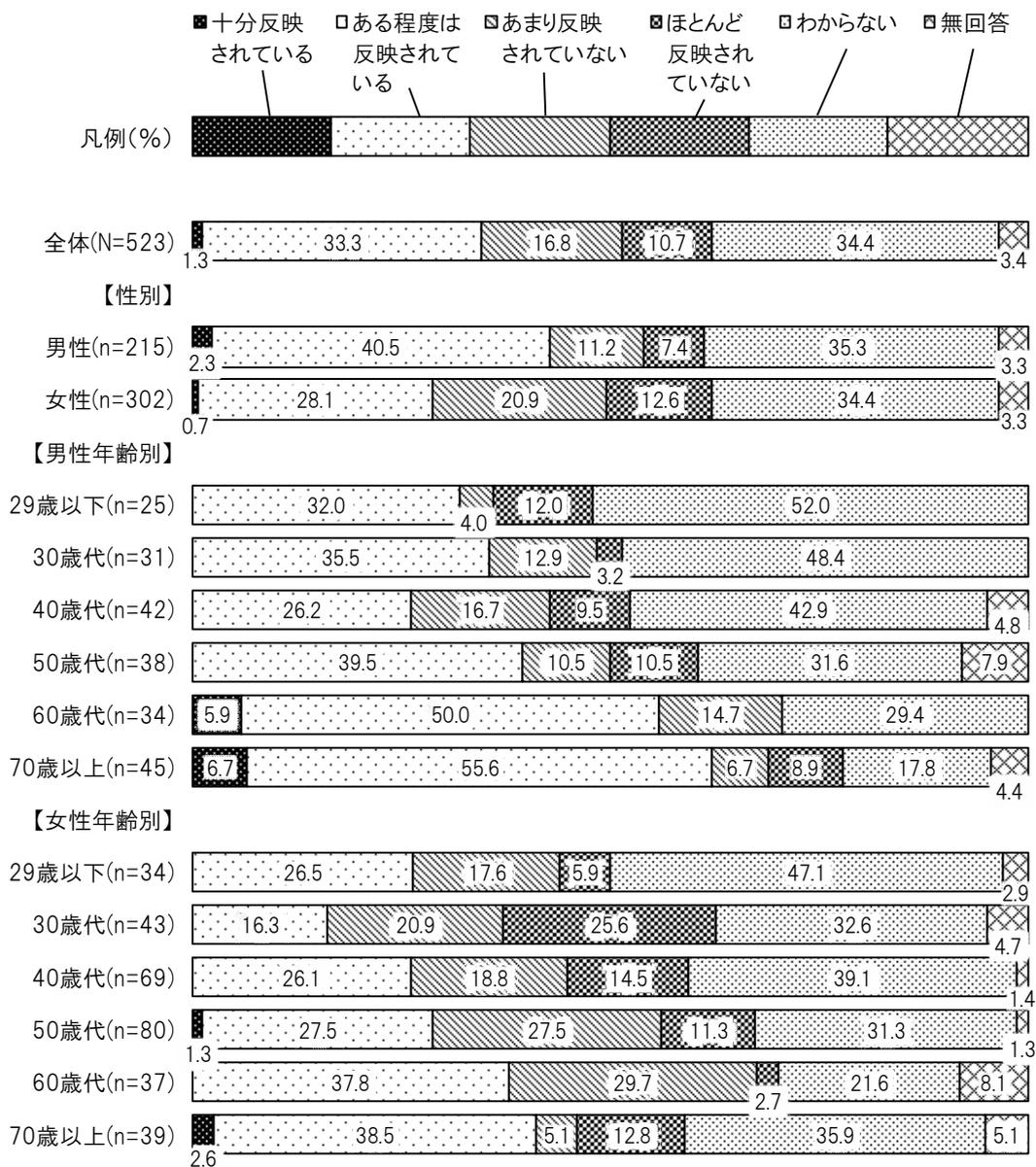
6 行政に対する女性の意見の反映について

問 43 あなたは、女性の意見は行政施策に反映されていると思いますか。(○印1つ)

行政に対する女性の意見の反映については、「十分反映されている」が 1.3%、「ある程度は反映されている」が 33.3%で、合計 34.6%が『反映されている』と回答している。一方、「あまり反映されていない」(16.8%)、「ほとんど反映されていない」(10.7%)の合計は 27.5%となっている。

性別では、男性は「ある程度は反映されている」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ『反映されていない(合計)』の割合が高くなっている。

性年齢別では、男性の60歳代以上で『反映されている(合計)』、女性の30歳代で「ほとんど反映されていない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



【8】自由記述回答集約結果

問 44 男女共同参画についてのご意見・ご要望など、どのようなことでもご自由にお書きください。

男女共同参画について、意見・要望等を自由記述方式で尋ねたところ、以下のような意見がみられた。なお、自由記述については、分野別に抜粋して掲載している。

1 男女平等意識について

- ・新たな差別意識を助長させるような、報道や施策等が現れないことを願う。（男性、29歳以下）
- ・全体の志は立派でも徳島県人の個人の意識レベルはとても低い。まずは行政の個々の教育から始めてはどうだろうか？（男性、30歳代）
- ・男女平等という言葉は美しいが、男女の差異（傾向）というものはあると思う。それを互いに受け入れたうえで、理想論ではない発展的な取組が増えれば良い。（男性、30歳代）
- ・少しずつ、女性の立場も認められ、生活しやすくなったように思います。これからもより一層、互いの価値が認められ、過ごしやすい社会になるよう願っています。（女性、30歳代）
- ・「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方には、役割、向き不向きはあるかと思います。（女性、30歳代）
- ・性別にかかわらず、一人一人の個性が尊重され、鳴門市民が生活の質を維持・向上できるようにしてほしい。（男性、40歳代）
- ・政治に関わる人たちが、男性多数でその政治活動をしている間は確実に女性が、家事、育児をしている。一部の女性が言っただけでは、男女平等なんて無理。（女性、40歳代）
- ・男女において、体のつくりが全く違うため、全てにおいて男女平等というのは無理があるのではないかと考えています。物事の考え方や感性も男女の差はあると思う。昔のようないきすぎた男尊女卑ではなく、男女の違いを分かったうえでお互いを尊重し協力していく事が大事なのではないかと、思っています。（女性、40歳代）
- ・特に鳴門や、田舎の高齢者は、男尊女卑の考え方を持っている人が多いと思うので、これから子どもたち（特に男の子）がそんな考えを持たないよう教育、しつけをしていかないといけないと思う。そして、女性で、仕事をしたいのなら、制度などには甘えず、自分の立場を考えて（女性だからと主張ばかりしないで）しっかり働いてほしいです。それが平等だと思います。（女性、40歳代）
- ・このアンケートに答えるだけで意識づけられました。（女性、50歳代）
- ・障がいのある方への配慮がなさすぎる。やはり全てにおいて、男が威張り過ぎている。男性、女性の境を考えずとも全ての人が全ての事に関心を持ち、お互いの事を考える事が当たり前になる事が、全ての始まりであると思う。（女性、50歳代）
- ・「女性だから出来るんだ！！」を力に、幼い時からの「当たり前」を変えることが必要だと思います。（女性、50歳代）

- ・男性、女性としてではなく一人の人間として、お互いに分かち合い、助け合う心を育てるために私自身も行動していくとともに、小さい子どもの時から意識づくりをしていく事（積み重ね）が、大切であると思います。思いやり、即、行動だと思います。（男性、60歳代）
- ・調査結果を精査し「男女共同参画」を多くの人に啓発することが大切だと思う。（男性、60歳代）
- ・性差はいかんともしがたい。体力的に差があるのはしかたない。互いに補うことが必要である。（男性、70歳代）
- ・男女を何もかも同じようにするのではなく、それぞれの特性に合った役割を果たすことにより、社会、職場、家庭を良くしていくという目的を社会全体が認め合うことが重要で、そのための啓発、教育等をしっかりと取り組むことが行政の役割であると思う。（男性、70歳代）

2 教育・学習の場における男女共同参画について

- ・「未成年期における教育を通じた意識醸成」が必要だと思います。これを進める事で初めて皆の意識が変化し10年、20年後の社会を変えることにつながると思うからです。（男性、30歳代）
- ・障がい者の知人に聞いた意見だが、最近の学生は障がい者に対して親切で思いやりがあり、振る舞いもスマートな人が多いとのこと。やはり学校での教育が持つ力は大きい。（男性、30歳代）
- ・現実にはまだまだ意識改革が出来ていない状況だと思うけれど、子どもの頃から教育として取り組んでいけば良い。（女性、50歳代）
- ・子育てを助けない父親をつくらないため、男子には小さいうちから教育が必要だと思います。（女性、50歳代）

3 政策・方針決定過程における男女共同参画について

- ・南海トラフ地震が心配される鳴門市では、避難所機能における女性意見の反映は不可欠だと思います。（男性、30歳代）
- ・男女共同参画は大事だと思うが、女性をあて職のように無理やり登用するのは違うと思う。能力があつてこそ登用すべき。（男性、40歳代）
- ・管理職などのポストには性別に関係なく、最適な人材を登用することが最善であり、性別による枠を設けることは良いことだとは思わない。（男性、50歳代）
- ・私は「男女雇用機会均等法」施行の年に就職しました。女性社員も「総合職」として就職しましたが、5年以内に全員退職しました。その頃に比べると女性登用も進んでいますが、まだまだだと思います。男の目線の習慣やこだわりがまだまだ残っています。私も含め社会を実質動かしている「男」の変化が必要です。（男性、50歳代）

4 職業生活における女性の活躍推進について

- ・男性も女性もその他の人も、その人の長所を生かしていけるような仕事に向けての個人面接、法整備、世の中の仕組みづくり等をしていけたらいいのではないかと思います。（男性、29歳以下）
- ・男性の育児などがあるが、制度の充実など安心したものが必要である。（男性、29歳以下）
- ・徳島自体が全体的に女性も応募しやすい求人が少ない。（あってもパートや派遣が多い）（女性、29歳以下）
- ・「特に企業内の制度を通じた男女平等の推進」が必要だと思います。これを進める事で初めて皆の意識が変化し10年、20年後の社会を変えることにつながると思うからです。（男性、30歳代）
- ・子育てについて、待機児童や保育の無償化など未就学児のことばかりが取り上げられているが、小学生の学童保育のことも考えてほしい。（女性、30歳代）
- ・男性だけ、または女性だけが重要視される職場の取組ではなく、男女双方、職として、または人としての人権を重んじた計画を立て、地域社会を活発にしていく取組を進めてほしい。（女性、30歳代）
- ・若い人より、年配の人の意識を変革しないことには進まない（特にマタハラ）。妊娠、出産しても安心して働き続けられる制度の充足と、その普及。もっと分かりやすく制度をかみくだいてほしい。（女性、30歳代）
- ・子どもの行事、病気の時に父親が当たり前休んでもいい社会にしてほしい。母親は家事、育児、仕事の両立で、くたくたに疲れている現状を分かってほしい。鳴門市の学童（児童クラブ）の月謝を安くして子育てをしやすくしてほしい。高齢者の介護サービスを充実させてほしい。パワハラをする人は、パワハラの自覚がないので、パワハラの啓発活動を多くしてほしい。（女性、40歳代）
- ・高齢者が安心して働ける場所をもっと多くしてほしい。（女性、50歳代）
- ・社会全体が、障がいや性別に関係なく安定した収入を得られる様に、働きやすい環境や企業の理解を得て助け合いながら仕事ができる、休みが取りたい時は休める、思いやりのある社会になってほしいと思います。（女性、50歳代）
- ・男女共同参画を進めるなら、女性が働きながら、子育てもできる環境の整備が必要不可欠。（女性、50歳代）
- ・育児中の若い人たちも、子どもが待機児童にならないよう、保育施設を考えてもらいたい。若い人たちは、共働きが多くなってきているので様々な問題をクリアできていければ良いなと思います。（女性、50歳代）
- ・両親とも共働きで、祖母の私自身も土曜日は休みではないので、保育所に預けていますが、とても気兼ねして預けています。預けやすい土曜日の保育の充実をしていただきたいです。（女性、50歳代）
- ・働きたい女性には差別のない処遇を求めます。家庭で活動する女性にも子育てに関して手当等の処遇をしてほしい。（男性、70歳代）

5 仕事と生活の調和について

- ・男女共に、ワーク・ライフ・バランスを図って生活できることが理想である。（女性、29歳以下）
- ・鳴門市が性別に関係なく子育てのしやすい地方公共団体としてモデルケースとなるよう、環境整備に積極的に取り組んでほしい。（男性、50歳代）
- ・女性が家庭生活と仕事との両立に伴い地域住民の活動や個々の意識を高める。例えば、町内会に議題を出して話し合う、勉強することが大切。（女性、60歳代）

6 あらゆる暴力の根絶について

- ・DV被害者が相談しやすい環境づくりは、今どのような事をして、その政策が市でどのように働いているのかを知りたい。（男性、29歳以下）
- ・警察と協力してDVなどをなくす取組が必要。（男性、30歳代）

7 その他

- ・LGBT（Q+）については、制度面の充実にとどめ、関係のない人への啓発をせずに、問題は当事者間で解決すべきだと思います。（男性、40歳代）
- ・育児と介護が重なった時、分担できる家族がいれば、大変ながらも頑張れると思います。母子家庭で子どもに障がいがあり、親の介護が重なり、お世話を変ってもらえない場合、仕事にも行けない。支援サービスの充実を願います。（女性、40歳代）
- ・自分が好きで専業主婦や主夫になっている人もいることを忘れないでほしい。パートナーと合意できていれば、個人個人は自由だと思います。でも！女性が差別される事に関しては許せません。（女性、40歳代）
- ・保守的な考えですが、結婚し子どもをもうける事は個人・地方・国にとっては必要不可欠であり、ハラスメントとして抑えつけすぎのような気がしています。年齢や不妊といったデリケートな問題でもありますが、性的マイノリティが浸透していくのと相まって子どもはいらぬ、つくらないと考える若い世代が増えていくのではないかと思います。（女性、40歳代）
- ・子どもたちの未来が良くなる政策を希望します。（女性、40歳代）
- ・弱い人を守るのは当然だが、あまりにも言い過ぎて立場が逆転したように思うのもあるわけで、差別と区別をごっちゃにしている。能力のある人はやればよいし、チャンスが均等であればよい。（男性、50歳代）
- ・各年代ライフステージに応じて、細やかな対応ができる社会の実現を望みます。人口の減少が続く中、鳴門で生活しやすいと言う社会の計画の実現を目指してほしいと思います。（女性、50歳代）
- ・人口減少の防止のため、女性はある程度、家庭にいた方が良く考えます。全てにおいて男女共同参画とするのは、増々少子化、働き手の減少を招くと思います。（女性、50歳代）
- ・全ての問題がより良い方向へと行くのが理想ですが、中でもこれから高齢者が増えて介護していく人たちの負担、離婚をせざるを得なくなる人たち、また介護への経済的負担など。（女性、50歳代）

- ・誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進し、お互いの意識が合い通ずるような社会の設計が必要。（男性、60歳代）
- ・ブレない「保育者の指導」を充実していただきたい。（女性、60歳代）
- ・啓発活動が浸透していない感じがする。（男性、70歳代）
- ・昔に比べ男女共同参画が少しずつ良い方向に進んでいると思う。（男性、70歳代）
- ・男女共に防災訓練へ多数の参加をしてほしい。（男性、80歳以上）
- ・LGBTについては、間違った理解ほどダメだと思います。当事者は、特別扱いは必要ないが、配慮が必要です。もっと住みやすい町づくりをしたいです。（性別不明、30歳代）

鳴門市 男女共同参画に関する市民意識調査

【ご協力をお願い】

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

鳴門市では「鳴門パートナーシッププラン（鳴門市男女行動計画）」に基づき、男女の人権が尊重され、元気で活力ある社会を築いていくために、男性も女性も、共に責任を分かち合い、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現をめざして、様々な施策に取り組んでいます。

この調査は、計画の見直しに当たって、18歳以上の市民の皆様の中から無作為に抽出した2,000人の方に、男女共同参画に関するご意見等をお伺いし、計画づくりに向けての基礎的な資料とさせていただくことを目的として実施するものです。

お忙しいところ誠にお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元（2019）年 12 月

鳴門市長 泉 理彦

記入に当たってのお願い

- 1 封筒の宛名の本人がお答えください。病気や身体の不自由などの理由で記入が難しい場合は、家族や介護者の方などが、本人の意向を尊重して、無理のない範囲で代筆してください。
 - 2 この調査票は黒の鉛筆またはボールペンで記入してください。
 - 3 回答は、あてはまると思う番号を○で囲んでください。また、各設問文にある（○印1つ）（○印いくつでも）などに注意して記入してください。
- ※ 回答は無記名であり、統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、本調査の目的以外に利用することはありません。

【調査に関する問合せ先】

鳴門市人権推進課
〒772-8501 徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜 170
TEL (088) 684-1148 FAX (088) 684-1370
E-Mail: jinkensuishin@city.naruto.i-tokushima.jp

この調査票は、**12月23日（月曜日）**までに、同封の返信用封筒に入れて、無記名で返送してください（切手は不要です）。



1 あなたご自身（宛名のご本人）のことについておたずねします

問1 あなたの性別をお答えください。（○印1つ）※自認する性別をお答えください。

1 男性	2 女性	3 ()
------	------	-------

問2 あなたの年齢をお答えください。（○印1つ）

1 18～24 歳	4 35～39 歳	7 50～54 歳	10 65～69 歳
2 25～29 歳	5 40～44 歳	8 55～59 歳	11 70～79 歳
3 30～34 歳	6 45～49 歳	9 60～64 歳	12 80 歳以上

問3 あなたの職業をお答えください。（○印1つ）

自営業主	1 農林水産業 2 商工・サービス業 3 自由業（開業医・弁護士・芸術家等）
自営業の 家族従事者	4 農林水産業 5 商工・サービス業 6 自由業（開業医・弁護士・芸術家等）
勤め人	7 正社員・正職員 8 公務員・団体職員 9 パート・アルバイト・派遣など
その他	10 内職・在宅就業 11 家事専業 12 学生 13 無職 14 その他 ()

付問「7」「8」と答えた方のみにおたずねします。あなたは管理職ですか。

1 管理職である
2 管理職ではない

問4 あなたは結婚をしていますか（事実婚・パートナーを含む）。（○印1つ）

1 結婚している
2 結婚していたが、離別・死別した -----> 問6へお進みください
3 結婚していない -----> 問6へお進みください

問5 【問4で「1」と答えた方のみにおたずねします。】

あなたと配偶者（パートナー）は、共働き（パート・アルバイト等を含む）ですか。

（○印1つ）

1 共働きである	2 共働きではない
----------	-----------

問6 あなたの同居家族の構成をお答えください。(○印1つ)

1 ひとり暮らし	4 祖父母と親と子(三世代世帯)
2 あなたと配偶者(パートナー)の二人暮らし	5 その他()
3 親と子(二世代世帯)	

問7 あなたの同居家族の中に、次の方(あなた自身を含む)はいますか。(○印いくつでも)

1 小学校入学前の子ども	4 介護を必要とする方
2 小学生の子ども	5 障がいのある方
3 65歳以上の方	6 いずれもない

問8 【問7で「1~2」と答えた方のみにおたずねします。それ以外の方は問9にお進みください。】

同居しているお子さんは何人いらっしゃいますか。(○印1つ)

1 1人	2 2人	3 3人	4 4人以上
------	------	------	--------

2 男女平等意識についておたずねします

問9 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。(1)から(8)までの項目について、それぞれお答えください。(○印1つずつ)

	非常に優遇されている 男性の方が	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	非常に優遇されている 女性の方が	わからない
(1) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(2) 職場(仕事の間)では	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の間では	1	2	3	4	5	6
(4) 自治会などの地域活動の間では	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の間では	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体では	1	2	3	4	5	6

4 家庭生活についておたずねします

問 18 あなたの家庭では、現在、子育てと介護を同時に行っていますか、または同時に行っていたことがありますか。(O印1つ)

- 1 同時に行っている(行っていた) 2 同時に行っていない → 問 20 へ

問 19 【問 18 で「1」と答えた方のみにおたずねします。】

主に、子育てと介護を同時に行っている(行っていた)のは誰ですか。(O印1つ)

- 1 お子さんの父親 3 お子さんの祖父 5 その他の方
2 お子さんの母親 4 お子さんの祖母

問 20 日常生活における、「仕事」と「家庭生活」のバランスについて、①あなたの希望する(理想とする)優先度と②実際の(現実の)優先度をお答えください。(O印1つずつ)

①あなたの希望(理想)は →	1 仕事を優先する 2 家庭生活を優先する 3 仕事と家庭生活を両立する
②実際(現実)は →	1 仕事を優先している 2 家庭生活を優先している 3 仕事と家庭生活を両立している

問 21 あなたの家庭では、(1)から(6)までの項目について、主に誰が担っていますか。現在一人暮らしの方は、過去の生活のことをお答えください。(O印1つずつ)

現 実	主に夫または父	主に妻または母	夫婦または父母が協力して	その他の人	わからない・する必要がない
(1) 生活費を得る	1	2	3	4	5
(2) 日常の家事(食事のしたく・掃除・洗濯など)	1	2	3	4	5
(3) 日常の家計の管理	1	2	3	4	5
(4) 家族の介護や看護	1	2	3	4	5
(5) 子育て(育児・しつけなど)	1	2	3	4	5
(6) 地域活動(自治会やPTA、ボランティアなど)	1	2	3	4	5

問 22 あなたは、(1) から (6) までの項目について、主に誰が担うのが理想だと思いますか。
(○印1つずつ)

理 想	主に夫または父	主に妻または母	夫婦または 父母が協力して	その他の人	わからない・ する必要がない
(1) 生活費を得る	1	2	3	4	5
(2) 日常の家事(食事のしたく・掃除・洗濯など)	1	2	3	4	5
(3) 日常の家計の管理	1	2	3	4	5
(4) 家族の介護や看護	1	2	3	4	5
(5) 子育て(育児・しつけなど)	1	2	3	4	5
(6) 地域活動(自治会やPTA、ボランティアなど)	1	2	3	4	5

問 23 あなたが、1日に「家事」に費やす時間はどのくらいですか。(○印1つ)

※「家事」とは、食事のしたく、掃除、洗濯、買物などに加え、育児や介護も含まれます。

1 1時間未満	5 5～7時間未満
2 1～2時間未満	6 7～9時間未満
3 2～3時間未満	7 9時間以上
4 3～5時間未満	8 家事には関わらない → 問 25 へお進みください

問 24 【問 23 で「1～7」と答えた方のみにおたずねします。】

そのうち、育児や介護に費やす時間はどのくらいですか。(○印1つ)

1 1時間未満	5 5～7時間未満
2 1～2時間未満	6 7～9時間未満
3 2～3時間未満	7 9時間以上
4 3～5時間未満	8 育児や介護には関わらない

問 25 あなたは、どのような子どもの育て方が望ましいと思いますか。(○印いくつでも)

1 男女の役割を固定せず、しつけや教育は男女を区別しないで育てる
2 男女共に、身の回りの家事ができるように育てる
3 男女共に、社会人として自立できるように育てる
4 男女共に、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる
5 男は外で働き、女は家庭を守るように育てる
6 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる
7 男女にかかわらず、子どもの個性に応じて育てる
8 その他 ()
9 わからない

6 暴力等の防止についておたずねします

問 28 あなたは、次の①から④までの行為について経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（○印それぞれいくつでも）

下記の「用語の解説」もお読みください。	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がいる	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある (与えたかもしれない)	被害を受けたり、与えたりしたことはない (見聞きしたことはない)
① セクシュアルハラスメント（セクハラ）	1	2	3	4	5
② パワーハラスメント（パワハラ）	1	2	3	4	5
③ マタニティハラスメント（マタハラ）	1	2	3	4	5
④ ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3	4	5

用語の解説

① セクシュアルハラスメント（セクハラ）

・職場などにおいて、相手の望まない性的な言動のこと（性的嫌がらせ）。相手は異性に限らず、同性同士でも起こる場合があります。

② パワーハラスメント（パワハラ）

・職場などにおいて、職務上の地位や人間関係などといった権力（パワー）を利用して、精神的・身体的苦痛を与える行為や職場環境を悪化させる嫌がらせ行為のこと。ただし、業務上必要な指示や注意・指導などはパワハラにはあたりません。

③ マタニティハラスメント（マタハラ）

・職場などにおいて、働く女性が妊娠や出産を理由に精神的・肉体的な苦痛を受ける嫌がらせ行為のこと。妊娠や出産を理由とした解雇、雇用契約の変更などもマタハラにあたります。

④ ドメスティック・バイオレンス（DV）

・夫婦や恋人などの親密な関係にある（あった）パートナーからふるわれる暴力のこと。

- (1) 身体的暴力（殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張る など）
- (2) 精神的暴力（大声で怒鳴る、無視する、大切にしているものを壊す など）
- (3) 経済的暴力（生活費を渡さない、外で働くことを邪魔する など）
- (4) 性的暴力（性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠中絶を強要する など）
- (5) 社会的隔離（勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限する など）
- (6) 子どもを巻き込んだ暴力（子どもに暴力を見せる、子どもの前でパートナーをバカにする など）

問 29 【問 28④ドメスティック・バイオレンス（DV）で「1～3」と答えた方のみにおたずねします。】
あなたは、経験したことや見聞きしたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○印いくつでも)

- 1 家族・親族に相談した
- 2 友人・知人に相談した
- 3 同じような経験をした女性に相談した
- 4 法務局（人権相談所）に相談した
- 5 徳島県こども女性相談センター（中央・南部・西部）に相談した
- 6 ときわプラザ（県立男女共同参画交流センター）フレアとくしま相談室に相談した
- 7 市の相談窓口や鳴門市女性子ども支援センター『ぱあとなー』に相談した
- 8 家庭裁判所・弁護士・警察署などに相談した
- 9 医師やカウンセラーなどに相談した
- 10 人権擁護委員または人権相談窓口相談した
- 11 その他（)
- 12 どこ（だれ）にも相談しなかった → 問 30 へお進みください

問 30 【問 29 で「12」と答えた方のみにおたずねします。】
あなたが「どこ（だれ）にも相談しなかった」のは、なぜですか。(○印いくつでも)

- 1 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 2 そのことについて思い出したくなかったから
- 3 仕返しなど、もっとひどいことをされと思ったから
- 4 自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから
- 5 自分にも悪いところがあると思ったから
- 6 他人を巻き込みたくなかったから
- 7 世間体が悪いから
- 8 どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから
- 9 相談しても無駄だと思ったから
- 10 相談窓口の対応が悪く、不快な思いをと思ったから
- 11 相談するほどのことではないと思ったから
- 12 その他（)

7 性的マイノリティ「LGBT（Q+）」等についておたずねします

問34 あなたは「LGBT（Q+）」「性的マイノリティ」という言葉や意味を知っていますか。
（○印1つ）

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 内容（意味）をよく知っている | 3 言葉（名称）は知っている |
| 2 内容（意味）を少しは知っている | 4 全く知らない |

性的マイノリティ「LGBT（Q+）」とは

・「セクシュアル・マイノリティ」とも言われ、性的な少数者という意味です。例えば、性別に違和感を抱えている人や、恋愛感情などが異性に向かう多数派ではない人、身体的な性別や性自認が不明瞭な人などのことを言います。性的マイノリティの方々の中には、日常生活で様々な精神的苦痛や孤立感をはじめとした、生きづらさを感じている方もいます。

L：レズビアン G：ゲイ B：バイセクシュアル（両性愛者）

T：トランスジェンダー（性的違和感を持つ方） Q：クエスチョニング、クィア +：その他

問35 あなたのまわりに性的マイノリティの当事者がいると思いますか。（○印1つ）

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 1 いると思う | 2 いないと思う | 3 わからない |
|---------|----------|---------|

問36 性的マイノリティのような多様な性の人たちが暮らしやすい社会をつくるために、どのような取組が必要だと思いますか。（○印いくつでも）

- | |
|------------------------------------|
| 1 多様な性の人たちに配慮した社会制度の整備 |
| 2 多様な性に関する意識啓発活動 |
| 3 多様な性についての専門の相談機関の整備（電話相談や面接相談など） |
| 4 その他（
） |

問37 性的マイノリティのほかにも、障がい者や被差別部落の人々、在日外国人やアイヌの人々など、社会的少数者（マイノリティ）と言われる人たちの中には、様々な差別に苦しんでいる人が少なくありません。このような人たちが暮らしやすい社会をつくるために、今後、鳴門市はどのような人権課題の解決にさらに取り組むべきだと思いますか。（○印いくつでも）

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 障がい者の人権 | 9 同和問題（部落差別） |
| 2 子どもの人権 | 10 外国人の人権（ヘイトスピーチなど） |
| 3 高齢者の人権 | 11 性的マイノリティを理由とする人権問題 |
| 4 女性の人権 | 12 刑を終えて出所した人の人権 |
| 5 災害に起因する人権問題 | 13 ホームレスの人の人権 |
| 6 インターネットやスマートフォン等による人権侵害 | 14 HIV感染者・ハンセン病患者の人権 |
| 7 犯罪被害者とその家族などの人権 | 15 アイヌの人々の人権 |
| 8 拉致問題 | 16 人身取引（売買） |
| | 17 特に関心がない |

8 男女共同参画の取組についておたずねします

問 38 鳴門市では、男女共同参画に関連する広報等を通じた情報提供や、セミナーやイベント、講座などを開催しています。このうち、あなたがご存知のものをお答えください。（〇印いくつでも）

- 1 市が提供する男女共同参画に関するパンフレット
- 2 市の広報紙「広報なると」
- 3 市のテレビ広報
- 4 人権に関するセミナー
- 5 男女共同参画に関する出前講座
- 6 人権文化祭
- 7 婦人会館や公民館等での男女共同参画に関する生涯学習・講座など
- 8 いずれも知らない → [問 40 へお進みください](#)

問 39 [【問 38 で「1～7」と答えた方のみにおたずねします。】](#)

男女共同参画に関連する情報や、参加したセミナーやイベントは、あなたにとって役に立つ内容でしたか。（〇印1つ）

- 1 とても役に立った
- 2 どちらかといえば役に立った
- 3 あまり役に立たなかった
- 4 役に立たなかった

問 40 あなたは、今後、市が開催する人権や男女共同参画に関するセミナーやイベント、生涯学習などに参加（観覧）してみたいと思いますか。（〇印1つ）

- 1 是非参加したい
- 2 機会があれば参加したい
- 3 あまり参加したいとは思わない
- 4 参加しない



問 41 あなたは、次の言葉をご存知でしたか。（○印1つずつ）

	よく知っている	内容（意味）を少しは知っている	言葉（名称）は知っている	全く知らない
<p>① <u>男女共同参画社会基本法</u> 性別に関わりなく、一人ひとりの個性を尊重し、個人の能力を十分に発揮することができる社会を実現するための取組等を定めた法律。</p>	1	2	3	4
<p>② <u>鳴門市男女共同参画推進条例</u> 全ての人対等なパートナーとして助け合い、支え合い、幸せを分かち合うまちづくりを実現するために、平成 27（2015）年に鳴門市が制定した条例。</p>	1	2	3	4
<p>③ <u>ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）</u> 「仕事」と「仕事以外の生活（育児や介護、趣味、学習、地域活動等）」とのバランスをとり、その両方を充実させる働き方、生き方のこと。</p>	1	2	3	4
<p>④ <u>女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）</u> 働く場面で活躍したい全ての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するため、事業主に数値目標を盛り込んだ行動計画の策定や情報の公表などを義務付けた法律。 （常時雇用する労働者が 300 人以下の民間企業等は努力義務）</p>	1	2	3	4
<p>⑤ <u>配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）</u> 配偶者からの暴力に係る通報・相談・保護・自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的として平成 13（2001）年に制定された法律。</p>	1	2	3	4

問 42 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇印5つまで）

1 男女共同参画の広報・啓発活動を充実する
2 人権や個人の尊重についての啓発や情報提供に取り組む
3 LGBT（Q+）など、多様な性に対する理解を促進する
4 学校での男女共同参画についての教育を充実する
5 社会教育など生涯学習の場で男女共同参画についての教育を充実する
6 DVや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める
7 DV等により人権を侵害された被害者を支援する取組を進める
8 市が開催する会議など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
9 女性を対象とした人材育成のための取組を進める
10 企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する
11 誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する
12 男女共同参画推進に取り組む住民活動を支援する
13 外国人など多様な人との交流など、多文化共生の理解を進める
14 心身の特性に応じた生涯にわたる健康づくりを進める
15 育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する
16 子育て支援サービスを充実する
17 高齢者や障がいのある人への介護・介助を支援するサービスを充実する
18 非正規労働者やひとり親家庭など、生活上の困難に直面する家庭を支援する
19 その他（ ）
20 特になし

問 43 あなたは、女性の意見は行政施策に反映されていると思いますか。（〇印1つ）

1 十分反映されている	4 ほとんど反映されていない
2 ある程度は反映されている	5 わからない
3 あまり反映されていない	

問 44 男女共同参画についてのご意見・ご要望など、どのようなことでもご自由にお書きください。

～ご協力ありがとうございました～

**鳴門市 男女共同参画に関する
市民意識調査報告書**

発 行 / 令和 2 (2020) 年 3 月

発 行 者 / 徳島県 鳴門市

問 合 せ 先 / 鳴門市人権推進課

〒772-8501 徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜 170

TEL (088) 684-1148

FAX (088) 684-1370

E - Mail / jinkensuishin@city.naruto.i-tokushima.jp
